

平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕
結果報告

平成31年2月22日(金)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査結果の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎国語	
	(1) 結果の概要	8
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	10
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	16
	(4) 地域別の状況	26
	◎社会	
	(1) 結果の概要	28
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	30
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	36
	(4) 地域別の状況	46
	◎算数・数学	
	(1) 結果の概要	48
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	50
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	56
	(4) 地域別の状況	66
	◎理科	
	(1) 結果の概要	68
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	70
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	76
	(4) 地域別の状況	86
	◎英語	
	(1) 結果の概要	88
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	90
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	93
	(4) 地域別の状況	97

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成30年12月4日(火)、5日(水)

3 調査内容

- 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・小4、小5、小6 国語、社会、算数、理科
 - ・中1、中2 国語、社会、数学、理科、英語

4 調査方法

- 教科に関する調査
 - ・小学校 各教科 45分 各学校で時間を設定して実施
 - ・中学校 各教科 50分 各学校で時間を設定して実施

5 調査の成果指標

○ 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	165	第4学年	7,706
		第5学年	7,648
		第6学年	7,549
中学校	95	第1学年(県立中学校を含む)	6,903
		第2学年(県立中学校を含む)	7,051
		計	36,857

公立小学校数は、県立特別支援学校小学部（4校）及び義務教育学校前期課程（6校）を含む。
公立中学校数は、県立中学校（4校）、県立特別支援学校中学部（4校）及び義務教育学校後期課程（6校）を含む。

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成20年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに以下のような「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

- 「十分達成」の到達基準…学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）
- 「おおむね達成」の到達基準…最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 小・中学校別期待正答率

(注)上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易		普通		困難			
小学校	基礎的・基本的	(A)	0.85(85%)	(B)	0.80(80%)				
			0.65(65%)		0.60(60%)				
	発展的・応用的	(C)	0.75(75%)	(D)	0.70(70%)			(E)	0.65(65%)
			0.55(55%)		0.50(50%)				0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A)	0.75(75%)	(B)	0.70(70%)				
			0.55(55%)		0.50(50%)				
	発展的・応用的	(C)	0.65(65%)	(D)	0.60(60%)			(E)	0.55(55%)
			0.45(45%)		0.40(40%)				0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

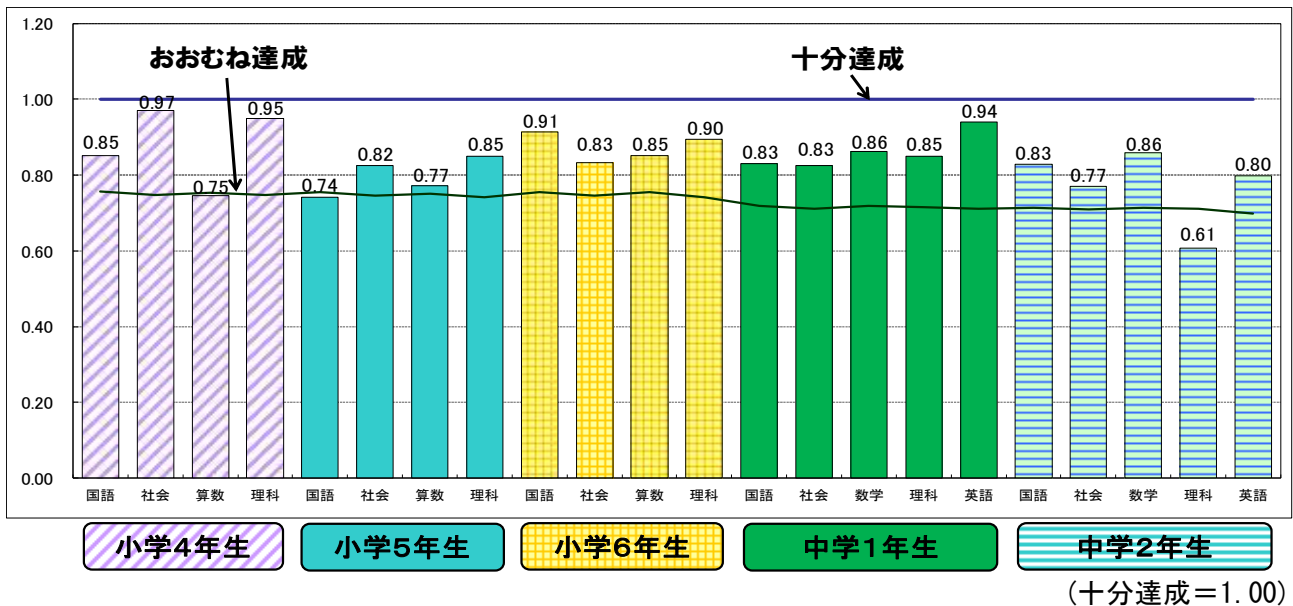
(1) 平成 30 年度[12 月調査]の結果

- 平成 30 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注1〕参照)に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22 教科中 19 教科(小学校 12 教科中 10 教科、中学校 10 教科中 9 教科)であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 小学 4 年生の算数と小学校 5 年生国語、中学 2 年生の理科が、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られた。

【表 1】各学年・教科の到達状況

教科	平成 30 年度[12 月調査]の到達状況				平成 29 年度[12 月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	70.1	82.3	62.3	0.85	66.1	81.0	61.0	0.82
小4社会	76.8	79.2	59.2	0.97	74.1	78.4	58.4	0.95
小4算数	60.6	81.2	61.2	0.75	61.9	81.4	61.4	0.76
小4理科	75.1	79.1	59.1	0.95	71.5	79.3	59.3	0.90
小5国語	60.3	81.3	61.3	0.74	67.3	80.2	60.2	0.84
小5社会	64.4	78.6	58.6	0.82	61.9	79.1	59.1	0.78
小5算数	61.9	80.2	60.2	0.77	70.6	80.6	60.6	0.88
小5理科	65.8	77.5	57.5	0.85	58.0	78.3	58.3	0.74
小6国語	74.6	81.7	61.7	0.91	71.1	80.2	60.2	0.89
小6社会	65.2	78.4	58.4	0.83	63.5	77.3	57.3	0.82
小6算数	69.4	81.5	61.5	0.85	68.7	80.6	60.6	0.85
小6理科	69.2	77.3	57.3	0.90	63.0	78.9	58.9	0.80
中1国語	59.1	71.1	51.1	0.83	62.8	70.0	50.0	0.90
中1社会	57.1	69.2	49.2	0.83	56.0	69.3	49.3	0.81
中1数学	61.2	71.0	51.0	0.86	55.1	71.1	51.1	0.77
中1理科	59.4	70.0	50.0	0.94	55.0	70.2	50.2	0.78
中1英語	65.2	69.4	49.4	0.83	65.2	69.6	49.6	0.94
中2国語	57.8	69.7	49.7	0.83	64.1	70.3	50.3	0.91
中2社会	53.1	69.0	49.0	0.77	50.6	68.0	48.0	0.74
中2数学	60.0	69.8	49.8	0.86	50.0	70.0	50.0	0.71
中2理科	42.2	69.5	49.5	0.61	49.0	70.2	50.2	0.70
中2英語	53.0	66.4	46.4	0.80	53.4	66.8	46.8	0.80

[グラフ1] 平成30年[12月調査] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合



(2) 平成30年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成30年度[4月調査]の割合を上回ったものは、9教科中5教科であった。

[表2] 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況(平成30年度[4月調査]との比較)

教科	平成30年度[12月調査]の到達状況				平成30年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	60.3	81.3	61.3	0.74	66.6	82.7	62.7	0.81
小5算数	61.9	80.2	60.2	0.77	70.6	80.9	60.9	0.87
小6国語	74.6	81.7	61.7	※ ¹ ↑0.91	※ ² 65.0	※ ³ 79.0	※ ³ 59.0	0.82
小6算数	69.4	81.5	61.5	※ ¹ ↑0.85	※ ² 57.0	※ ³ 76.7	※ ³ 56.7	0.74
小6理科	69.2	77.3	57.3	※ ¹ ↑0.90	※ ² 61.3	※ ³ 75.6	※ ³ 55.6	0.81
中1国語	59.1	71.1	51.1	0.83	69.5	82.7	62.7	0.84
中1数学	61.2	71.0	51.0	※ ¹ ↑0.86	67.1	81.1	61.1	0.83
中2国語	57.8	69.7	49.7	0.83	59.1	69.7	49.7	0.85
中2数学	60.0	69.8	49.8	※ ¹ ↑0.86	53.8	69.2	49.2	0.78

平成30年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年は、小学6年までの内容)を、また、平成30年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

- ※1 [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成30年度[4月調査]と比較して上回っている教科を示している。
- ※2 平成30年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、A問題とB問題とを合わせたときの正答率を示している。
- ※3 平成30年度[4月調査]の小6国語、小6算数、小6理科については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

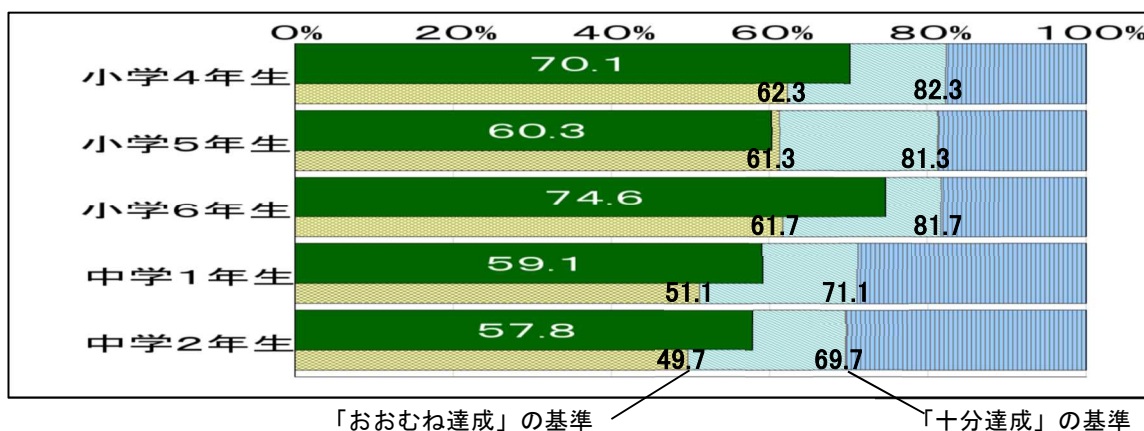
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

国 語

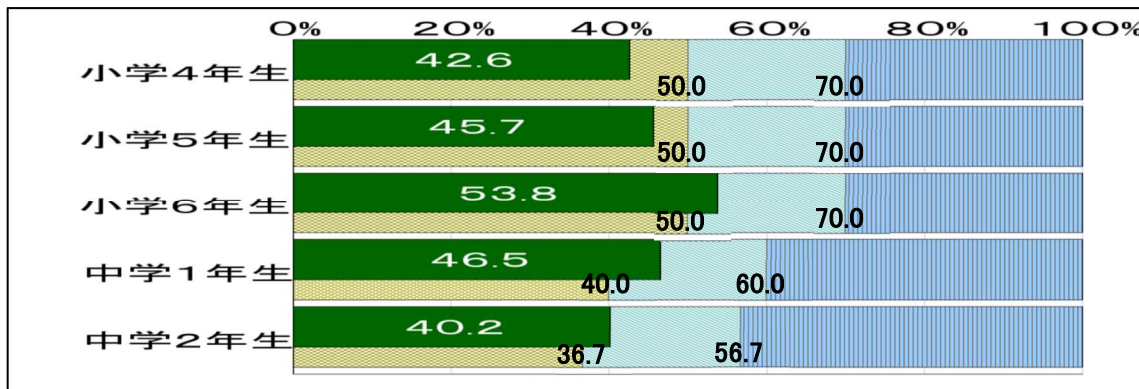
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学4年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「知識・理解・技能」については、小学4年生、小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学6年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読む能力」については、小学6年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学4年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学6年生で「十分達成」の基準を上回っており、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

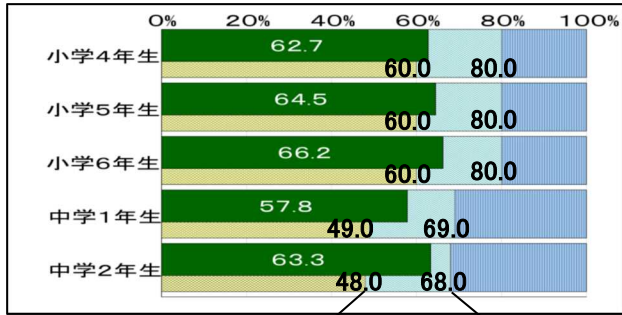
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率

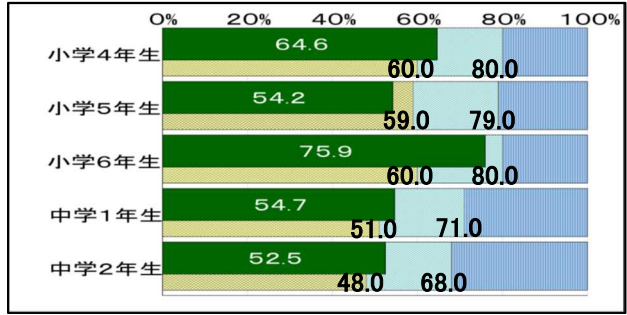


[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

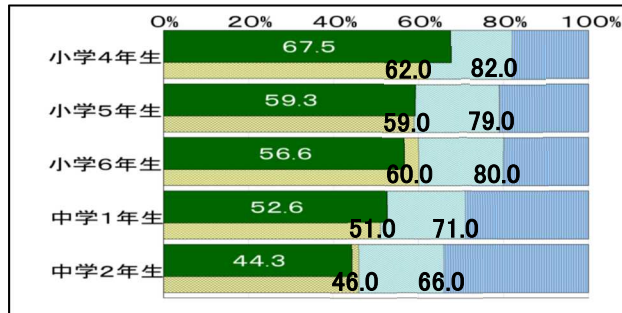


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

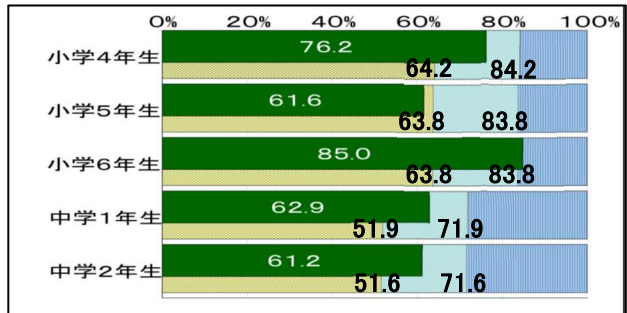
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



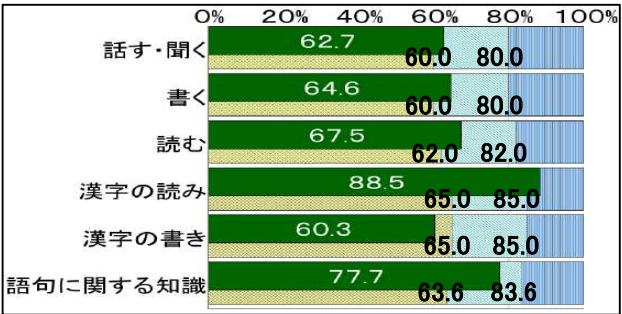
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



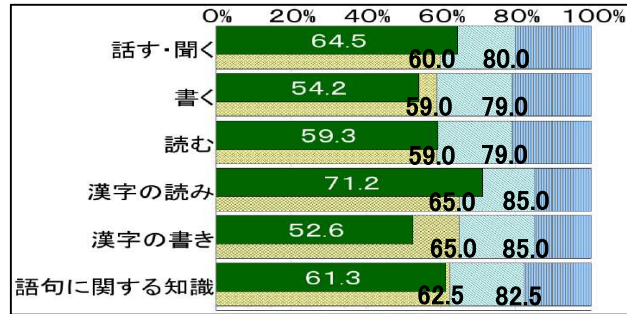
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



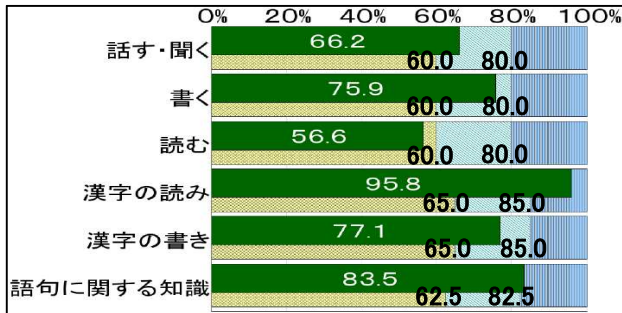
[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



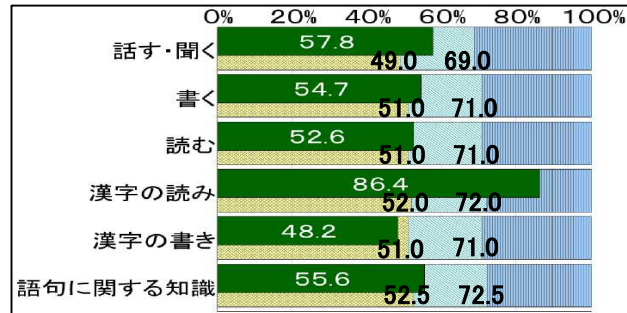
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



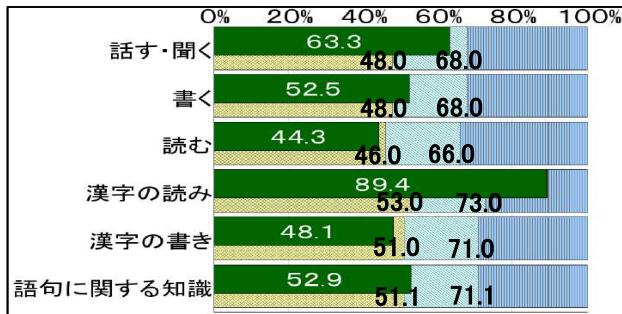
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 指示語の役割を理解したり、接続語を使って一文を二文にしたり、同音異義語の意味や熟語の構成を理解したりすることができている。
(小学4年生 $\boxed{5}$ 五①②③、小学5年生 $\boxed{5}$ 六、小学6年生 $\boxed{5}$ 五六)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。
(小学4年生 $\boxed{5}$ 一、小学6年生 $\boxed{5}$ 一)
- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分からない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりすることに課題が見られる。(小学4年生 $\boxed{1}$ 五、小学5年生 $\boxed{1}$ 五)
- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生 $\boxed{3}$ 三、小学5年生 $\boxed{3}$ 一、小学6年生 $\boxed{3}$ 二)
- ◆ 3 文章の内容を的確に捉えることに課題が見られる。
(小学4年生 $\boxed{4}$ 二、小学5年生 $\boxed{4}$ 一、小学6年生 $\boxed{4}$ 二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分からない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童が、必然性をもって話したり聞いたりすることができる課題や場面を設定していますか。
 - 教師の演示などによる質問のモデルを提示して、話の展開に沿った質問を具体的に示したり、児童が自分の質問について振り返る機会を設定したりしていますか。
 - 自分の考えをまとめることができるようにするために、話し手の意図は何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを整理しながら聞いたり、自分の考えを表現したり交流したりする機会を設定したりしていますか。
- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりする力を育成するためには、文学的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 登場人物の性格や特徴、物語の構成、表現の特徴などを、児童が理解することができるように指導していますか。
 - 出されたそれぞれの考えの共通点や相違点などを明らかにし、ものの見方や考え方を広げることができるような交流の機会を設定していますか。
 - 叙述を基に自分の考えをまとめることができるようにするために、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、自分の表現に生かすことができるように指導していますか。
- ◆ 3 文章の内容を的確に捉える力を育成するためには、説明的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書き手がどのような事例を挙げ、考えの理由や根拠としているかを捉えることができるように指導していますか。
 - 文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読むように指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（小学校国語科）

- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分らない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりすることに課題が見られる。

《小学校4年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1 五	話の中心に気を付けて聞き、分らない点や確認したい点を質問をする (記述式)	取材のときに、取材に行く前に友達に話している内容や、取材の一部から、どのような質問をしたかを記述する。	38.9	9.1	70.0	50.0

【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から、【取材の一部】の中で尋ねていないことについて質問することを考えて書いていること。
- ②話すように書いていること。
- ③一文で書いていること。

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・話すように一文にすることはできているが、「ぼくもいつか団長になってみたいです。」のように質問することができていない。
- ・話すように一文で質問することはできているが、「では、運動会で成功して思ったことはどんなことですか。」のように【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から質問することができていない。
- ・話すように一文で質問することはできているが、「その中でも一番大変だったことは、何ですか。」のように【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から、【取材の一部】の中で尋ねていないことについて質問することができていない。

■ 改善・充実に向けて

話すように一文で質問することはできていますが、目的に応じて話を聞き、話の展開に沿って質問することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・知らなかったことに気付いたり、自分の考えを深めたりする話題を取り上げ、児童が必然性をもって話したり聞いたりすることができるようにする。
- ・教師の演示などによるインタビューや質問のモデルを提示して、話の展開に沿った質問の仕方を具体的に示したり、児童が自分のインタビューや質問の仕方を振り返る機会を設定したりする。
- ・話す活動だけでなく、聞く活動の見通しを具体的にもたせる。学習の導入場面において、聞く際の観点を示したり、聞く活動の後に自分の考えを表現・交流する活動を行うことを伝えたりする。

- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。

《小学校6年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3 二	叙述を基に、自分の考えをまとめる (記述式)	物語文中の「新しいこと」とはどのようなことを表すのか、その内容を記述する。	47.7	9.5	70.0	50.0
<p>【正答の条件】 「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書いているものを正答とする。ただし、人物の名前をひらがなで書いているものも正答とする。</p>						

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書くことはできているが、「前の町に行っても、亮太と一平と駿と森田君がはなればなれのままになること。」のように叙述を基にせず想像したことを書いており、「新しいこと」について読み取ることができていない。
- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書くことはできているが、「一平が亮太の知らない猫の話を始め、駿や森田君も話しているが、何を話していいかわからなくなるような話。」のように「新しいこと」について、読み取ることができていない。
- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使い、「新しいこと」の内容に触れることはできているが、「亮太が転校してから、一平、駿、森田君は、ねこのうわさがひろまっていること。」のように主語と述語の関係や助詞を適切に用いて表現することができていない。

■ 改善・充実に向けて

叙述を基に想像しながら自分の考えをまとめることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・登場人物の性格や特徴、物語の構成、表現の特徴などを児童が理解することができるような活動を位置付ける。特に、高学年では、優れた叙述に着目して読むことや、登場人物の心情の変化について図示する活動を位置付ける。
- ・叙述を取り上げながら、「叙述を基にしてどのように考えたのか」を交流することで、出されたそれぞれの考えの共通点や相違点などを明らかにし、ものの見方や考え方を広げることができるような交流の機会を設定する。
- ・叙述を基に自分の考えをまとめることができるような活動を位置付ける。象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などを見付け、その表現や内容を生かしたモデル文を示してそれを基に自分の考えをまとめる機会を設定する。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校国語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 相手に分かりやすい語句を選択して話したり、目的に応じて資料を効果的に活用して話したりすることができる。
(中学1年生¹二、中学2年生¹二)
- ◇ 話し手の意図を捉えて質問したり、相手の立場や考えを尊重し、自分の考えを広げたりすることができる。
(中学1年生¹三、中学2年生¹五)
- ◆1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫したり、目的に沿った話合いになるように適切に意見を述べたりすることに一部課題が見られる。
(中学1年生¹四、中学2年生¹四)
- ◆2 表記の仕方を確かめて分かりやすい文にしたり、具体例を加えて、感想を分かりやすく伝えたりすることに課題が見られる。
(中学1年生²一、中学校2年生²五)
- ◆3 説明文の表現の特徴を捉えたり、小説の文章の展開について自分の考えをもったりすることに課題が見られる。
(中学1年生³二、中学2年生⁴二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫したり、目的に沿った話合いになるように適切に意見を述べたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 全体と部分との関係に注意して話を構成するために、生徒が最も伝えたいことと、それを伝えるための構成メモ等を作成し、全体と部分とを意識して話をしたり、聞いたりすることができるようにしていますか。
 - 話合い全体の目的と展開を意識できるように簡単な進行表を用意し、現在、話していることと、次の話題とのつながりを生徒が意識することができるようにしていますか。
- ◆2 表記の仕方を確かめて分かりやすい文にしたり、具体例を加えて、感想を分かりやすく伝えたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 文章を書いた後に、一文の長さ、文のねじれ、同じ助詞の多用等、推敲するための観点をチェックシート等で分かりやすく示した上で、生徒が読み返す習慣を付けていますか。
 - 書いた文章について考えを交流する場面では、生徒が、互いの文章について質問する機会を設け、「意見について例示がなされているか」「その例が適切で分かりやすいものになっているか」ということを、生徒自身が問うことができるようにしていますか。
- ◆3 説明文の表現の特徴を捉えたり、小説の文章の展開について自分の考えをもったりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 説明文の表現の特徴を捉えることができるようにするために、生徒が、他の説明文と比べ読みを行うことで、筆者の表現の特徴が分かるようにしていますか。また、評論文や意見文など他の文章の種類と比べ読みを行うことで、文章の種類による叙述の特徴が分かるようにしたりしていますか。
 - 登場人物の描写を整理し、それを根拠として登場人物の心情を説明するために、生徒が、他の登場人物の描写と比較したり、時系列で心情描写や行動描写の変化を図示したりすることができるようにしていますか。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校国語科）

◆ 1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫することに一部課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1 四	全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫する。 (選択式)	文章全体のまとめとしてふさわしい内容を考える。	53.1	0.7	70.0	50.0

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「イ 山田さんの周りでも言葉を違った意味で捉えている人が多いこと」や「エ 『国語に関する世論調査』にも同様の例が多く見られること」を選択している生徒は、自身が前述した例を再度提示することに不自然さを感じておらず、全体と部分の関係に注意して話の構成を考えることができていない。
- ・「ウ 山田さんも『煮詰まる』を間違った意味で捉えていたこと」は、先生とのやり取りで明らかになった事実であり、ウを選択している生徒は、設問にある「山田さんが先生とのやり取りで考えたこと」を入れた方が、発表のまとめとしてよいのではないかという意見を考慮することができていない。

■ 改善・充実に向けて

事実から導き出した考えを文章全体として述べたいことに結び付けて文章全体のまとめとすることに課題が見られます。また、問題文の中にある「その内容」という言葉が指すものが、②に入る「山田さんが先生とのやり取りで考えたこと」であるという照応の関係が読み取れていないという課題も見られます。この課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・取材した材料や事実、自分の考えや意見をどのように配列して話の全体を構成するかということについて、授業者が示したモデルのスピーチ原稿を読んで考える活動を授業に位置付ける。
- ・話の全体として伝えたいことを明確にして、それを分かりやすく伝えることができるようにするためにスピーチについて授業者が示したチェックポイントに基づいてグループで助言をしたり、録画した映像を見て自己点検したりするなどの活動を授業に位置付ける。
- ・短い文章の中の論理構成を正しく捉えることができるようにするために、主語・述語の関係や修飾・被修飾の関係を正しく捉えたり、指示語が指すものを的確に抜き出したりする活動を単元に位置付ける。

◆ 3 小説の文章の展開について自分の考えをもつことに課題が見られる。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4 二	文章の展開について自分の考 えをもつ。 (記述式)	登場人物の心情について、文 章の展開を踏まえて、考えを もつ。	19.3	31.0	55.0	35.0

【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①話し言葉で書いていること。
- ②野村さんの質問に対する答えを書いていること。
- ③話の展開を取り上げ、真郷と律を対比して書いていること。

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・登場人物の心情とそのような心情になった理由を書かなければならないという事は理解できているが、いずれかを正しく読み取ることができていない。
- ・登場人物の心情が表現されている部分を捉え、話し言葉で書くことはできているが、心情を正しく読み取ることができていない。

■ 改善・充実に向けて

登場人物の設定や物語の展開を踏まえて、描写を基に登場人物の心情を正しく捉えることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・登場人物の心情と言動や情景を結び付けるために、心情マップや心情曲線など登場人物の言動や情景描写等を基にして、心情の変化を図示する活動を授業に位置付ける。
- ・心情を表す語彙を充実するために、文章に用いられている心情を表す語句を抜き出して、用例とともにまとめる活動を授業に位置付ける。
- ・文章中に見られる表現の特徴について、自分の考えをまとめる活動や表現の特徴を模倣し、リライトする活動を授業に位置付ける。
- ・登場人物の人物像について、他の登場人物と比較するなどして登場人物の描写を整理し、根拠を明確にして説明する活動を授業に位置付ける。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学4年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,458	70.1	4.5	82.3	62.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.7	2.4	80.0	60.0	
	書く	5	64.6	2.6	80.0	60.0	
	読む	5	67.5	3.0	82.0	62.0	
	漢字の読み	3	88.5	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	60.3	8.7	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	77.7	7.2	83.6	63.6	
評価の観点	①話す・聞く	5	62.7	2.4	80.0	60.0	
	②書く	5	64.6	2.6	80.0	60.0	
	③読む	5	67.5	3.0	82.0	62.0	
	④知識・理解・技能	13	76.2	6.6	84.2	64.2	
問題形式	選択式	18	73.4	2.8	82.8	62.8	
	短答式	8	69.8	7.6	84.4	64.4	
	記述式	2	42.6	7.6	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	2	42.6	7.6	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	理由を挙げながら、筋道を立てて話す	○						○					63.3	0.5	85	65	▼
1	話の内容に関心をもって聞き、感想を述べて質問をする	○						○					75.8	0.6	85	65	
1	取材をして、調べたことの要点のメモをする	○						○					71.6	0.8	80	60	
1	取材をして、必要な事柄を整理してメモをする	○						○					64.0	1.1	80	60	
1	話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確認したい点を質問をする	○						○			○	○	38.9	9.1	70	50	▼
2	関心のある事柄などから書くことを決める	○						○					76.3	0.9	85	65	
2	段落相互の関係に注意して書く	○						○					77.8	1.1	80	60	
2	分かりやすく説明するために、図や写真を取り上げる	○						○					75.7	1.2	80	60	
2	必要に応じて、事例を挙げて書く	○						○					46.8	3.7	85	65	▼
2	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして、文章を書く	○						○			○	○	46.3	6.2	70	50	▼
3	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む	○						○					75.6	1.9	85	65	
3	登場人物の行動や会話に即して読む	○						○					76.5	2.1	80	60	
3	場面の様子に注意しながら読む	○						○					44.4	2.5	80	60	▼
4	叙述を基に、段落相互の関係を捉える	○						○					83.3	3.7	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	段落の内容を読み取り、事実関係を捉える		○					○		○			57.6	4.6	80	60	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「雨戸」			○				○		○			90.8	2.3	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「苦い」			○				○		○			92.1	2.0	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「荷台」			○				○		○			82.6	5.4	85	65		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「医者」				○			○		○			60.4	8.5	85	65	▼	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「屋根」				○			○		○			63.0	7.7	85	65	▼	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」				○			○		○			57.4	9.8	85	65	▼	
5	三	漢字の部首について理解する				○			○		○			86.6	5.2	85	65	◎	
5	四①	ローマ字を正しく書く「inu」				○			○		○			46.1	11.6	80	60	▼	
5	四②	ローマ字を正しく読む「とんぼ」				○			○		○			65.6	13.1	85	65		
5	五①	指示語の役割を理解する				○			○		○			90.0	4.4	85	65	◎	
5	五②	指示語の役割を理解する				○			○		○			90.9	4.5	85	65	◎	
5	五③	指示語の役割を理解する				○			○		○			86.7	4.9	85	65	◎	
5	六	ことわざの意味を理解する				○			○		○			77.8	6.6	80	60		

[表2] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,398	60.3	4.2	81.3	61.3	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	64.5	1.3	80.0	60.0	
	書く	5	54.2	1.9	79.0	59.0	▼
	読む	5	59.3	4.2	79.0	59.0	
	漢字の読み	3	71.2	3.5	85.0	65.0	
	漢字の書き	3	52.6	9.3	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	6	61.3	6.4	82.5	62.5	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	64.5	1.3	80.0	60.0	
	②書く	5	54.2	1.9	79.0	59.0	▼
	③読む	5	59.3	4.2	79.0	59.0	
	④知識・理解・技能	12	61.6	6.4	83.8	63.8	▼
問題形式	選択式	14	67.4	1.9	82.1	62.1	
	短答式	10	54.8	6.7	83.5	63.5	▼
	記述式	3	45.7	6.8	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	45.7	6.8	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話す	○											74.7	0.3	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫する	○											82.3	0.3	85	65	
1	三	自分の立場を明確にして話す	○											61.0	0.3	80	60	
1	四	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を考える	○											62.4	0.6	80	60	
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、考えをまとめる	○									○	○	41.9	5.2	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	○											72.7	0.3	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、記事に見出しを付ける	○											54.6	0.5	80	60	▼
2	三	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○								○			28.6	3.5	80	60	▼
2	四	事実と自分の感想を区別して書く	○											60.4	0.7	80	60	
2	五	目的や意図に応じて、詳しく書く	○									○	○	54.5	4.5	70	50	
3	一	物語を読んで、指示された部分についてのあらすじを書く	○									○	○	40.8	10.7	70	50	▼
3	二	叙述を基に、登場人物の心情、場面についての描写を捉える	○											75.7	2.5	80	60	
3	三	登場人物の関係や場面についての描写を捉える	○											53.9	3.2	80	60	▼
4	一	文章の内容を的確に捉える	○											62.5	2.1	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
4	二	段落の要点を捉える		○					○		○			63.3	2.5	80	60	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「汽笛」			○				○		○			53.7	4.9	85	65	▼
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「改める」			○				○		○			76.5	2.0	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「労働」			○				○		○			83.3	3.4	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「放送」				○			○		○			66.2	6.8	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「祝う」				○			○		○			52.0	10.9	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「旗」				○			○		○			39.7	10.4	85	65	▼
5	三1	漢字辞典の使い方を理解する					○		○		○			49.2	3.6	85	65	▼
5	三2	熟語の意味を理解する					○		○		○			39.9	3.7	80	60	▼
5	四	修飾と被修飾の関係を理解する																
5	五①	ローマ字を正しく書く「denki」					○		○		○			30.8	10.9	80	60	▼
5	五②	ローマ字を正しく読む「かんしゃ」					○		○		○			68.2	10.3	80	60	
5	六1	接続語を使って、一文を二文にする					○		○		○			90.1	4.9	85	65	◎
5	六2	接続語を使って、一文を二文にする					○		○		○			89.8	5.1	85	65	◎

[表3] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,332	74.6	1.7	81.7	61.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	66.2	1.1	80.0	60.0	
	書く	5	75.9	1.7	80.0	60.0	
	読む	5	56.6	2.7	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	95.8	0.8	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	77.1	3.2	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	83.5	1.1	82.5	62.5	◎
評価の観点	①話す・聞く	5	66.2	1.1	80.0	60.0	
	②書く	5	75.9	1.7	80.0	60.0	
	③読む	5	56.6	2.7	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	12	85.0	1.5	83.8	63.8	◎
問題形式	選択式	16	76.1	0.6	82.8	62.8	
	短答式	8	79.3	1.9	83.8	63.8	
	記述式	3	53.8	6.8	70.0	50.0	
活用	「活用」に関する問題	3	53.8	6.8	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	理由を挙げながら筋道を立てて話す	○					○					90.4	0.0	85	65	◎
1	二	話合いの意図を明確にしながら、計画的に話し合う	○					○					58.1	0.1	85	65	▼
1	三	相手の話を聞き取り、自分の考えを整理して質問をする	○					○					50.1	0.1	80	60	▼
1	四	目的に応じて、話の構成を工夫する	○					○					75.2	0.2	80	60	
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	○					○			○	○	57.3	4.9	70	50	
2	一	自分の考えが明確になるように文章を構成する	○					○					77.1	0.2	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、取材の内容や方法を考える	○					○					78.0	0.2	80	60	
2	三	文章の構成を考えて書く	○					○					87.2	0.2	85	65	◎
2	四	目的や意図に応じて、表現を工夫して書く	○					○		○			80.7	1.8	80	60	◎
2	五	助言を基に、自分の考えを深める	○					○			○	○	56.3	6.1	70	50	
3	一	場面についての描写を捉えて読む	○					○		○			37.3	0.9	85	65	▼
3	二	叙述を基に、自分の考えをまとめる	○					○			○	○	47.7	9.5	70	50	▼
4	一	事実と意見、感想などを区別して読む	○					○		○			90.0	0.5	85	65	◎
4	二	文章の内容を的確に押さえる	○					○		○			35.4	1.5	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	三	文章の要旨を捉える		○					○		○			72.7	1.0		80	60	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「余る」			○				○		○			94.9	0.8		85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「断る」			○				○		○			96.2	0.7		85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「規則」			○				○		○			96.4	0.9		85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「焼く」				○			○		○			79.6	2.0		85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「似ている」				○			○		○			81.6	2.8		85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「貿易」				○			○		○			70.0	4.7		85	65	
5	三1	文の中における主語・述語を捉える					○		○		○			79.1	1.0		85	65	
5	三2	文の中における主語・述語を捉える					○		○		○			70.7	1.2		85	65	
5	四1	国語辞典の使い方を理解する					○		○		○			90.2	0.9		85	65	◎
5	四2	慣用句の意味を理解する					○		○		○			79.3	1.0		80	60	
5	五	同音異義語の意味を理解する					○		○		○			90.0	1.2		80	60	◎
5	六	熟語の構成を理解する					○		○		○			91.6	1.3		80	60	◎

[表4] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,790	59.1	5.6	71.1	51.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	57.8	3.6	69.0	49.0	
	書く	5	54.7	3.5	71.0	51.0	
	読む	5	52.6	3.6	71.0	51.0	
	漢字の読み	5	86.4	4.0	72.0	52.0	◎
	漢字の書き	5	48.2	17.5	71.0	51.0	▼
	語句に関する知識	6	55.6	2.2	72.5	52.5	
評価の観点	①話す・聞く	5	57.8	3.6	69.0	49.0	
	②書く	5	54.7	3.5	71.0	51.0	
	③読む	5	52.6	3.6	71.0	51.0	
	④知識・理解・技能	16	62.9	7.5	71.9	51.9	
問題形式	選択式	13	57.4	0.9	73.5	53.5	
	短答式	14	65.2	8.9	71.4	51.4	
	記述式	4	43.6	9.4	62.5	42.5	
活用	「活用」に関する問題	3	46.5	10.6	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	分かりやすく伝えるために話の構成を工夫する	○					○					48.5	0.2	75	55	▼
1	二	相手に分かりやすい語句を選択する	○					○			○		66.9	7.2	70	50	
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○					○					79.6	0.4	75	55	◎
1	四	全体と部分との関係に注意して話を構成する	○					○					53.1	0.7	70	50	
1	五	伝えたいことを述べるために、どのような事実を取り上げるかを考えて話す	○					○			○	○	41.1	9.6	55	35	
2	一	表記の仕方を確かめて分かりやすい文にする	○					○					34.8	5.9	70	50	▼
2	二	伝えたい事柄について、効果的に書く	○					○					69.5	0.8	75	55	
2	三	材料を整理する	○					○			○	○	48.9	8.6	65	45	
2	四	根拠を明確にして書く	○					○					72.2	0.9	70	50	◎
2	五	目的や意図に応じた文章の構成を考える	○					○					48.1	1.1	75	55	▼
3	一	文脈の中における語句の意味を理解する	○					○					40.8	0.7	70	50	▼
3	二	説明文の表現の特徴を捉える	○					○					30.0	1.1	75	55	▼
4	一	小説の表現の特徴を捉える	○					○					67.9	1.2	75	55	
4	二	描写に注意して読む	○					○					75.0	1.2	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	三	登場人物の描写に注目し、内容を理解する			○				○			○	○	49.5	13.5	60	40	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「隣接」			○				○		○			73.8	9.4	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「延期」			○				○		○			96.7	0.8	70	50	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「快く」			○				○		○			75.4	7.2	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「縮める」			○				○		○			93.1	0.6	70	50	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「朗報」			○				○		○			92.9	1.8	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「在庫」				○			○		○			37.8	16.2	75	55	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「専門」				○			○		○			42.8	13.4	70	50	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「干す」				○			○		○			82.7	10.0	70	50	◎
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展望」				○			○		○			23.1	25.4	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの熟語)「垂れる」				○			○		○			54.4	22.7	70	50	
5	三	文節の区切りを理解する					○		○		○			50.5	1.2	70	50	
5	四	文脈の中で語句を正しく使う					○		○		○			31.8	0.9	70	50	▼
5	五	語句の意味を文脈に即して理解する					○		○		○			69.2	1.2	75	55	
5	六1	古典には様々な種類の作品があることを知る					○		○		○			60.2	1.5	75	55	
5	六2	古文のおおよその内容を理解する					○		○		○			55.5	4.1	70	50	
5	六3	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○		○			66.7	4.1	75	55	

[表5] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,885	57.8	9.2	69.7	49.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	63.3	5.7	68.0	48.0	
	書く	5	52.5	9.4	68.0	48.0	
	読む	5	44.3	10.7	66.0	46.0	▼
	漢字の読み	5	89.4	2.5	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	48.1	23.8	71.0	51.0	▼
	語句に関する知識	9	52.9	5.8	71.1	51.1	
評価の観点	①話す・聞く	5	63.3	5.7	68.0	48.0	
	②書く	5	52.5	9.4	68.0	48.0	
	③読む	5	44.3	10.7	66.0	46.0	▼
	④知識・理解・技能	19	61.2	9.6	71.6	51.6	
問題形式	選択式	11	61.0	1.7	70.9	50.9	
	短答式	18	59.9	11.3	71.7	51.7	
	記述式	5	43.0	18.0	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	3	40.2	19.9	56.7	36.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等						評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能					十分達成	おおむね達成	
1	一	話の論理的な構成や展開などを捉える	○											75.3	0.3	70	50	◎
1	二	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○											84.7	1.3	70	50	◎
1	三	話の中心的部分と付加的な部分の関係に注意し、論理的な構成や展開を意識して話す	○											67.6	0.7	70	50	
1	四	目的に沿った話し合いになるように適切に意見を述べる	○								○			26.1	14.6	75	55	▼
1	五	相手の立場や考えを尊重し、自分の考えを広げる	○									○	○	62.6	11.4	55	35	◎
2	一	目的や意図に応じて効果的に伝えるように書く	○											71.1	0.9	70	50	◎
2	二	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする	○									○		26.2	8.6	75	55	▼
2	三	書いた文章を読み返し、社会生活の中から多様な方法で材料を集める	○									○		78.2	5.5	70	50	◎
2	四	伝えたいことを明確にして、構成を工夫した文章にする	○									○		48.2	14.9	65	45	
2	五	具体例を加えて、分かりやすく伝える	○									○	○	38.6	17.2	60	40	▼
3	一	例示の効果を考え、内容を理解する	○											54.4	1.4	70	50	
3	二	抽象的な概念を表す語句に注意して読む	○											35.3	3.8	70	50	▼
3	三	文章全体と部分との関係に注意して読む	○										○	46.4	15.4	65	45	
4	一	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	○											66.1	2.0	70	50	

設問別集計結果

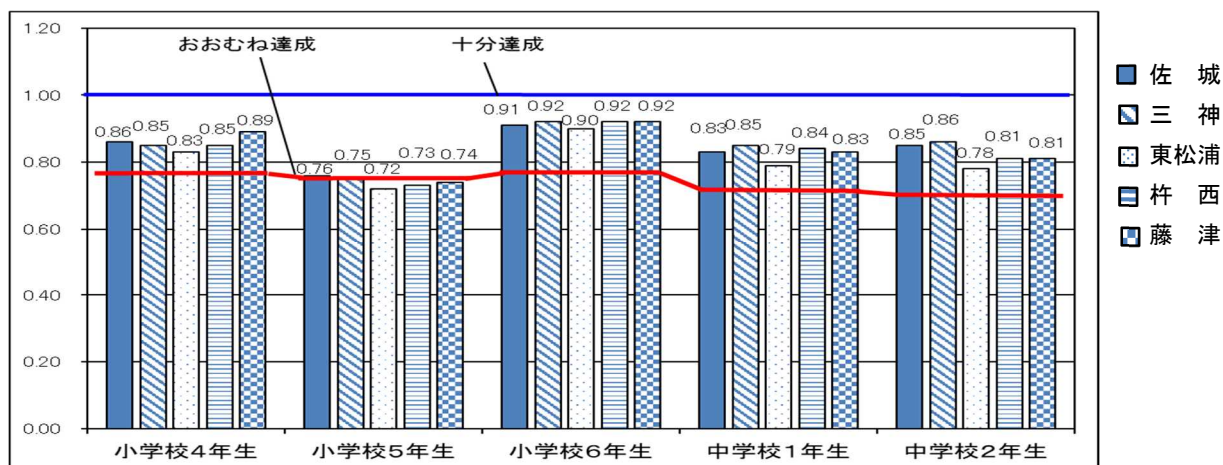
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	文章の展開について自分の考えをもつ		○				○				○	○	19.3	31.0	55	35	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「不服」			○				○					81.4	4.8	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「納得」			○				○					98.7	0.6	70	50	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓) 「定規」			○				○					96.0	0.7	70	50	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「刻印」			○				○					80.3	4.3	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「嚴重」			○				○					90.8	2.4	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの漢字) 「根幹」				○			○					10.6	53.3	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「拾(う)」				○			○					66.8	6.3	75	55	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「救急」				○			○					57.6	11.2	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「沿(って)」				○			○					35.9	32.9	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「圧縮」				○			○					69.4	15.0	70	50	
5	三1	文脈の中で語句を正しく使う(文節の働き)					○		○					70.4	8.1	70	50	◎
5	三2	文脈の中で語句を正しく使う(文節の働き)					○		○					45.2	8.7	65	45	
5	四	文脈の中で語句を正しく使う(単語の類別)					○		○					31.7	2.6	70	50	▼
5	五	事象や行為などを表す多様な語句について理解を深める(比喻表現)					○		○					39.3	1.9	70	50	▼
5	六	行書のきまりを知る					○		○					40.2	1.8	75	55	▼
5	七1	古典には様々な種類の作品があることを知る					○		○					74.1	2.6	75	55	
5	七2	現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解する					○		○					67.5	14.6	70	50	
5	七3	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○					41.3	8.0	75	55	▼
5	七4	描かれている情景を想像しながら読む					○		○					66.0	3.4	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ12]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校6年生で地域差が縮小し、他の学年は地域差が拡大している。

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H30[12月]	1.01	1.00	0.97	1.00	1.04	拡 0.07
	H29[12月]	1.01	0.99	0.97	1.00	1.02	0.05
小学校5年生	H30[12月]	1.02	1.01	0.97	0.99	1.00	拡 0.05
	H29[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	0.04
小学校6年生	H30[12月]	1.00	1.00	0.99	1.01	1.01	縮 0.02
	H29[12月]	1.00	1.02	0.98	0.99	1.02	0.04
中学校1年生	H30[12月]	1.00	1.03	0.95	1.01	1.00	拡 0.08
	H29[12月]	1.00	1.02	0.95	1.02	0.99	0.07
中学校2年生	H30[12月]	1.02	1.03	0.94	0.97	0.98	拡 0.09
	H29[12月]	1.01	1.03	0.96	1.00	0.97	0.07

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

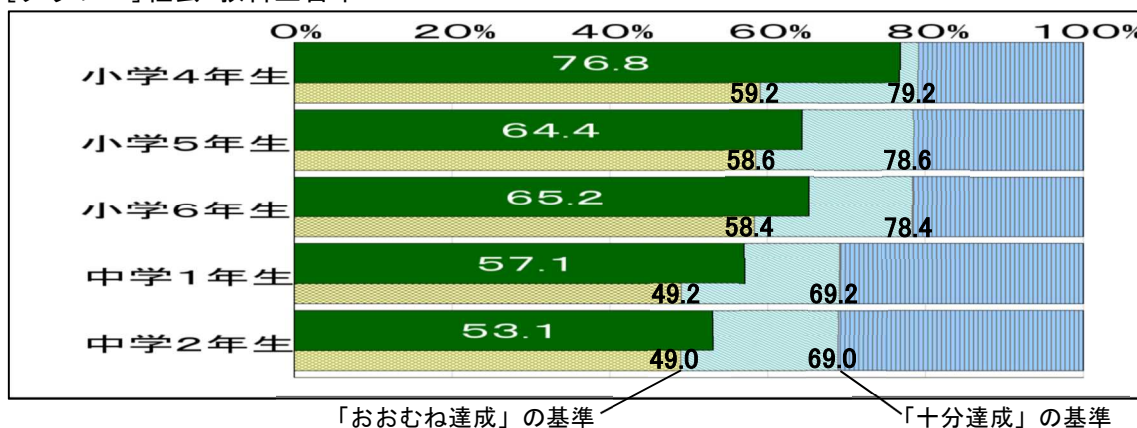
社 会

◎ 社会

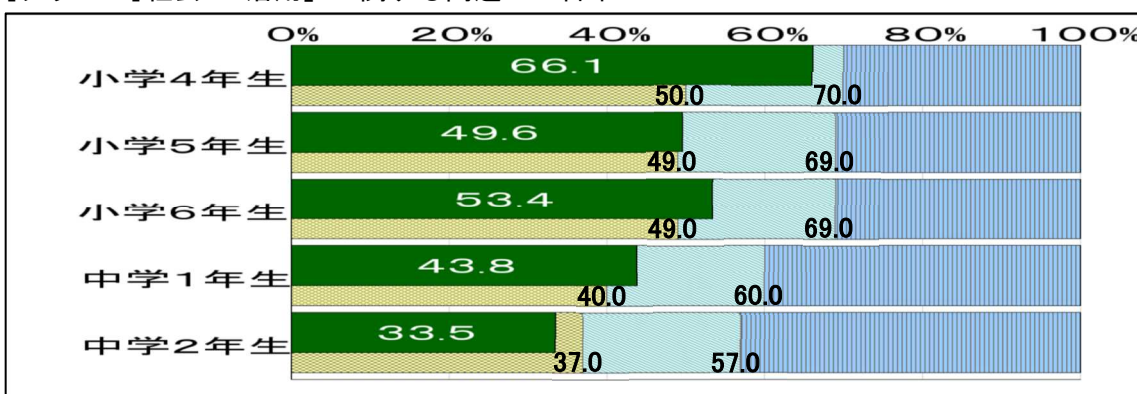
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。
[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、中学2年生で、「社会的な事象についての知識・理解」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。
[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「国土の様子」、中学2年生の「中世」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。
[グラフ6～10]

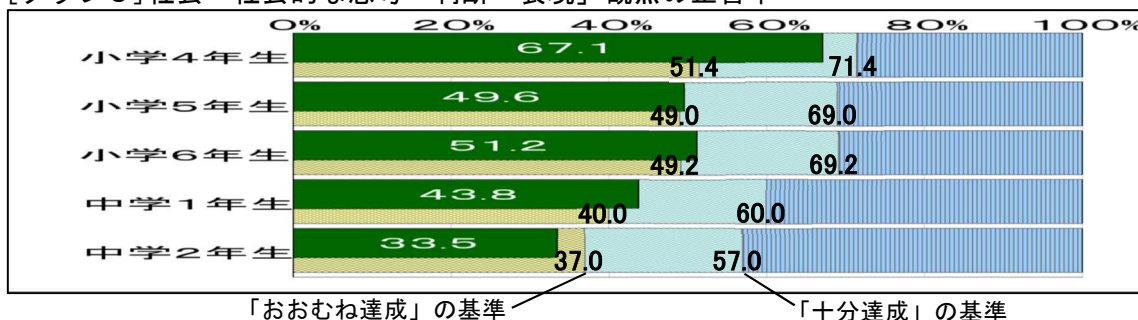
[グラフ1]社会 教科正答率



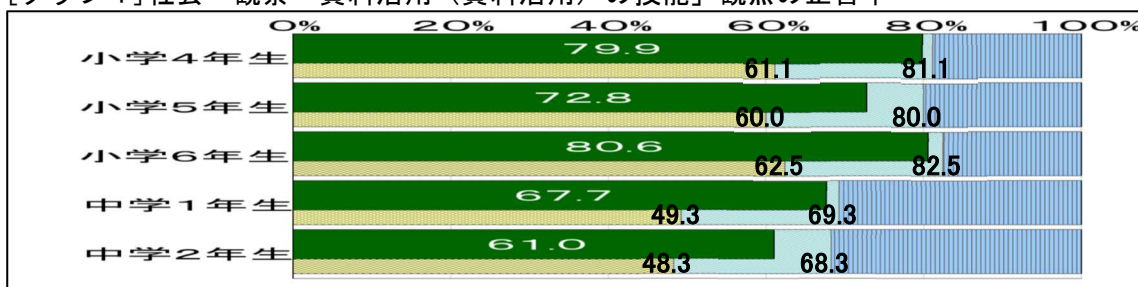
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



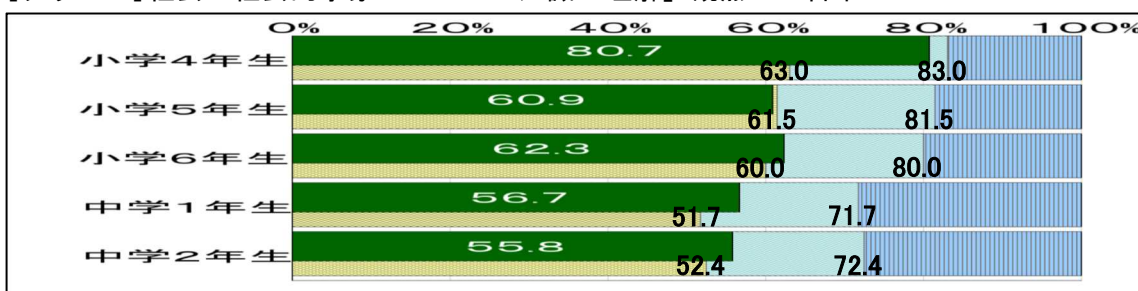
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



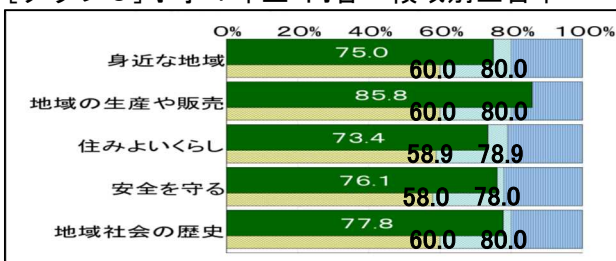
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



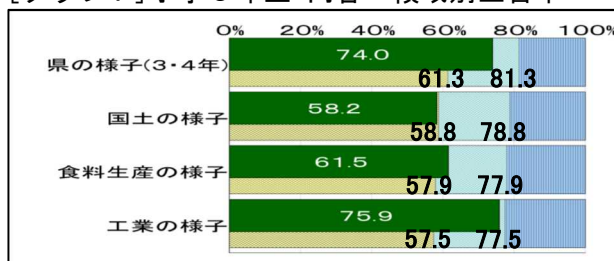
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



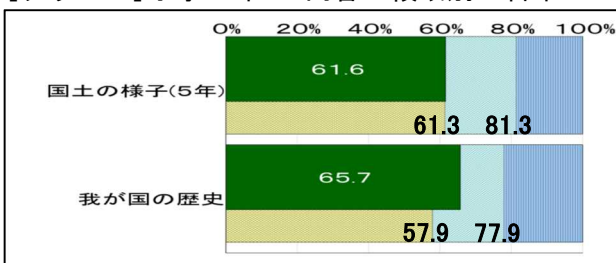
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



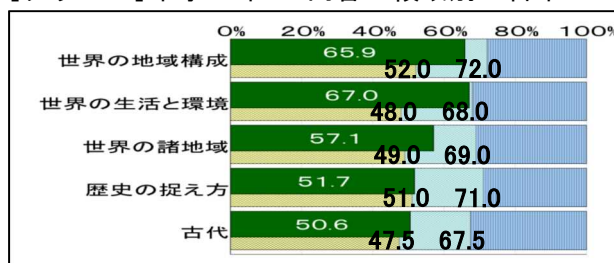
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



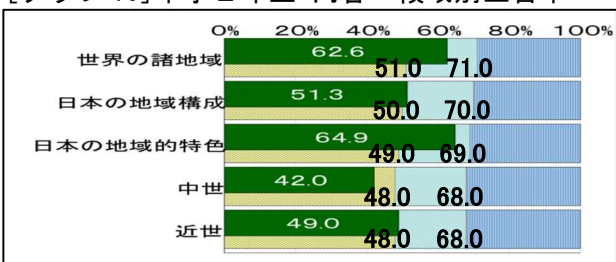
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「国土の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 県の様子や地域社会の歴史に関する知識が身に付いている。
(小学4年生⁶(1)、小学5年生¹(1))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生²(1)、小学5年生⁵(3)⁷(1)、小学6年生³(4)⁵(1))
- ◆ 1 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識の習得に課題が見られる。
(小学5年生²(3)⁶(3)、小学6年生¹(4)⁶(2)(3)⁷(3))
- ◆ 2 複数の資料を関連付けて読み取ったり、調べたことをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生⁶(2)、小学校5年生³(3)⁴(1))
- ◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。
(小学5年生⁵(4)⁶(2)、小学校6年生³(3)⁵(3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識を習得させるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - グループや学級全体で話し合う際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉で説明したりできるように指導を行っていますか。
 - 国土の様子を図示したり、人物が行ったことをワークシートにまとめたりする際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉でまとめたりすることができるように指導を行っていますか。
- ◆ 2 複数の資料を関連付けて読み取ったり、調べたことをまとめたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 複数の資料を提示する際は、資料を一つずつ提示したり、資料の一部を隠して提示したりするなど、資料提示の工夫をしていますか。
 - 「この資料からどのようなことがわかりますか?」「(複数の資料を比較して)共通する(違う)ことは何ですか?」というような発問をして、地図やグラフなどの資料から必要な情報を読み取ったり、比較したりすることができるように指導していますか。
 - カードや白地図、年表などに、調べたことをまとめる際に、小見出しを付けたり、分布や時間の経過で整理したりするように指導を行っていますか。
- ◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「なぜ~だろうか?」「どのように~だろうか?」というような発問をして、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定していますか。
 - 児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導していますか。
 - 児童の説明が不足しているときに、「なぜ~だったら~になるのですか?」といったような問い返しの発問をしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（小学校社会科）

◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。

《小学校5年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6 (2)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる。 (記述式)	天候不良のため、アメリカの大豆が被害を受けたことにより、日本が困る理由について、2つのグラフを基に説明する。	44.9	7.1	70.0	50.0

【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①「自給率」「輸入」の2つの言葉を使って記述していること。
- ②日本は大豆の自給率が低いことを記述していること。
- ③アメリカからの輸入量が多いことや、アメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のことを記述していること。

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「日本は大豆の自給率が低い」ということは記述することができているが、「アメリカが日本に輸入しているから」や「輸入の量が増えた」のように、「アメリカからの輸入量が多いことやアメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のこと」を記述することができていない。
- ・「アメリカからの輸入量が多いことやアメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のこと」は記述することができているが、「自給率が上がっていく」「輸入ができないと自給率が減ってしまうから」のように、「日本は大豆の自給率が低い」ことを記述することができていない。
- ・「自給率」「輸入」の2つの言葉を使って記述することができているが、「自給率が減ってくると輸入できる物がなくなる」「自給率が減ってきたので、輸入の量が増えた」のように、2つの資料を関連付けることができていない。

■ 改善・充実に向けて

1つの資料から情報を読み取ることはできていますが、複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・「アメリカで天候が悪く、大豆が被害を受けたらなぜ日本が困るのですか」というような発問をして、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定する。
- ・児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導する。その際、「自給率」や「輸入」の用語を使わせたり、用語の意味について確認をしたりする。
- ・「アメリカの大豆が被害を受けたら、なぜ日本が困るのですか？」と発問した際、「日本は大豆の自給率が低いから」といったように児童の説明が不足しているときに、「大豆の自給率が低いことと、アメリカの大豆が被害を受けることが、日本にとって、どのような関係があるのですか」と問い返しの発問をする。このことで、「アメリカから多くの大豆を輸入しているため、輸入ができなくなると困る」という、輸入に依存している問題点について考えさせるようにする。

《小学校6年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5 (4)	参勤交代の制度を定めた理由 について説明することができる。 (記述式)	大名に参勤交代の制度を定 めた理由を、徳川家光の言葉 や「佐賀藩が参勤交代に使っ たお金」のグラフを基に説明 する。	44.2	9.0	70.0	50.0
<p>【正答の条件】 次の①、②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①「費用」「力」という2つの言葉を使って記述していること。 ②多くの費用を使わせることで、大名の力を弱めるという内容を記述していること。</p>						

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「費用」という言葉を使って記述することはできているが、「費用があまりかからなかった」や「費用をもらっている」などのように、参勤交代に掛かった費用が各藩の財政を圧迫していたことをグラフから読み取ることができていない。
- ・「費用」「力」という言葉を使って記述することができているが、「新しい兵を集めて力を強めたり、費用をもらったりしている」や「たくさん費用を使って、力を見せつけるため」などのように、2つの資料を関連付けることができていない。

■ 改善・充実に向けて

1つの資料から情報を読み取ることはできていますが、複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・参勤交代とは、どのような政策なのかを調べさせるだけでなく、「なぜ、参勤交代の制度を定めたのか？」というような発問をして、参勤交代の制度を定めた理由について、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定する。
- ・児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導する。その際、「費用」や「幕府」「大名」などの用語を使わせたり、用語の意味について確認したりする。
- ・「なぜ、参勤交代の制度を定めたのか？」と発問をした際、児童が、「費用をたくさん使わせるため」など、説明が不足しているときに、「なぜ、費用を使わせることが幕府にとって都合がよいのですか？」といったような問い返しの発問をする。このことで、大名の力を弱めるという参勤交代の制度を定めた理由まで考えさせるようにする。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校社会（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、社会的事象に関する知識が身に付いている。
(中学1年生 123、中学2年生 122313)
- ◇ 資料から適切な情報を読み取る技能が身に付いている。
(中学1年生 15253251①、中学2年生 3443)
- ◆ 1 地理的分野において、資料に示された都市の緯度と経度を読み取ったり、地図から時差を求めたりすることに課題が見られる。
(中学1年生 14、中学2年生 21)
- ◆ 2 歴史的分野において、社会的事象に関する知識の理解に課題が見られる。
(中学1年生 414623、中学校2年生 41245234634①)
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈して説明することに課題が見られる。
(中学1年生 2435、中学2年生 243545)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする力を身に付けることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です
 - 地球儀や世界地図を用いて、本初子午線や赤道の位置を明示することで緯度や経度の基準を示したり、ある地点を例に取り上げ、「北緯〇度、東経〇度」などのように緯度と経度の組み合わせで位置を表したりする活動を位置付けていますか。
 - 時差については、単に時差を計算させるような指導だけでなく、時差のある海外の様子を衛星中継する映像を活用したり、国際電話で海外にいる人と話をする場面などを想定し、実際の生活場面と結び付けたりしながら指導していますか。
- ◆ 2 社会的事象に関する知識を習得することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 一問一答形式の小テストや重要語句を機械的・表面的に記憶しているかを確認するような発問を行うだけでなく、生徒が社会的事象の意味を考えたり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするような発問を行っていますか。
 - 単元や授業のまとめをする際に、生徒が、本単元や本時で学習したことや既習事項を活用して、自分の言葉で説明したり、まとめたりする活動を設定していますか。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明したり、社会的事象の意味や意義を解釈して説明したりする力を育成するためには、授業において、課題を追究したり解決したりする活動を位置付け、学習を進めていくことが大切です。
 - 生徒が疑問や気付きをもてるように、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料提示の仕方を工夫するなどして、生徒の興味・関心を高めていますか。
 - 生徒の疑問や気付きから「どのように（な）～?」「なぜ～?」など、単元を通した課題、または、本時の課題を設定していますか。
 - 課題を追究したり解決したりする活動の中で、生徒が資料から読み取った情報や社会的事象について調べたことや考えたことを基に、簡潔な文章にまとめたり、キーワードを使って整理したりできるような場面を設定していますか。
 - 生徒が社会的事象について説明したり、自分の考えについて適切に説明したりする際に、問い返しを行うなどして、そのように考えた根拠を示したり、そのように考えた理由を述べたりすることができるように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校社会科）

- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈して説明することに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3 (5)	資料を基に、インドに外国企業が進出している理由を説明することができる。 (記述式)	インドに日本などの外国企業が進出している理由について、人口の移り変わりの資料と賃金の比較を示した資料を基に、条件に合わせて説明する。	36.9	16.2	60.0	40.0

【正答の条件】

次の①の条件を満たし、さらに理由として、②、③の内容を記述しているものを正答とする。

- ①「労働力」という語句を使って記述していること。
- ②インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと。
- ③インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと。

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「労働力」という語句を使って記述することができているが、「労働力はあるけれど、インドには働く場所がない」や「労働力の効率がいい」のように「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」や「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができていない。
- ・「労働力」という語句を使って、「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができているが、「労働力が高いし、賃金も安いからインドに進出しやすい」のように「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」について読み取ることができていない。
- ・「労働力」という語句を使って、「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」について読み取ることができているが、「急激に人口が増え、労働力が上がった」のように「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができていない。
- ・「安い賃金で多くの人を雇うことができる」のように「労働力」という語句を使って記述することができていない。

※改善・充実に向けては、中学 2 年生と併せて P 35 に記載している。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3 (5)	資料を基に、高速道路の延長による効果を説明することができる。 (記述式)	高速道路の距離の延長による効果について、高速道路の開通による所要時間の変化を示した資料と長崎県産「さば」の東京卸売市場での取引価格と高速道路の整備率を示した資料を基に、条件に合わせて説明する。	33.9	12.8	55.0	35.0

【正答の条件】

次の①、②の内容を記述しているものを正答とする。

- ①移動に掛かる時間が短くなったこと。
- ②長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること。

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「短時間で移動ができる」や「高速道路を利用した方が、所要時間が短くなる」のように「移動に掛かる時間が短くなったこと」について読み取ることができているが、「長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること」について読み取ることができていない。
- ・「新鮮なものを届けることができる」や「新鮮な状態で出荷できる」のように、鮮度のことについて記述することができているが、「移動に掛かる時間が短くなったこと」や「長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること」について読み取ることができていない。

■ 改善・充実に向けて

1つの資料からの読み取りはできていますが、複数の資料から読み取った内容を基に条件に合わせて考えたり、関連付けて考えたりすることに課題が見られます。これらの課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・資料を提示する際に、複数の資料を提示し対比させたり、時間の経過に着目させるために資料を提示する順番を工夫したりするなどして、「資料からどのような事実が読み取れるのか?」「読み取った内容を関連付けるとどのようなことが言えるのか?」などを考える活動を位置付ける。
- ・「なぜ、日本などの外国企業がインドに進出しているのだろうか?」「高速道路の距離が延長されることによりどのような影響があるのだろうか?」など単元を通した課題、または本時の課題を設定し、課題を追究したり解決したりする活動を位置付ける。
- ・生徒が資料から読み取った情報や社会的事象について調べたことや考えたことを、ペアやグループ、または、全体で話し合う場面やまとめる際に、根拠や理由を示して分かりやすく説明したり、簡潔な文章にまとめたり、キーワードを使って整理したりできるような活動を位置付ける。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学4年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,489	76.8	2.2	79.2	59.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	4	75.0	0.9	80.0	60.0	
	地域の生産や販売	4	85.8	1.4	80.0	60.0	◎
	住みよいくらし	9	73.4	2.1	78.9	58.9	
	安全を守る	5	76.1	2.9	78.0	58.0	
	地域社会の歴史	4	77.8	3.3	80.0	60.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	7	67.1	3.8	71.4	51.4	
	②技能	9	79.9	1.7	81.1	61.1	
	③知識・理解	10	80.7	1.4	83.0	63.0	
問題形式	選択式	11	86.0	0.9	82.7	62.7	◎
	短答式	8	72.5	2.5	81.3	61.3	
	記述式	7	67.1	3.8	71.4	51.4	
活用	「活用」に関する問題	5	66.1	3.6	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用		期待正答率		到達状況		
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題	県正答率		県無解答率	十分達成
1	(1)ア 主な地図記号を理解している(郵便局)	○					○			○			96.8	0.1	85	65	◎
1	(1)イ 主な地図記号を理解している(畑)	○					○			○			67.9	1.0	85	65	
1	(2) 地図から、必要な情報を読み取ることができる	○					○			○			87.3	0.1	80	60	◎
1	(3) 地図から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○					○			○	○		47.7	2.4	70	50	▼
2	(1)① 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○					○			○			95.4	0.1	85	65	◎
2	(1)② 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○					○			○			96.8	0.2	85	65	◎
2	(2) 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる	○					○			○			82.4	2.3	80	60	◎
2	(3) 販売の仕事に見られる工夫について説明することができる	○					○			○	○		68.6	2.9	70	50	
3	(1) 資料から、ごみの出し方を読み取ることができる	○					○			○			82.6	0.2	80	60	◎
3	(2) 清掃工場の仕組みを理解している(クレーン・中央制御室)	○					○			○			83.1	0.2	85	65	
3	(3) 資源ゴミを再利用するリサイクルについて理解している	○					○			○			70.5	3.5	80	60	
3	(4) ごみを減らす工夫について説明することができる	○					○			○	○		72.0	3.1	70	50	◎
4	(1) 資料から、水の使用量の変化を読み取ることができる	○					○			○			63.2	2.7	80	60	
4	(2) 水道水が家や学校に送られるまでの流れを理解している	○					○			○			66.4	3.0	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				記述式	十分達成	
4	(3)	浄水場の働きについて理解している	○				○		○			75.2	0.8	80	60	
4	(4)	安全できれいな水がつけられたあと、検査が行われ、水道管（配水管）を通して、家庭などに送られていることを理解している	○				○		○			78.4	1.2	80	60	
4	(5)	家庭でできる水の再利用の方法を考えることができる	○				○			○		69.5	4.6	75	55	
5	(1)	資料から、交通事故発生件数の変化と原因別の件数を読み取ることができる		○			○			○		79.3	1.9	80	60	
5	(2)	人々の安全を守る警察の仕事を理解している		○			○		○			84.4	1.2	85	65	
5	(3)	資料から、交通事故や事件が発生した際の通信指令室の働きを読み取ることができる		○			○		○			78.3	2.2	80	60	
5	(4)	地域の人たちが登下校の時間に通学路に立つことが、子どもたちの安全を守るための取り組みになる理由について考えることができる		○			○			○		70.2	4.2	75	55	
5	(5)	資料を基に、交通事故を防ぐための工夫について説明することができる		○			○			○	○	68.5	5.3	70	50	
6	(1)①	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している（そろばん）			○			○	○			97.0	1.5	85	65	◎
6	(1)②	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している（アイロン）			○			○	○			87.1	1.7	85	65	◎
6	(2)	昔の道具について調べたことを、カードにまとめることができる			○			○	○			53.4	5.5	80	60	▼
6	(3)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々の暮らしの変化について説明することができる			○			○		○	○	73.5	4.4	70	50	◎

[表2] 小学5年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,424	64.4	2.8	78.6	58.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	県の様子(3・4年)	4	74.0	0.5	81.3	61.3	
	国土の様子	8	58.2	3.2	78.8	58.8	▼
	食料生産の様子	12	61.5	3.0	77.9	57.9	
	工業の様子	4	75.9	3.7	77.5	57.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	49.6	6.6	69.0	49.0	
	②技能	13	72.8	1.3	80.0	60.0	
	③知識・理解	10	60.9	2.9	81.5	61.5	▼
問題形式	選択式	16	71.0	1.0	80.0	60.0	
	短答式	7	59.9	4.3	82.1	62.1	▼
	記述式	5	49.6	6.6	69.0	49.0	
活用	「活用」に関する問題	5	49.6	6.6	69.0	49.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○				○		○			87.5	1.4	85	65	◎
1	(2)①	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○				○		○			68.7	0.2	80	60	
1	(2)②	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(脊振山地)	○				○		○			81.4	0.2	80	60	◎
1	(3)	都道府県の名称と位置を理解している(和歌山県・三重県)	○				○		○			58.5	0.3	80	60	▼
2	(1)	世界の大陸と海洋の名称と位置を理解している(インド洋・南アメリカ大陸)	○				○		○			74.7	0.1	80	60	
2	(2)	地図から、日本の位置や東端の島を読み取ることができる(ユーラシア大陸・南鳥島)	○				○		○			64.3	1.0	80	60	
2	(3)	日本が抱える領土問題を理解している(竹島)	○				○		○			15.6	9.6	80	60	▼
2	(4)	資料を基に、沖ノ鳥島において工事が行われた理由について説明することができる	○				○		○	○		46.6	7.0	65	45	
3	(1)①	日本の気候の特色について理解している(四季)	○				○		○			52.1	4.9	85	65	▼
3	(1)②	日本の気候の特色について理解している(台風)	○				○		○			91.2	1.6	85	65	◎
3	(2)	資料から、福井市の気温と降水量を読み取ることができる	○				○		○			66.9	0.6	80	60	
3	(3)	資料から、日本海側の降水量の特徴を読み取ることができる	○				○		○			54.6	0.7	75	55	▼
4	(1)	資料から、米作りが盛んな地域の特色を読み取ることができる	○				○		○			53.2	0.5	80	60	▼
4	(2)	米作りの1年間の流れを理解している	○				○		○			64.8	0.3	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(3)	資料から、米作りの工夫を読み取ることができる	○					○				86.6	0.7	80	60	◎
4	(4)	米の保管から出荷までの流れを理解している	○					○				45.9	1.1	80	60	▼
4	(5)	資料を基に、日本の農業が抱える問題点について説明することができる	○					○		○	○	54.4	4.9	70	50	
5	(1)	日本の近海で漁業が盛んである理由を理解している	○					○				66.2	0.9	80	60	
5	(2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる	○					○				60.1	2.1	80	60	
5	(3)	資料を基に、漁港で行われている仕事を読み取ることができる	○					○				93.3	0.8	80	60	◎
5	(4)	資料を基に、栽培漁業で、魚をある程度の大きさまで育ててから放流する理由について説明することができる	○					○		○	○	33.1	6.8	70	50	▼
6	(1)	資料から、日本の食料自給率を読み取ることができる	○					○				83.6	2.2	85	65	
6	(2)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる	○					○		○	○	44.9	7.1	70	50	▼
6	(3)	住んでいる地域やそのそばで生産されたものを消費することが地産地消であることを理解している	○					○				52.6	8.4	80	60	▼
7	(1)	資料から、自動車の生産過程を読み取ることができる	○					○				88.3	1.6	80	60	◎
7	(2)	資料を基に、自動車工場と関連工場の関係から考えられる問題点について説明することができる	○					○		○	○	69.2	7.3	70	50	
7	(3)	資料から、自動車の現地生産の現状を読み取ることができる	○					○				64.0	3.2	80	60	
7	(4)	資料から、交通事故を減らすための工夫を読み取ることができる	○					○				82.2	2.8	80	60	◎

[表3] 小学6年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,354	65.2	3.7	78.4	58.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	国土の様子(5年)	4	61.6	3.0	81.3	61.3	
	我が国の歴史	24	65.7	3.8	77.9	57.9	
評価の観点	①思考・判断・表現	6	51.2	6.3	69.2	49.2	
	②技能	8	80.6	0.4	82.5	62.5	
	③知識・理解	14	62.3	4.4	80.0	60.0	
問題形式	選択式	14	76.5	0.2	81.1	61.1	
	短答式	8	55.7	7.8	80.6	60.6	▼
	記述式	6	51.2	6.3	69.2	49.2	
活用	「活用」に関する問題	5	53.4	6.3	69.0	49.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史		①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 三海洋の名称と位置を理解している	○				○		○			77.0	0.0	85	65	
1	(2) 資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○				○		○			61.2	1.6	80	60	
1	(3) 資料から、日本の気候の特色を読み取ることができる	○				○		○			76.0	0.2	80	60	
1	(4) 北方領土を理解している	○				○		○			32.1	10.2	80	60	▼
2	(1) 米作りが始まったことによる人々の生活の変化を理解している	○				○		○			52.9	0.1	80	60	▼
2	(2) 資料から、米作りに関する道具を読み取ることができる	○				○		○			83.2	0.0	80	60	◎
2	(3) 古墳時代の国の様子について理解している	○				○		○			75.2	0.2	80	60	
3	(1) 聖徳太子が行った政策を理解している	○				○		○			69.0	0.1	80	60	
3	(2) 聖武天皇が仏教の力によって、世の中を安定させようとしたことを理解している	○				○		○			80.6	1.7	80	60	◎
3	(3) 資料を基に、大陸の文化が日本にどのようにして入ってきたかを説明することができる	○				○		○	○		39.9	7.4	65	45	▼
3	(4) 大和絵に描かれているのが貴族であることを読み取ることができる	○				○		○			90.6	0.1	85	65	◎
4	(1) 鎌倉幕府を開き、征夷大将軍に任命された源頼朝を理解している	○				○		○			49.3	9.5	80	60	▼
4	(2) 資料を基に、承久の乱の後、武士(御家人)が幕府(将軍)から領地をもらった理由について説明することができる	○				○		○	○		68.0	5.3	70	50	
4	(3) 資料から、室町時代の文化を読み取ることができる	○				○		○			84.9	0.1	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		我が国の歴史 国土の様子(5年)				①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)	資料から、長篠の戦いで織田・徳川軍と武田軍の戦い方の違いを読み取ることができる	○						○			90.9	0.9	85	65	◎
5	(2)	資料を基に、刀狩令の目的について、説明することができる	○							○		40.2	6.2	70	50	▼
5	(3)	参勤交代の制度を定めた理由について説明することができる	○							○	○	44.2	9.0	70	50	▼
5	(4)	江戸時代の文化や学問についての資料を選ぶことができる	○						○			78.3	0.1	85	65	
6	(1)	明治政府の政策について理解している	○						○			90.3	0.1	80	60	◎
6	(2)	明治政府が行った、経済を発展させ、強い軍隊をもつ政策が富国強兵であることを理解している	○							○		46.0	13.9	80	60	▼
6	(3)	西洋の文化が取り入れられ、社会が変化したことが文明開化であることを理解している	○							○		37.8	12.7	80	60	▼
6	(4)	資料を基に、小学校に通う児童の割合が増えた理由について説明することができる	○							○	○	49.7	5.8	70	50	▼
7	(1)	関税自主権を理解している	○						○			75.0	0.2	75	55	◎
7	(2)	資料を基に、ノルマントン号事件で船長が軽い罪だった理由を説明することができる	○							○	○	65.1	4.0	70	50	
7	(3)	大日本帝国憲法の制定に尽力し、初代内閣総理大臣になった人物が伊藤博文であることを理解している	○							○		47.7	11.6	80	60	▼
7	(4)	大日本帝国憲法を理解している	○						○			71.6	0.5	80	60	
8	(1)	資料から、戦時中の国民の生活の様子を読み取ることができる	○						○			79.5	0.5	80	60	
8	(2)	終戦までの出来事を理解している	○						○			68.0	0.5	80	60	

[表4] 中学1年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,791	57.1	6.9	69.2	49.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の地域構成	5	65.9	1.3	72.0	52.0	
	世界の生活と環境	5	67.0	3.8	68.0	48.0	
	世界の諸地域	5	57.1	6.8	69.0	49.0	
	歴史の捉え方	5	51.7	9.6	71.0	51.0	
	古代	10	50.6	9.8	67.5	47.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	43.8	12.1	60.0	40.0	
	②技能	7	67.7	1.1	69.3	49.3	
	③知識・理解	18	56.7	7.6	71.7	51.7	
問題形式	選択式	12	64.9	0.9	70.0	50.0	
	短答式	13	55.1	10.3	71.9	51.9	
	記述式	5	43.8	12.1	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	5	43.8	12.1	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代						①思考・判断・表現	②技能	
1	(1) ヨーロッパ州の位置と名称を理解している	○						○		75.1	4.7	75	55	◎
1	(2) 地図上で北半球と南半球を区分している赤道の位置を理解している	○						○		57.0	0.3	70	50	
1	(3) 陸地と海洋の面積の割合を理解している	○						○		72.4	0.1	75	55	
1	(4) 資料に示されたシドニーの緯度と経度を読み取ることができる	○						○		46.9	0.5	70	50	▼
1	(5) 図法の異なる二つの地図から、同じ大陸を読み取ることができる	○						○		78.2	1.1	70	50	◎
2	(1) 熱帯の特徴を示す気温図を読み取ることができる	○						○		59.1	0.8	70	50	
2	(2) 乾燥帯で行われている遊牧を理解している	○						○		66.5	8.7	70	50	
2	(3) 温帯の気候の特徴を理解している	○						○		90.0	0.4	70	50	◎
2	(4) 資料を基に、寒帯の気候区分(ツンドラ気候)の特徴について説明することができる	○						○	○	35.9	8.1	60	40	▼
2	(5) 資料から、サウジアラビアで主に信仰されている宗教がイスラム教であることを読み取ることができる	○						○		83.4	1.2	70	50	◎
3	(1) ヒマラヤ山脈の位置と名称を理解している	○						○		52.5	5.6	75	55	▼
3	(2) 資料から、中国の農業の特徴を読み取ることができる	○						○		73.6	0.4	70	50	◎
3	(3) 中国の経済発展について理解している	○						○		69.7	0.9	70	50	
3	(4) インドで近年、発達している情報通信技術(ICT、IT)関連産業を理解している	○						○		52.6	11.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	記述式		十分達成
3	(5)	資料を基に、インドに外国企業が進出している理由を説明することができる	○								○	○	36.9	16.2	60	40	▼
4	(1)	社会の仕組みの特徴によって時代区分された「古代」を理解している			○								46.4	0.7	70	50	▼
4	(2)	飛鳥時代の次の時代が奈良時代であることを理解している			○								61.5	4.0	75	55	
4	(3)	「世紀」を使った年代の表し方を理解している			○								56.8	4.4	70	50	
4	(4)	イエス・キリストが生まれたとされる年を基準とした年代の表し方が「西暦（西暦年）」であることを理解している			○								36.1	21.8	70	50	▼
4	(5)	中国で始まり、「平成」などのように日本で使われている年代の表し方が「年号（元号）」であることを理解している			○								58.0	16.9	70	50	
5	(1)①	資料から、古代文明がおこった地域の共通点を読み取ることができる											87.8	1.1	70	50	◎
5	(1)②	中国文明で使われていた文字が甲骨文字であることを理解している											57.2	7.3	75	55	
5	(2)①	石を打ち欠いて（打ち砕いて）作った道具が打製石器であることを理解している											59.7	6.9	75	55	
5	(2)②	資料を基に、海水面が上昇し現在の日本列島が形成された理由を説明することができる											47.4	11.7	60	40	
5	(2)③	資料と弥生時代に争いが多くなったという知識を基に、弥生時代の人々の生活の様子について説明することができる											54.3	9.6	60	40	
6	(1)	平安京に都を移した理由を理解している											52.5	1.8	70	50	
6	(2)	東北地方の蝦夷の反乱を鎮めるため、征夷大將軍に任命された人物が坂上田村麻呂であることを理解している											29.5	18.0	70	50	▼
6	(3)	最澄が天台宗を、空海が真言宗を広めたことを理解している											27.9	24.0	70	50	▼
6	(4)	資料から、藤原氏が力を強めたことを読み取ることができる											44.9	2.8	65	45	▼
6	(5)	資料を基に、国風文化の内容を説明することができる											44.5	14.7	60	40	

[表5] 中学2年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,943	53.1	10.5	69.0	49.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	5	62.6	5.0	71.0	51.0	
	日本の地域構成	5	51.3	6.1	70.0	50.0	
	日本の地域的特色	5	64.9	8.9	69.0	49.0	
	中世	5	42.0	11.3	68.0	48.0	▼
	近世	10	49.0	15.8	68.0	48.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼
	②技能	6	61.0	2.7	68.3	48.3	
	③知識・理解	19	55.8	10.4	72.4	52.4	
問題形式	選択式	11	58.3	1.2	70.0	50.0	
	短答式	14	56.1	14.3	72.5	52.5	
	記述式	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	日本の地域的特色	中世	近世						十分達成	おおむね達成	
1	(1) オセアニア州の地形の特徴を理解している	○					○		97.6	1.6	75	55	◎	
1	(2) オーストラリアが、植民地支配をされていたことを理解している	○					○		82.8	4.6	70	50	◎	
1	(3) オーストラリアの特徴を理解している	○					○		39.9	0.6	70	50	▼	
1	(4) 資料から、オーストラリアの人口密度の特徴を読み取ることができる	○					○		69.0	0.6	70	50		
1	(5) オーストラリアで他の国や民族の様々な文化や生活習慣を尊重し、共存を目指す社会(主義)が多文化社会(主義)であることを理解している	○					○		23.8	17.8	70	50	▼	
2	(1) 東京とニューヨークの時差を求めることができる	○					○		45.2	9.5	70	50	▼	
2	(2) 北方領土にある択捉島の位置と名称を理解している	○					○		78.6	0.5	75	55	◎	
2	(3) 領土・領海・領空の範囲(領域)を理解している	○					○		39.8	1.6	70	50	▼	
2	(4) 資料を基に、日本の排他的経済水域の面積が、ブラジルと比べて広い理由を説明することができる	○					○	○	20.7	18.2	60	40	▼	
2	(5) 日本の七地方区分のうち、近畿・中部・関東地方の位置と名称を理解している	○					○		72.3	1.0	75	55		
3	(1) 湾と岬が連続する複雑に入り組んだ海岸がリアス(式)海岸であることを理解している	○					○		86.3	8.5	75	55	◎	
3	(2) 川が山間部から平野に出たところに見られる地形が扇状地であることを理解している	○					○		52.5	11.7	75	55	▼	
3	(3) 地震や川の氾濫などの自然災害による被害を予測し、避難所などを記した地図がハザードマップ(防災マップ)であることを理解している	○					○		77.7	10.4	75	55	◎	
3	(4) 資料から、日本と世界を結ぶ航空路(線)の様子を読み取ることができる	○					○		73.9	1.2	65	45	◎	

設問別集計結果

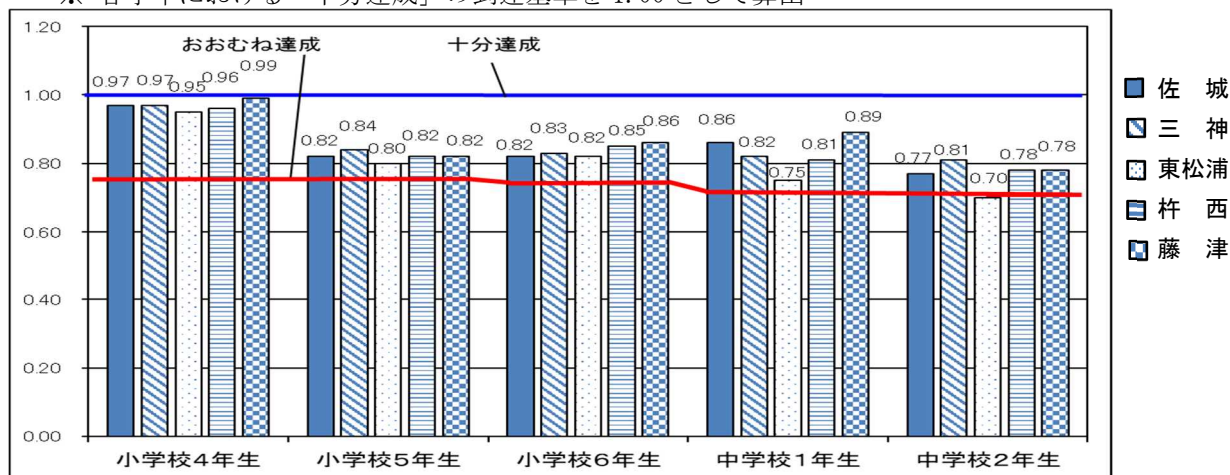
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
3	(5)	資料を基に、高速道路の延長による効果を説明することができる	○							○	○	33.9	12.8	55	35	▼
4	(1)	平清盛が権力を握ることができた背景について理解している		○					○			40.3	1.5	70	50	▼
4	(2)	鎌倉幕府の仕組みの一つである六波羅探題を理解している		○					○			22.4	23.9	70	50	▼
4	(3)	資料から、幕府軍と元軍の違いを読み取ることができる		○					○			71.4	0.8	70	50	◎
4	(4)	応仁の乱後の社会の変化を理解している		○					○			49.6	1.5	70	50	▼
4	(5)	資料を基に、農業生産が高まった理由を説明することができる		○						○	○	26.5	28.7	60	40	▼
5	(1)	織田信長が行った商人を招き、座や各地の關所を廃止し、自由な商工業の発展を図った政策が楽市・楽座であることを理解している			○					○		72.0	13.5	75	55	
5	(2)	豊臣秀吉が行った政策の一つが太閤検地（検地）であることを理解している			○					○		54.0	19.1	75	55	▼
5	(3)	刀狩令などにより、武士と農民の身分の区別が明確になったことが兵農分離であることを理解している			○					○		42.4	25.2	70	50	▼
5	(4)	老中という幕府の政治を取り仕切る役職を理解している			○					○		48.5	18.7	70	50	▼
5	(5)	資料から、江戸幕府がどのような仕組みをつくって全国を支配したのかを読み取ることができる			○					○		52.5	1.8	65	45	
6	(1)	資料から、江戸時代の交通網の発達を読み取ることができる			○					○		53.9	2.1	70	50	
6	(2)	資料を基に、江戸時代の大阪が商業の中心地として繁栄した理由を説明することができる			○						○	40.9	17.6	55	35	
6	(3)	上方で栄えた町人文化が元禄文化であることを理解している			○					○		39.1	14.2	70	50	▼
6	(4)①	松平定信が行った改革が寛政の改革であることを理解している			○					○		41.1	22.0	75	55	▼
6	(4)②	資料を基に、幕府の収入は安定したが、農民の年貢の負担が軽くなったり、重くなったりする理由を説明することができる			○						○	45.3	23.5	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校5年生と小学校6年生で地域差が縮小し、中学校1年生と中学校2年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校4年生	社会	H30[12月]	1.00	1.01	0.98	0.99	1.02	0.04
		H29[12月]	1.01	1.01	0.98	0.99	1.02	0.04
小学校5年生	社会	H30[12月]	1.00	1.03	0.98	1.00	1.00	縮 0.05
		H29[12月]	1.00	1.04	0.95	1.00	1.03	0.09
小学校6年生	社会	H30[12月]	0.99	1.00	0.98	1.02	1.03	縮 0.05
		H29[12月]	0.98	1.03	1.00	0.98	1.05	0.07
中学校1年生	社会	H30[12月]	1.05	0.99	0.91	0.98	1.08	▲ 拡 0.17
		H29[12月]	1.00	1.04	0.92	1.02	0.98	▲ 0.12
中学校2年生	社会	H30[12月]	1.00	1.06	0.91	1.01	1.01	▲ 拡 0.15
		H29[12月]	1.01	1.03	0.94	1.01	1.00	0.09

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

算数・数学

◎ 算数・数学

(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校の全ての学年、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。

【グラフ2】

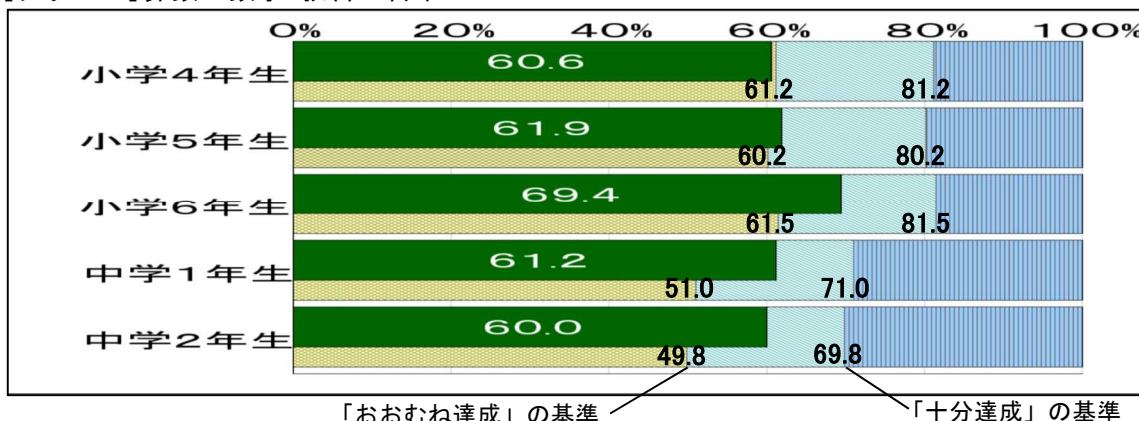
- 観点別に見ると、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての(数学的な)技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方(見方や考え方)」については、小学校の全ての学年、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。

【グラフ3～5】

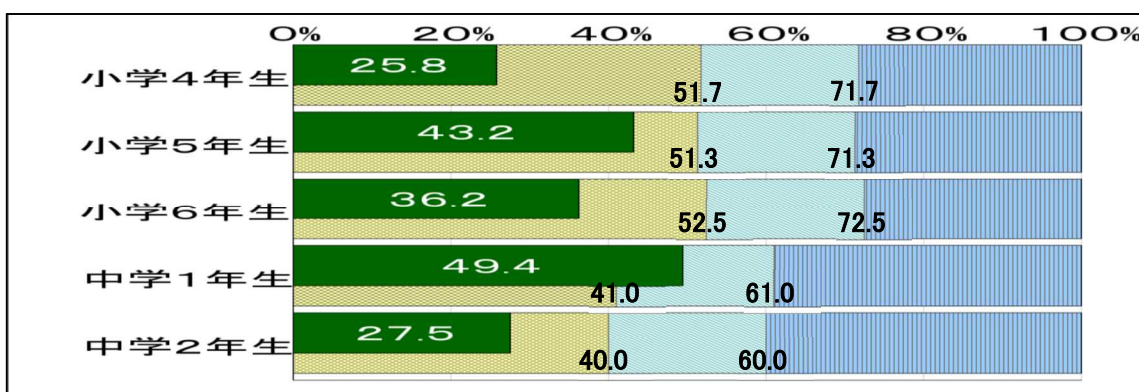
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「数と計算」「量と測定」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」については、小学4年生、「数量関係」については、小学5年生と小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「数と式」「関数」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。

【グラフ6～10】

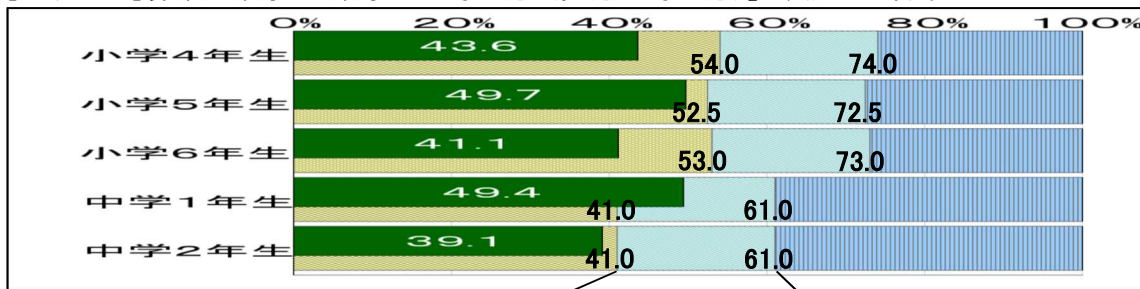
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



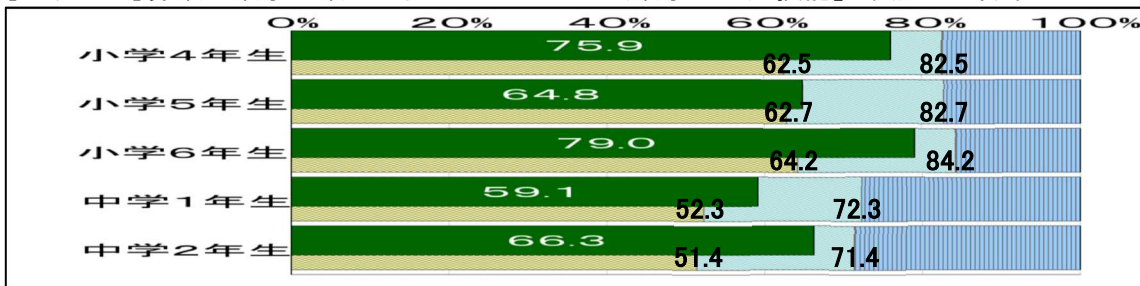
[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



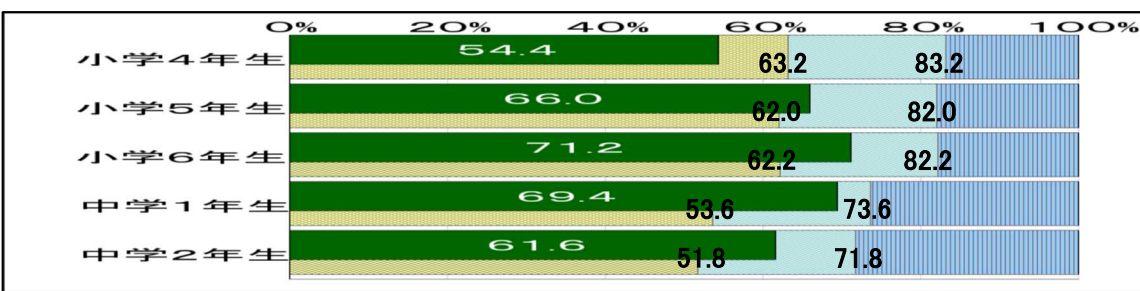
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

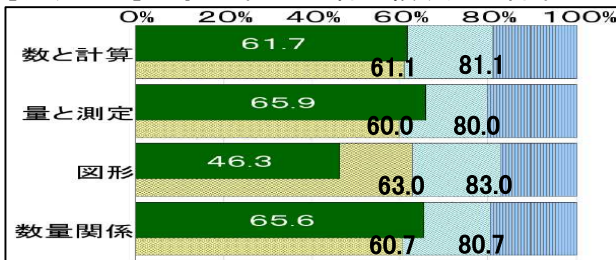
[グラフ4]算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



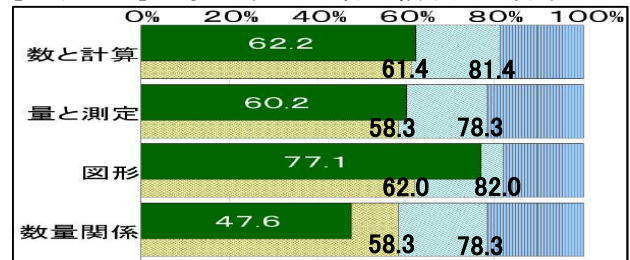
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



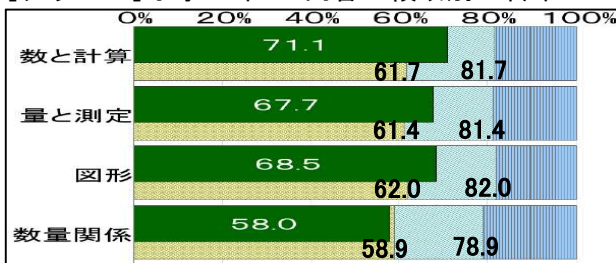
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



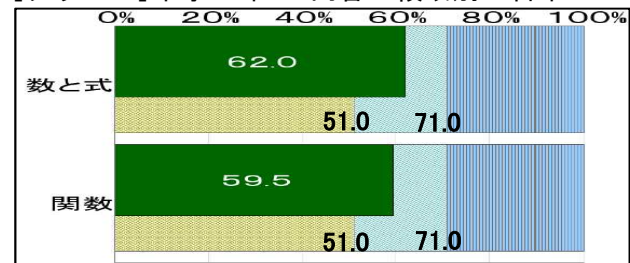
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



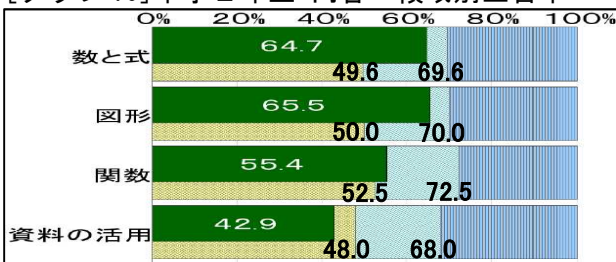
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 分度器を用いて角の大きさを求めたり、拡大図の対応する辺の長さを求めたりする技能が身に付いている。
(小学4年生 10(1)、小学6年生 4(1))
- ◇ 合同な図形の対応する辺や角、平行四辺形の対角線の交わり方、拡大図の対応する角の大きさは等しいことを理解することができている。
(小学5年生 6(1)(2)、小学6年生 4(2))
- ◆ 1 乗数や除数が整数、小数、分数の計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさの関係を理解することに課題が見られる。
(小学5年生 2(4)、小学6年生 3(4))
- ◆ 2 単位量当たりの大きさを求める除法の式を理解することや、その比べ方を理解することに一部課題が見られる。
(小学5年生 3、小学校6年生 5(2))
- ◆ 3 示された情報を基に、判断の理由を説明したり、筋道を立てて説明したりすることに課題が見られる。
(小学4年生 12、小学5年生 12、小学6年生 10)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 乗数や除数が整数、小数、分数の計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさの関係を理解するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「答えはどれくらいになりそうですか」と発問することで、問題解決の結果を見通すことができるようにしていますか。
 - かけ算だったら答えが大きくなる、わり算だったら答えが小さくなるというような児童のつまずきを生かして、正しい答えを考えたり説明したりする活動を授業に位置付けていますか。
 - 数量の関係を図や数直線などを用いて表したり、問題を具体的な場面に当てはめたりするなど、数量の関係を捉えられるようにして、乗数や除数と計算の答えの大きさの関係を調べる活動を位置付けていますか。
- ◆ 2 異種の二つの量の割合として捉えられる単位量当たりの大きさを求める除法の式や、その比べ方を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 立式するだけでなく、問題場面の二つの数量の関係を図や数直線に表して、「どうしてその式を立てることができるか」ということを考える活動を位置付けていますか。
 - 二つの数量の間には、比例関係や平均の考えが前提になっていることに着目し、式と図などを関連付けながら、式の意味や求めた数値の意味を説明する活動を位置付けていますか。
- ◆ 3 示された情報を基に、判断の理由を説明したり、筋道を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 一つの観点でグラフを読み取るだけでなく、グラフの特徴を複数の観点で捉え、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈したり、表された数直線から数量の関係を捉え、どのようなことが言えるか、数直線を基に説明したりする活動を位置付けていますか。
 - 式と答えだけでなく、問題解決の手掛かりとなるキーワードも書いて、児童が問題解決の過程を振り返ることができるような板書をしていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（小学校算数科）

- ◆ 3 示された情報を基に、判断の理由を説明したり、筋道を立てて説明したりすることに課題が見られる。

《小学校4年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問12	示された情報を基に、入場者数の合計を求め、考えが正しくない理由を説明することができる。 (記述式)	グラフの1目盛りの大きさが違う科学館の入場者数と図書館の入場者数のグラフから入場者数の合計は、図書館の方が多いという考えが正しくないことを説明する。	28.1	12.3	70.0	50.0

【正答の条件】

理由として、次の①、②、③の全てを書いているものを正答とする。

- ①科学館の9月から11月までの入場者数の合計を求める言葉や式。
- ②図書館の9月から11月までの入場者数の合計を求める言葉や式。
- ③図書館の方が9月から11月までの入場者数の合計が多くないことを表す言葉。または、科学館の方が9月から11月までの入場者数の合計が多いことを表す言葉。(準正答 理由として①、②のみを書いているもの。)

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・グラフの1目盛りの大きさは、科学館と図書館で異なることは理解できているが、「9月は1目盛りの大きさが500、図書館は200で、 $500 - 200 = 300$ だから」などのように、入場者数の合計を求めることができていない。
- ・科学館と図書館の9月から11月までのそれぞれの月の入場者数は読み取ることはできているが、それぞれの入場者数を記述することだけで終わるなど、入場者数の合計を求めることができていない。
- ・科学館と図書館で入場者数が一番多い月と入場者数を読み取ることはできているが、「科学館は10月が一番多くて2000人、図書館は10月が一番多くて1000人だから」など、入場者数の合計を求めることができていない。

■ 改善・充実に向けて

グラフの1目盛りの大きさを理解したり、グラフの数量の大きさを読み取ったりすることはできていますが、読み取ったことを基にそれらに関連付けて考えることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・月ごとの入場者数を読み取ったあと、読み取ったことを基にそれらに関連付けると、どのようなことが言えるか、グラフの特徴や傾向について考える活動を授業に位置付ける。
- ・読み取ったことを基にそれらに関連付けて、月ごとの入場者数の差や入場者数の合計など、グラフから特徴や傾向について考える活動を授業に位置付ける。そして、グラフのどの部分からどのように考えたのか友達に分かりやすく説明したり、友達がグラフから捉えた数、式のみを提示して解釈したりする活動を授業に位置付ける。
- ・棒グラフや折れ線グラフを学習した後に、自分たちの身の回りの事象について調べ、実際に表やグラフに表し、グラフから考えたことなどをまとめる活動を授業に位置付ける。

《小学校6年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問10	示された情報から、洗剤の増えた量は、どちらが多いかを筋道を立てて説明することができる。 (記述式)	30%増量で 780gになった洗剤Aと、500gから増量して 650gになった洗剤Bでは、どちらの方が増えた量が多いかを説明する。	20.7	4.3	70.0	50.0
<p>【正答の条件】 ア(Aの洗剤の方が増えた量が多い。)を選択し、理由として、次の①、②の全てを書いているものを正答とする。 ①Aの洗剤の増えた量が、180gであることを表す言葉や式。 ②Bの洗剤の増えた量が、150gであることを表す言葉や式。</p>						

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ Bの洗剤の増えた量が150gであることを求めることができているが、Aの洗剤の増えた量を $780 \times 0.3 = 234$ としたあと、 $780 - 234 = 546$ で546gと考えたり、 $780 \div 0.3$ と立式したりするなど、Aの洗剤の増えた量が180gであることを求めることができていない。
- ・ Bの洗剤の増えた量が150gであることは求めることができているが、150gと30%を比較しており、Aの洗剤の増えた量が180gであることを求めることができていない。

■ 改善・充実に向けて

多くの児童が30%を0.3と置き換えて考えることや、基準量が比較量÷割合で求められることは理解できていますが、増えた量の割合が $(1 + 0.3)$ であることを捉えることや式が何を求めているかを説明することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・ 示された数直線から数量の関係を捉え、Aの洗剤はもとにする量の1.3倍が780gであることを説明するなど、数直線から考えられることを説明する活動を授業に位置付ける。
- ・ どうしてその式を立式することができるのか、数、式、図を関連付けて考え説明したり、式や求めた数が、何を表しているかを考え説明したりする活動を授業に位置付ける。そして、 780×0.3 では何を求めているかを説明することができないことに気付いたり、 $\square \times 1.3 = 780$ のかけ算の式に表した後、もとの量を求める式が $780 \div 1.3$ になることに気付いたりすることができるようにする。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校数学（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の加法の計算、四則を含む正の数と負の数の計算、同類項をまとめる計算、整式の加法と減法の計算の技能が身に付いている。 (中学1年生 $\boxed{1}$ (1)(3)、中学2年生 $\boxed{1}$ (1)(2))
- ◇ 負の数における2数の大小関係、絶対値、正の数と負の数の意味、指数を含む式の計算の仕方を理解している。 (中学1年生 $\boxed{2}$ (1)(2)(4)、中学2年生 $\boxed{2}$ (1))
- ◆1 分数を含む一次式の減法や一次式を数でわる計算、単項式の除法の計算に一部課題が見られる。 (中学1年生 $\boxed{3}$ (1)(2)、中学2年生 $\boxed{1}$ (3))
- ◆2 比例の関係を式に表したり、グラフ上の点の座標から x と y の関係を式に表したり、表から変化の割合を求めたりすることに課題が見られる。 (中学1年生 $\boxed{9}$ (3) $\boxed{10}$ (3)、中学2年生 $\boxed{9}$ (1))
- ◆3 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られる。 (中学2年生 $\boxed{5}$ (2) $\boxed{12}$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 分数を含む一次式の減法や一次式を数でわる計算、単項式の除法の計算ができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 分数を含む一次式の加法や減法の計算では、生徒が係数に着目し、省略されている係数1を書いたり、通分した後の式を書いたりすることで、確実に計算できるようにしていますか。
 - 分数を含む単項式を計算する際に、生徒が逆数を確認した上で、文字の位置に注意して確実に計算できるようにしていますか。
- ◆2 比例の関係を式に表したり、グラフ上の点の座標から x と y の関係を式に表したり、表から変化の割合を求めたりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 比例、反比例、一次関数の式が、それぞれ $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$ で表されることを、生徒が確実に理解できるようにしていますか。
 - 生徒が、比例や反比例、一次関数の特徴を、式だけでなく、表やグラフを相互に関連付けて捉えることができるように、表に x と y の増加量を表したり、グラフの特徴から比例、反比例、一次関数を判断させ、読み取った x 座標と y 座標の値から、式がどのようなようになるかを考察したりする場面を設定していますか。
- ◆3 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 事柄が成り立つ理由を説明する際に、どのようなことが言えればよいか、その見通しをもたせていますか。
 - 説明すべき事柄とその根拠を、文字式や言葉を用いて説明し、その説明をペアやグループ、全体で振り返ってよりよい表現にしていくような活動を授業に位置付けていますか。
 - 資料の分布の様子を捉える場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断の理由を記述したり説明したりするような活動を取り入れていますか。
 - グラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなどの活動を通して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明させるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校数学科）

- ◆ 2 比例の関係を式に表したり、グラフ上の点の座標から x と y の関係を式に表したり、表から変化の割合を求めたりすることに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 10 (3)	反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる。 (短答式)	反比例のグラフが与えられており、グラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表す。	27.4	9.4	70.0	50.0

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ $y=10/x$ と書いており、「-」をつけ忘れている。
- ・ 比例の式を書いている。
- ・ 式で表さず、 $-2/5$ や -10 などの値を書いている。

■ 改善・充実に向けて

点が表す座標を読み取ることはできていますが、 x と y の関係を式に表すことに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・ 反比例では、 x と y の値の積が常に一定の値 a になることから、 $y=ax$ という式で表されることを確認する場面を設定する。
- ・ グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、グラフの特徴から反比例であると判断し、点の x 座標と y 座標を読み取り、 x と y の関係を式で表す活動を位置付ける。

- ◆ 3 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られる。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問12	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 (記述式)	度数分布多角形から読み取ることができる傾向について正しく述べたものを選んで、その理由を説明する。	26.3	16.8	60.0	40.0
【正答の条件】 ア(2年生は、3年生よりテレビの視聴時間が長い傾向にある。)を選択し、理由として、3年生の度数分布多角形よりも2年生の度数分布多角形の方が右側にあることを記述しているものを正答とする。						

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・アを選択することができているが、「2年生は0分以上30分未満は一人もいないが3年生は9人もいるから」、「2年生の方が特定の階級以上の総度数が大きいから」、「2年生の方が時間が長い階級の度数が大きいから」、「2年生の方が最も多い度数を含む階級が大きいから」「中央値を含む階級が2年生の方が大きいから」など特定の階級(度数分布多角形の一部)や値(最頻値、中央値)だけにしか着目しておらず、度数分布多角形全体に着目した理由を記述することができていない。
- ・アを選択することができているが、「2年生がテレビの視聴時間が長いから」のように2年生と3年生を比較して記述することができていない。また、「表を見ると…」のようにテレビの視聴時間の表を用いて記述しており、度数分布多角形に着目した理由を記述することができていない。
- ・アを選択することができているが、理由を記述することができていない。

■ 改善・充実に向けて

「2年生は3年生よりテレビの視聴時間が長い傾向にある」と資料の傾向を捉えることはできていますが、その判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・資料の傾向を判断することができるようにするために、度数分布多角形を用いて2つの資料の分布の特徴を捉える場面を設定する。
- ・同じような形をした2つの度数分布多角形を重ねると、分布の位置がずれていることから、2つの資料の分布の特徴(同じような形をしている、2年生の方が右側にある)を説明する際の根拠として捉えさせ、事柄が成り立つ理由を説明する活動を位置付ける。
- ・複数の資料の分布の様子を捉える際には、総度数が違う場合も扱い、相対度数を用いることで、度数分布表だけでなくヒストグラムや度数分布多角形を用いて分布の特徴を視覚的に捉えたり、比較したりするような場面を設定する。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学4年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,467	60.6	2.8	81.2	61.2	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	61.7	3.2	81.1	61.1	
	量と測定	5	65.9	1.0	80.0	60.0	
	図形	5	46.3	3.2	83.0	63.0	▼
	数量関係	7	65.6	3.3	80.7	60.7	
評価の観点	①考え方	5	43.6	6.8	74.0	54.0	▼
	②技能	10	75.9	1.5	82.5	62.5	
	③知識・理解	11	54.4	2.2	83.2	63.2	▼
問題形式	選択式	7	55.8	1.2	80.0	60.0	▼
	短答式	17	66.1	2.2	82.9	62.9	
	記述式	2	30.4	14.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	25.8	10.4	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			83.9	0.2	85	65	
1	(2) 除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○				○			○			76.7	2.0	85	65	
1	(3) 1/10の位までの小数の減法の計算をすることができる	○				○			○			87.7	0.5	80	60	◎
1	(4) 四則の混合した式を正しく計算することができる			○		○			○			79.7	0.4	85	65	
2	(1) 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○					○		○			70.9	0.4	85	65	
2	(2) 四捨五入、以上、以下、未満の意味と用語について理解している	○					○		○			67.2	1.1	80	60	
2	(3) 小数の意味と表し方について理解している	○					○		○			94.6	0.3	85	65	◎
2	(4) m ² で表された面積をcm ² で表すことができる	○				○			○			48.8	0.4	80	60	▼
3	(1) 除法に関して成り立つ性質を理解している	○					○		○			34.3	1.3	80	60	▼
3	(2) 長さや面積の感覚を身に付けている	○					○		○			52.6	0.3	80	60	▼
4	長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる	○				○			○			64.9	0.6	75	55	
5	(1) 場面と線分図を関連付けて、数量の関係を理解している			○			○		○			57.0	0.7	85	65	▼
5	(2) □を用いて数量の関係を式に表すことができる			○			○		○			69.4	1.0	80	60	
6	示された情報を解釈し、前に並んでいる人が乗り終わるまでのゴンドラの数を求め、筋道を立てて説明することができる	○				○			○	○		32.8	15.7	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係		①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
7	(1) 垂直			○				○		○			78.0	0.8	85	65		
7	(1) 平行			○				○		○			75.1	1.0	85	65		
7	(2)			○				○		○			32.4	3.0	85	65	▼	
8	(1)	○						○		○			6.9	7.3	80	60	▼	
8	(2)			○				○		○			29.2	7.8	85	65	▼	
9				○				○		○	○		16.6	3.2	75	55	▼	
10	(1)		○					○		○			87.5	1.5	85	65	◎	
10	(2)		○					○		○			75.8	2.1	80	60		
11	(1)			○				○		○			75.1	2.2	85	65		
11	(2)			○				○		○			85.9	2.8	80	60	◎	
11	(3)			○				○		○			64.0	4.1	80	60		
12				○				○		○	○		28.1	12.3	70	50	▼	

[表2] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,390	61.9	2.5	80.2	60.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	62.2	2.4	81.4	61.4	
	量と測定	6	60.2	1.8	78.3	58.3	
	図形	5	77.1	1.0	82.0	62.0	
	数量関係	6	47.6	5.2	78.3	58.3	▼
評価の観点	①考え方	6	49.7	5.8	72.5	52.5	▼
	②技能	11	64.8	1.2	82.7	62.7	
	③知識・理解	10	66.0	1.8	82.0	62.0	
問題形式	選択式	11	57.2	2.4	79.5	59.5	▼
	短答式	14	69.0	1.3	82.1	62.1	
	記述式	2	37.6	10.7	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	43.2	7.3	71.3	51.3	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○		○			65.8	0.3	85	65	
1	(2) 被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○					○		○			76.9	0.2	85	65	
1	(3) 被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○					○		○			78.5	0.6	85	65	
1	(4) 被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○					○		○			67.8	0.8	85	65	
1	(5) 四則が混合し、()を用いた式の計算をすることができる			○			○		○			60.9	0.5	80	60	
2	(1) 分数の大小関係について理解している	○					○		○			67.9	0.4	80	60	
2	(2) 最大公約数を求めることができる	○					○		○			73.2	1.6	85	65	
2	(3) 小数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係を理解している	○					○		○			66.9	0.7	80	60	
2	(4) 乗数や除数が小数である計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさの関係について理解している	○					○		○			29.8	4.0	80	60	▼
2	(5) 二つの数量の関係を口を用いて表すことができる			○			○		○			39.6	1.0	80	60	▼
2	(6) 測定値の平均を求めることができる	○					○		○			80.2	0.7	80	60	◎
3	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している	○					○		○			37.2	0.5	80	60	▼
4	(1) 分度器を用いて、180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○		○			45.9	0.2	80	60	▼
4	(2) 折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる			○			○		○			65.1	0.4	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係		① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
5	(1)	立方体の体積の求め方を理解している	○					○		○			66.5	2.5	85	65	
5	(2)	立体の体積の求め方を考えることができる	○					○		○			74.2	1.7	75	55	
6	(1)①	合同な図形の対応する辺について理解している		○				○		○			88.5	0.7	85	65	◎
6	(1)②	合同な図形の対応する角について理解している		○				○		○			89.0	0.7	85	65	◎
6	(2)	平行四辺形の対角線の交わり方について理解している		○				○		○			85.7	0.7	85	65	◎
6	(3)	直方体の展開図を理解している		○				○		○			81.9	0.6	80	60	◎
7		二つの観点から整理した表を用いて、先週も今週も図書室を利用した人数を考えることができる			○			○			○		51.1	4.2	75	55	▼
8		与えられた情報を基に、どちらの店で買うと代金が安くなるのかを考え、筋道を立てて説明することができる	○					○			○	○	52.5	3.4	70	50	
9		示された情報を基に、ひし形の定義を考えることができる		○				○		○	○		40.3	2.4	75	55	▼
10		示された情報を基に、平均を用いて目標を達成するために1日何周ずつ走らなければならないかを考えることができる		○				○			○	○	57.1	5.3	70	50	
11	(1)	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	○					○		○			58.9	7.1	80	60	▼
11	(2)	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	○		○			○		○			46.4	6.9	80	60	▼
12		示された情報を基に、観察したツルレイシは、同じツルレイシでない理由を説明することができる			○			○			○	○	22.8	18.0	70	50	▼

[表3] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,336	69.4	1.9	81.5	61.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	71.1	2.0	81.7	61.7	
	量と測定	7	67.7	1.9	81.4	61.4	
	図形	5	68.5	1.4	82.0	62.0	
	数量関係	9	58.0	2.6	78.9	58.9	▼
評価の観点	①考え方	5	41.1	5.0	73.0	53.0	▼
	②技能	13	79.0	1.2	84.2	64.2	
	③知識・理解	9	71.2	1.1	82.2	62.2	
問題形式	選択式	7	64.1	0.8	80.7	60.7	
	短答式	18	74.8	1.8	83.1	63.1	
	記述式	2	39.7	6.2	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	36.2	4.6	72.5	52.5	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	小数の除法の計算をすることができる	○					○				85.3	0.8	85	65	◎
1	(2)	異分母分数の加法の計算をすることができる	○					○				78.3	0.9	85	65	
1	(3)	被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算をすることができる	○					○				84.0	1.3	85	65	
1	(4)	被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算をすることができる	○					○				93.1	0.8	85	65	◎
1	(5)	小数及び分数を含んだ除法の計算をすることができる	○					○				76.0	2.3	80	60	
2	(1)	xやyを用いて、数量の関係を式に表すことができる		○				○				77.5	0.5	85	65	
2	(2)	比例の関係を式に表すことができる		○				○				93.1	0.7	80	60	◎
3	(1)①	逆数について理解している	○					○				80.6	3.2	85	65	
3	(1)②	時間と道のりから速さを求めることができる	○					○				93.0	0.7	85	65	◎
3	(2)	等しい比について理解している		○				○				80.0	0.2	85	65	
3	(3)	比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる		○				○				60.6	6.2	75	55	
3	(4)	除数が整数や小数、分数である除法において、除数と商の大きさの関係について理解している	○					○				55.0	2.2	80	60	▼
4	(1)	拡大図の対応する辺の長さを求めることができる		○				○				86.4	0.4	85	65	◎
4	(2)	拡大図の対応する角の大きさは等しいことを理解している		○				○				92.9	0.3	85	65	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)	運動場1周のおよその長さは、歩幅と歩数で求められることを理解している	○				○		○			58.8	0.2	80	60	▼
5	(2)	異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方を理解している	○				○		○			60.0	0.4	80	60	
6		示された情報を基に、作成する三角柱の側面の長方形の縦の長さや横の長さを考えることができる		○	○		○		○	○		16.7	5.1	75	55	▼
7	(1)	乗法や除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	○		○		○		○			67.2	1.9	80	60	
7	(2)	基準量と割合から比較量を求めることができる			○		○		○			57.2	3.7	85	65	▼
8	(1)	線対称な図形について理解している		○			○		○			79.1	0.6	85	65	
8	(2)	点対称な図形について理解している		○			○		○			67.4	0.6	80	60	
9	(1)	平行四辺形の面積を求めることができる	○				○		○			57.2	1.6	85	65	▼
9	(2)	三角柱の体積を求めることができる	○				○		○			67.3	1.2	85	65	
9	(3)	円の面積を求めることができる	○				○		○			79.3	0.7	85	65	
10		示された情報から、洗剤の増えた量は、どちらが多いかを筋道を立てて説明することができる	○		○		○			○	○	20.7	4.3	70	50	▼
11		示された情報を基に、割合を比較するという目的に適したグラフを判断することができる			○		○		○	○		48.9	1.1	75	55	▼
12		示された情報を基に、到着する時刻の求め方を説明することができる	○				○			○	○	58.6	8.0	70	50	

[表4] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,780	61.2	6.1	71.0	51.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	21	62.0	5.7	71.0	51.0	
	関数	10	59.5	6.9	71.0	51.0	
評価の観点	①見方や考え方	5	49.4	16.3	61.0	41.0	
	②技能	15	59.1	5.0	72.3	52.3	
	③知識・理解	11	69.4	3.0	73.6	53.6	
問題形式	選択式	9	64.7	1.8	72.2	52.2	
	短答式	19	61.6	6.2	72.1	52.1	
	記述式	3	48.6	18.2	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	5	49.4	16.3	61.0	41.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	関数	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1)	正の数と負の数の加法の計算をすることができる	○			○				86.8	0.4	75	55	◎
1	(2)	正の数と負の数の乗法の計算をすることができる	○			○				64.0	1.3	70	50	
1	(3)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○				82.5	1.5	75	55	◎
2	(1)	負の数における2数の大小関係について理解している	○			○				82.0	0.6	75	55	◎
2	(2)	絶対値について理解している	○			○				88.5	3.0	75	55	◎
2	(3)	指数の計算の仕方を理解している	○			○	○			67.9	0.7	70	50	
2	(4)	正の数と負の数の意味を実生活の場面に結び付けて理解している	○			○				80.7	1.9	75	55	◎
3	(1)	一次式の減法の計算をすることができる	○			○				37.5	9.7	70	50	▼
3	(2)	一次式を数でわる計算をすることができる	○			○				60.0	6.7	75	55	
3	(3)	分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○			○				42.1	6.0	70	50	▼
4	(1)	係数を理解している	○			○	○			43.4	1.3	70	50	▼
4	(2)	数量の関係を文字式に表すことができる	○			○	○			49.4	0.9	75	55	▼
4	(3)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○			○		○		59.1	4.6	75	55	
4	(4)	数量の関係の大小関係を不等式に表すことができる	○			○	○			64.1	1.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と式	関 数				① 見 方 や 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
5	(1)	等式の性質と移項の関係を理解している	○					○		○			83.1	1.6	75	55	◎
5	(2)	小数を含む一元一次方程式を解くことができる	○					○		○			63.5	9.6	70	50	
5	(3)	簡単な比例式を解くことができる	○					○		○			64.2	9.4	75	55	
6		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○					○		○	○		21.8	23.1	60	40	▼
7		文字を用いた式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	○					○		○	○		49.6	12.6	60	40	
8	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○			67.2	2.9	70	50	
8	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○		○	○		45.1	20.9	60	40	
9	(1)	比例定数の意味を理解している	○					○		○			53.2	2.9	75	55	▼
9	(2)	変域の表し方を理解している	○					○		○			53.7	7.6	70	50	
9	(3)	比例の関係を式に表すことができる	○					○		○			50.4	7.0	75	55	▼
9	(4)	比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している	○					○		○			58.1	2.8	75	55	
9	(5)	比例の関係をグラフに表すことができる	○					○		○			68.5	4.5	70	50	
10	(1)	反比例の意味を理解している	○					○		○			83.6	1.8	75	55	◎
10	(2)	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している	○					○		○			69.8	8.6	75	55	
10	(3)	反比例のグラフ上の点の座標から、xとyの関係を式で表すことができる	○					○		○			27.4	9.4	70	50	▼
11	(1)	与えられたグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	○					○		○	○		79.4	3.4	65	45	◎
11	(2)	事象の変化の様子を読み取り、求め方を数学的な表現を用いて説明することができる	○					○		○	○		51.3	21.2	60	40	

[表5] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,908	60.0	8.4	69.8	49.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	13	64.7	9.1	69.6	49.6	
	図形	8	65.5	5.1	70.0	50.0	
	関数	4	55.4	10.9	72.5	52.5	
	資料の活用	5	42.9	9.7	68.0	48.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	5	39.1	15.4	61.0	41.0	▼
	②技能	14	66.3	9.5	71.4	51.4	
	③知識・理解	11	61.6	3.7	71.8	51.8	
問題形式	選択式	13	59.1	3.7	70.8	50.8	
	短答式	14	67.0	10.1	71.1	51.1	
	記述式	3	31.8	20.6	60.0	40.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	27.5	16.7	60.0	40.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 同類項をまとめることができる	○					○		○		85.2	3.4	75	55	◎	
1	(2) 整式の加法と減法の計算をすることができる	○					○		○		80.1	3.7	75	55	◎	
1	(3) 分数を含む単項式の除法の計算をすることができる	○					○		○		58.5	9.3	70	50		
2	(1) 指数を含む式の計算の仕方を理解している	○					○		○		89.9	1.3	75	55	◎	
2	(2) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○		41.9	14.6	70	50	▼	
2	(3) 等式を目的に応じて変形することができる	○					○		○		48.9	13.6	70	50	▼	
3	(1) 連立二元一次方程式の解の意味を理解している	○					○		○		66.0	4.0	75	55		
3	(2) 連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○		62.7	12.1	70	50		
3	(3) 2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる	○					○		○		84.4	8.9	70	50	◎	
4	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	○					○		○		85.1	10.2	65	45	◎	
5	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○		88.9	6.2	70	50	◎	
5	(2) 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○					○		○	○	35.1	25.4	60	40	▼	
5	(3) 発展的に考えて新たな性質を見いだすことができる	○					○		○	○	14.9	5.0	60	40	▼	
6	(1) 垂線の作図の手順を理解している	○					○		○		73.1	2.1	70	50	◎	

設問別集計結果

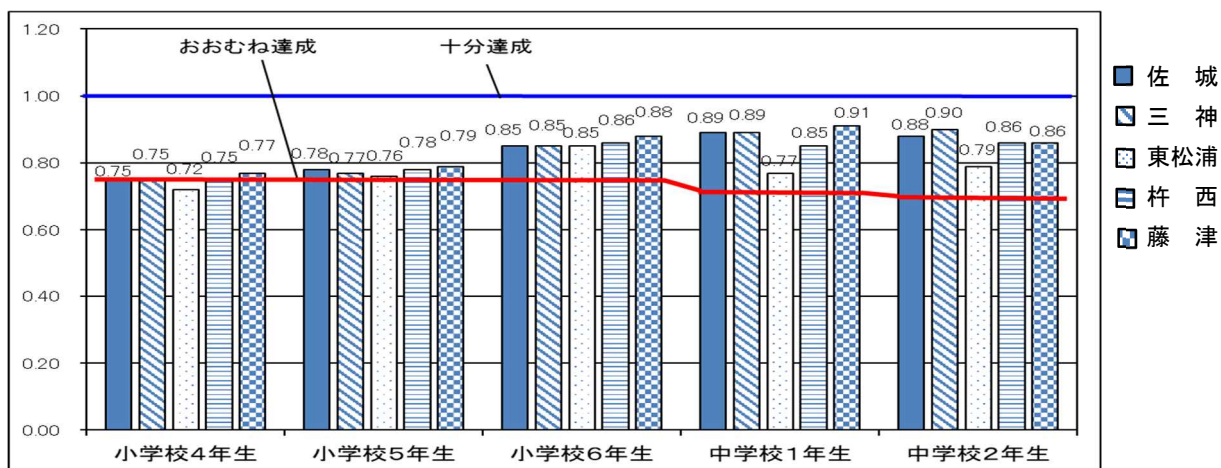
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(2)	空間における直線と平面との位置関係を理解している	○				○		○			75.3	1.9	75	55	◎
6	(3)	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	○				○		○			75.2	2.0	70	50	◎
6	(4)	錐体の側面積の求め方を理解している	○				○		○			32.2	2.7	70	50	▼
7	(1)	平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる	○				○		○			76.8	3.1	70	50	◎
7	(2)	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定と結論を読み取ることができる	○				○		○			81.1	8.0	75	55	◎
7	(3)	三角形の合同条件を理解している	○				○		○			76.0	1.7	70	50	◎
8		証明を見直して、改善することができる	○				○			○	○	34.0	19.6	60	40	▼
9	(1)	一次関数の表から変化の割合を求めることができる	○				○		○			47.9	21.1	70	50	▼
9	(2)	一次関数のグラフから、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる	○				○		○			68.6	11.3	75	55	
9	(3)	一次関数のグラフ上にある点の x 座標と y 座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している	○				○		○			51.1	5.7	75	55	▼
9	(4)	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	○				○		○			53.9	5.4	70	50	
10	(1)	グラフから必要な情報を読み取ることができる														
10	(2)	グラフから情報を読み取り、考えを数学的な表現を用いて説明することができる														
11	(1)	中央値について理解している	○				○		○			55.3	4.1	70	50	
11	(2)	相対度数の必要性和意味を理解している	○				○		○			52.5	5.2	70	50	
11	(3)	ヒストグラムから相対度数を求めることができる	○				○		○			27.8	15.5	70	50	▼
11	(4)	度数分布表を利用した平均値の求め方を理解している	○				○		○			52.4	7.1	70	50	
12		資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	○				○			○	○	26.3	16.8	60	40	▼

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校5年生と中学校2年生で地域差が縮小し、小学校4年生と中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H30[12月]	1.00	1.01	0.96	1.01	1.03	拡 0.07
	H29[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.03	0.06
小学校5年生	H30[12月]	1.01	0.99	0.98	1.01	1.02	縮 0.04
	H29[12月]	1.01	1.01	0.96	1.01	1.00	0.05
小学校6年生	H30[12月]	0.99	1.00	0.99	1.00	1.03	0.04
	H29[12月]	1.01	1.01	0.97	1.00	1.00	0.04
中学校1年生	H30[12月]	1.03	1.03	0.89	0.98	1.06	▲ 拡 0.17
	H29[12月]	1.01	1.03	0.95	0.99	1.03	0.08
中学校2年生	H30[12月]	1.02	1.04	0.92	1.00	1.00	▲ 縮 0.12
	H29[12月]	1.01	1.05	0.91	0.99	1.05	▲ 0.14

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

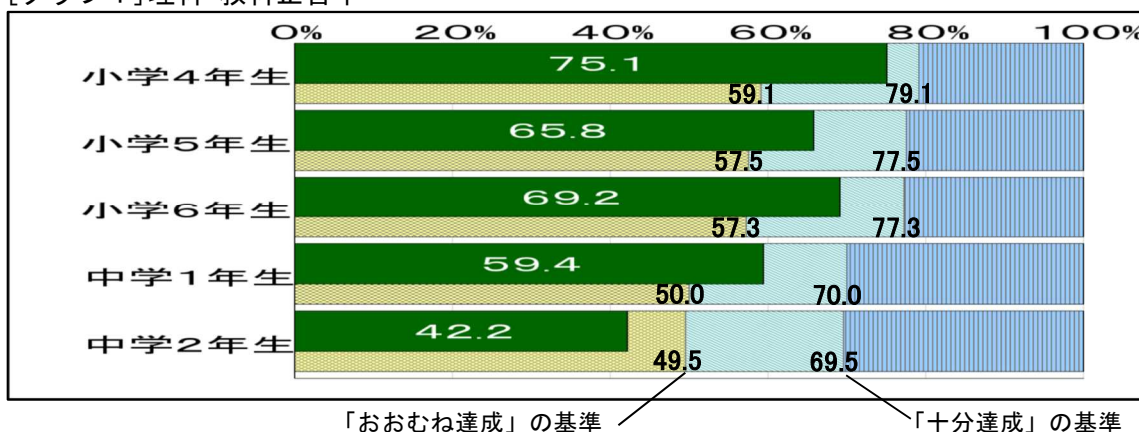
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

理 科

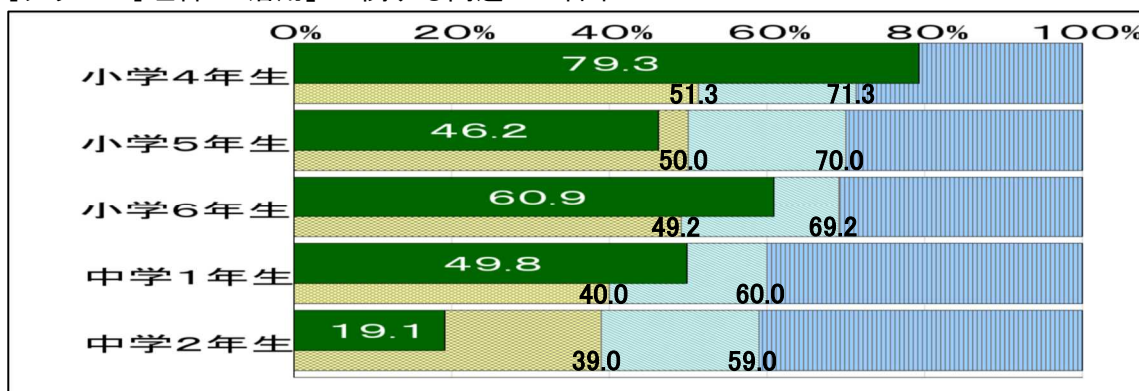
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学校の全ての学年、中学1年生で、「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「観察・実験の技能」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3～5】
- 内容・領域別に見ると、小学校の「生命・地球」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校の「生物的領域」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物理的領域」「化学的領域」「地学的領域」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ6～10】

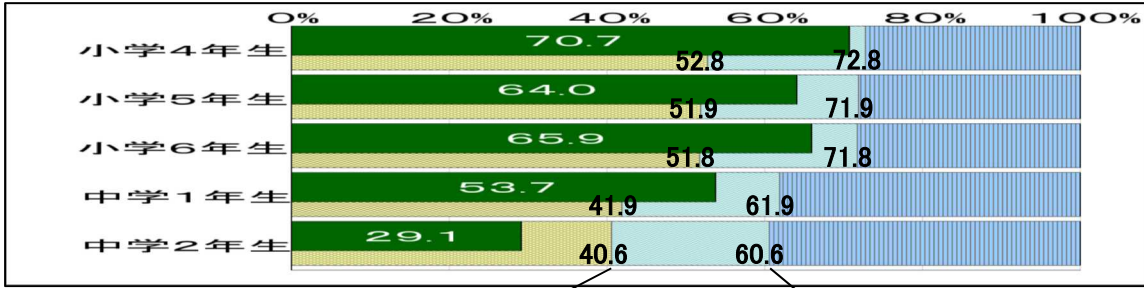
【グラフ1】理科 教科正答率



【グラフ2】理科 「活用」に関する問題の正答率



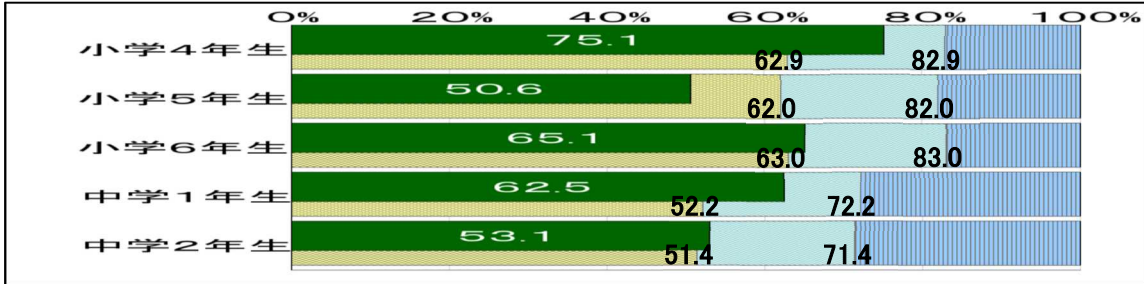
[グラフ3]理科 「科学的な思考・表現」 観点の正答率



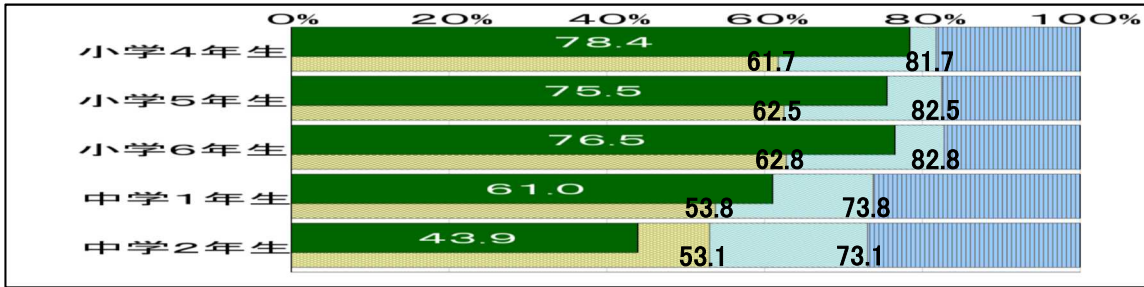
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

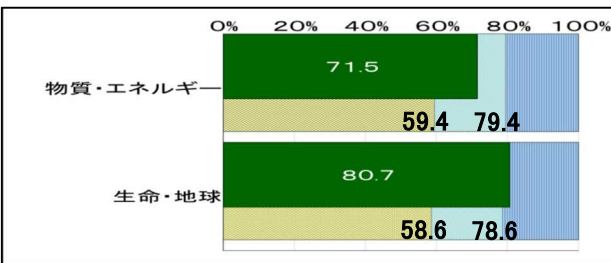
[グラフ4]理科 「観察・実験の技能」 観点の正答率



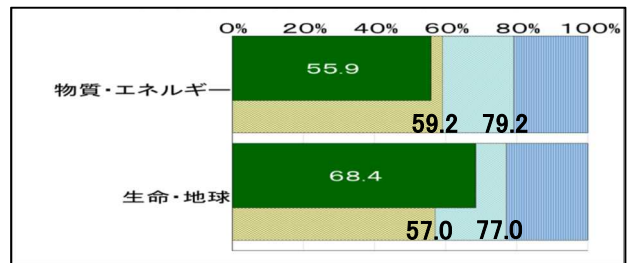
[グラフ5]理科 「自然事象についての知識・理解」 観点の正答率



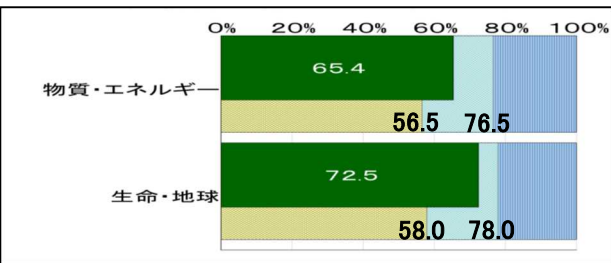
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



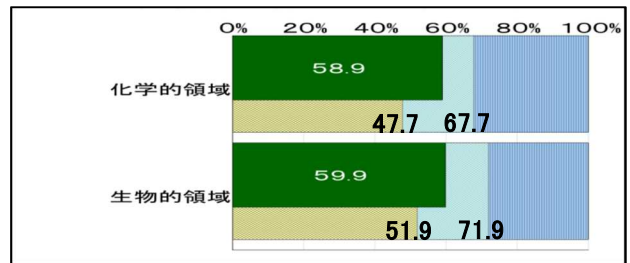
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



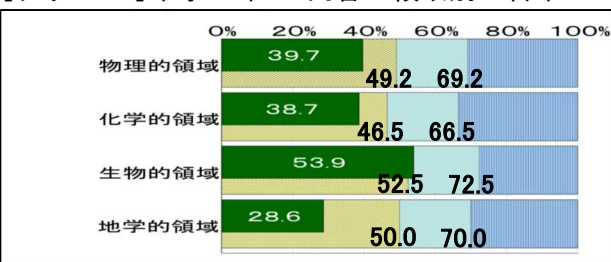
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校理科（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 物の重さや植物の結実、植物の体のつくりと働きに関する観察、実験の方法を構想することができている。
(小学4年生1(3)、小学5年生9(1)、小学6年生7(1))
- ◇ 人の体のつくりや天気の変化、植物の発芽に関する観察、実験の結果を分析して、より妥当な考えをつくり出すことができている。
(小学4年生9(2)、小学5年生5(1)6(1))
- ◇ 植物の体のつくり、生物と環境との関わりなどにおいて、科学的な言葉や概念を理解している。
(小学4年生4(1)(2)、小学5年生8(4)、小学6年生5(3)8(2))
- ◆ 1 既習の内容と生活場面などを結び付けて考えて表現することに課題が見られる。
(小学4年生3(2)、小学5年生3 4(3)5(2)6(3))
- ◆ 2 方位磁針や顕微鏡、温度計を適切に操作することに課題が見られる。
(小学5年生2(1)4(2)8(3)、小学6年生9(1))
- ◆ 3 電気の働きや水の性質などにおいて、科学的な言葉や概念を理解することに課題が見られる。
(小学4年生6(2)(3)2、小学5年生4(1)①②)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 既習の内容と生活場面などを結び付けて考えて表現することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 学習を通して得た知識や生活経験などを根拠にしながら予想する活動を設定していますか。
 - 一単位時間や単元の終末に、学習を通して得た知識を用いて、身の回りの自然の事物・現象について説明する活動を設定していますか。
- ◆ 2 観察、実験の器具を適切に操作することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 全ての児童が、実際に器具を操作する機会を設けることができるように、可能な限り環境を整備したり器具を準備したりしていますか。
 - ペアやグループで観察、実験を行う際には、一人の児童が器具を操作するのではなく、交代して全ての児童が操作することができるようにしていますか。
- ◆ 3 科学的な言葉や概念を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 結論を導き出す場面で、結論とその根拠となることを、科学的な言葉を用いながら自分なりに表現する活動を設定していますか。（例：「どのような実験を行ったか」「どのような結果が得られたか」「自分の予想に対して、結果からどのようなことが言えるのか」といったようなことを整理して表現する活動）
 - 既習の科学的な言葉を板書したり掲示したりして、児童が正確に用いることができるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（小学校理科）

◆ 1 既習の内容と生活場面などを結び付けて考えて表現することに課題が見られる。

《小学校4年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問③ (2)	豆電球のつくりを踏まえて、ソケットを使わずに豆電球に明かりを点灯させる回路を考えることができる。(記述式)	豆電球内部のつくりを示した図を基に、回路になるように図に導線を描き入れる。	25.4	0.7	70.0	50.0

【正答の条件】

乾電池の＋極と－極を、それぞれ豆電球の下部側面の金属部分と豆電球の下部底面の金属部分に、線でつないでいるものを正答とする。

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ 乾電池の＋極と－極の両方を、豆電球の下部底面の金属部分に、線でつないでいる。
- ・ 乾電池の＋極と－極を、それぞれ豆電球の下部底面の金属部分と絶縁部分に、線でつないでいる。
- ・ 乾電池の＋極と－極の両方を、豆電球の下部底面の絶縁部分に、線でつないでいる。

■ 改善・充実に向けて

既習の内容（電気の通り道が一つの輪のようになっているものが回路であること）を想起することはできていますが、与えられた情報から必要な情報を読み取ることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・ 児童が、観察、実験の結果を自分の言葉で表現する活動を授業に位置付ける。その際、意見交流を通して、観察、実験の結果を正確に表すことができているかを検討し、どのような表現がよいかを考えさせるようにする。
- ・ 児童が、観察、実験を行いながら、自然の事物・現象のつくりや仕組みについて考えるような活動を単元に位置付ける。例えば、導線付きソケットを使わずに、豆電球と導線、乾電池を使って明かりを付けることを通して、豆電球内部のつくりがどうなっているかを考えて説明する活動を授業に位置付ける。

《小学校5年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4 (3)	水を凍らせると体積が大きくなることを、ペットボトルが変形したり破損したりすることに適用することができる。(記述式)	水を凍らせた時の体積変化の実験結果を基に、ペットボトルの注意書き「凍らせないでください。」の理由を説明する。	45.4	3.2	70.0	50.0
<p>【正答の条件】 次の①、②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①水は凍ると体積が大きくなることを記述していること。 ②ペットボトルが変形したり、破損したりすることを記述していること。</p>						

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ペットボトルが変形したり破損したりする旨を記述することができているが、「ペットボトルが膨らみ、破裂するから。」のように水は凍ると体積が大きくなる旨を記述することができていない。
- ・水は凍ると体積が大きくなる旨を記述することができているが、「凍らせると体積が膨らむから。」のようにペットボトルが変形したり破損したりする旨を記述することができていない。
- ・「水が凍って、上に上がってくるから。」のように水を冷やすと水面が上に上がる旨を記述しており、体積が大きくなる旨を記述することができていない。

■ 改善・充実に向けて

与えられた情報から考えられることを適切に表現したり、与えられた情報から読み取ったことを生活場面などに当てはめて考えたりすることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・与えられた情報から考えられることを適切に表現できるようにするために、児童一人一人が、観察、実験の結果から言えることを考えて、自分の言葉で表現する活動を授業に位置付ける。その際、意見交流によって、より妥当な考えにすることができるようにする。
- ・与えられた情報から読み取ったことを別の事物・現象に当てはめて考えることができるようにするために、児童が、根拠を明らかにしながら、予想する活動を授業に位置付ける。その際、学習を通して得た知識や生活経験などを想起させながら取り組ませるようにする。また、学習内容に関係のある身の回りの自然の事物・現象について、得た知識を用いて説明する活動を単元や授業に位置付ける。
- ・正答の中にも、水は凍らせると「体積が大きくなる」ことを、「体積が増える」「量が多くなる」「量が大きくなる」などのように記述しているものがあつた。その後の学習や中学校の学習への接続も視野に入れて、科学的な言葉を適切に使用しながら授業を行うようにする。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校理科（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 気体の性質において、適切な実験方法を身に付けたり、気体の性質を理解したりしている。
(中学１年生 $\boxed{7}$ ($\boxed{2}$)($\boxed{3}$))
- ◇ 生物の進化において、進化や相同器官などの基礎的な知識について理解している。
(中学２年生 $\boxed{14}$ ($\boxed{1}$)($\boxed{2}$))
- ◆ 1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けることについて課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{1}$ ($\boxed{2}$)($\boxed{5}$)($\boxed{2}$)、中学２年生 $\boxed{4}$ ($\boxed{1}$)($\boxed{2}$)($\boxed{12}$)($\boxed{1}$)($\boxed{13}$)($\boxed{1}$))
- ◆ 2 既存の知識や与えられた情報を基に、実験の結果を推定することに課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{4}$ ($\boxed{3}$)、中学２年生 $\boxed{5}$ ($\boxed{3}$)($\boxed{8}$))
- ◆ 3 実験を構想することに課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{8}$ 、中学２年生 $\boxed{3}$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切となります。
 - 授業の最初に、既習の知識と本時の学習を結び付けながら問題を見いださせることで、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。
 - できる限り観察、実験を通して自ら調べさせた上で、理解することができるようにしていますか。
 - 授業の終末で、科学的な言葉を使いながら振り返りを行うことで、授業で取り扱った内容と科学的な知識を結び付けることができるようにしていますか。
- ◆ 2 既存の知識や与えられた情報を基に、実験の結果を推定することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切となります。
 - 実験の前には仮説をもたせ、自分の考えが正しいとするとどのような結果が得られるかを考えさせることで、見通しをもって実験に取り組むことができるようにしていますか。
 - 実験の結果を得た後に、自分の考えていた結果との一致・不一致を確認させることで、目の前の実験でなぜその結果が得られたかを振り返ることができるようにしていますか。
 - 実験を終えた後に、今回の実験の条件を変えて類似する実験を行った場合、どのような結果が得られるかを考えさせることで、実験の条件と実験の結果の関係を意識できるようにしていますか。
- ◆ 3 実験を構想することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切となります。
 - 学習問題を解決したり、仮説を証明したりするためにはどのような観察、実験を行えばよいかを考えさせるような学習場面を設定していますか。
 - 小学校で用いてきた考え方である関係付けや条件制御を使って、これから行う観察、実験について、何と何を比べるのか、どの数値を変えるのか、どのような条件を変えてはいけないのかなどの計画を立てるような学習場面を設定していますか。
 - これから行う観察、実験では、どのような手順で行えばよいのか、必要となる器具は何かを考えさせるような学習場面を設定していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校理科）

◆ 3 実験を構想することに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問8	示された水溶液が何であることを推定する実験を構想することができる。 (選択式)	食塩水、炭酸水、砂糖水、アンモニア水を区別するための実験方法を、いくつかの選択肢から2つ選んで解答する。	38.9	0.7	60.0	40.0

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・物質名と確かめるための方法が結び付いておらず、食塩水での水の蒸発による再結晶やエタノールと水の混合液の蒸留後のエタノールの確かめ方などと混同してしまっているため、正しく実験を構想することができていない。
- ・アンモニア水という名称から、方法としてにおいをかぐことを、炭酸水や食塩水という名称から、方法としてリトマス紙を使うことを考えることができていないため、この2つの方法を用いても食塩水と砂糖水を区別することができないということを考えることができていない。

■ 改善・充実に向けて

ある1つの物質を確認するための方法について十分に理解できていないことや、方法は十分に理解していても実験で明らかにしたいことを踏まえて実験を構想することができないという課題が見られます。この課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・「食塩水と炭酸水を区別するためにはリトマス紙を使う方法とにおいをかぐ方法ではどちらがふさわしいですか？」と複数の実験方法を提示してどれが一番ふさわしいかどうかを考えさせたり、「アンモニア水と炭酸水と砂糖水を区別するためには、どのような実験を行えばよいですか？」と実験の目的のためにはどのような実験を行えばよいかを考えさせたりすることで、主体的に実験を構想することができるようにする。
- ・「食塩水と砂糖水を区別することが今回の実験の目的です。」や「今回の実験ではっきりさせたいことは何ですか？」などと実験前に明らかにしたい事を確認したり問い掛けたりすることで、実験の目的意識を明確に把握できるようにする。
- ・実験の目的を達成するために、個人で実験を構想させ、それぞれの構想した実験の計画を基にグループや全体で意見交換を行わせることで、実験の計画の妥当性を様々な角度で検討することができるようにする。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3	水の量による水圧の変化について調べる実験を構想することができる。 (選択式)	水圧が水の量で変わるかどうかを調べるという実験の目的を踏まえて行う実験では、1つ目に行った実験の条件をどのように変えればよいかを考えることができる。	13.2	0.9	65.5	45.0

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・実験の条件制御として、1つの条件を変えるときは、他の条件を変えてはいけないという事は理解できているが、穴の高さという条件を変えてしまうと、もともとの穴から出た水の飛距離と比べることができないということを考えることができていない。
- ・実験の条件制御として、1つの条件を変えるときは、他の条件を変えてはいけないという事は理解できているが、水面を高くしてしまうことで水の量だけでなく水の深さという条件まで変わってしまうことを考えることができていない。

■ 改善・充実に向けて

実験の条件制御として、1つの条件を変えるときは、他の条件を変えてはいけないという事は理解できていますが、実験の目的に対応して適切に条件制御をすることに課題が見られます。この課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・教師が一方的に実験の方法を伝えるのではなく、生徒が実験の目的に応じて条件制御を行うような実験を計画させる場面を設定することで、主体的に条件制御をすることができるようにする。
- ・「今日の実験の目的は、水圧が水の量で変わるかどうかを調べることです。この目的のためには、何を変えなければいけませんか？また何を変えてはいけませんか？」と問い掛け、一つ一つの条件を丁寧に確認することで、実験の目的に応じた条件制御ができるようにする。
- ・水圧の実験を行った後に、「今回の実験で、水の深さで水圧が変わることは分かりましたが、水圧が水の量に関係するかを調べたいと思います。今回の実験をどのように変えればいいですか？」と問い掛けることで、実験の目的が変われば、条件制御も変わることを意識できるようにする。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学4年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,501	75.1	0.9	79.1	59.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	17	71.5	0.7	79.4	59.4	◎
	生命・地球	11	80.7	1.2	78.6	58.6	
評価の観点	①思考・表現	9	70.7	0.9	72.8	52.8	
	②技能	7	75.1	0.8	82.9	62.9	
	③知識・理解	12	78.4	1.1	81.7	61.7	
問題形式	選択式	17	81.8	0.6	79.4	59.4	◎
	短答式	6	73.2	1.7	82.5	62.5	
	記述式	5	54.7	1.2	74.0	54.0	
活用	「活用」に関する問題	4	79.3	1.4	71.3	51.3	◎

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式	活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式			記述式	「活用」に関する問題	
1	(1) 電子てんびんを使って物の重さを量る手順を身に付けている	○				○			92.4	0.2	85	65	◎
1	(2) 物の形が変わっても重さは同じであることから、形を変えた粘土の重さを判断することができる	○				○			81.5	0.3	75	55	◎
1	(3) 異なる素材の物は、同じ体積、同じ形であっても重さが異なることを確かめる実験を、条件を踏まえて構想することができる	○				○			86.4	0.2	75	55	◎
2	(1) ゴムの元に戻ろうとする力の強さによって物を動かす力の大きさが変わることを確かめる実験を、条件を踏まえて構想することができる	○				○			75.1	0.3	75	55	◎
2	(2) ゴムを長く伸ばすと、物は大きく動くことを理解している	○				○			93.7	0.2	80	60	◎
2	(3) ゴムの力で動くおもちゃの仕組みを考案することができる	○				○		○	74.7	0.4	70	50	◎
3	(1) ビニル導線を適切に用いて、回路を作ることができる	○				○			66.9	0.2	85	65	
3	(2) 豆電球のつくりを踏まえて、ソケットを使わずに豆電球に明かりを点灯させる回路を考案することができる	○				○			25.4	0.7	70	50	▼
4	(1) 植物の体のつくりを理解している	○				○			96.5	0.4	85	65	◎
4	(2) 植物は、種類によって固有の形態があることを理解している	○				○			91.0	0.7	80	60	◎
4	(3) 植物の成長の順序を、ヒョウタンの成長の様子に適用して考えることができる	○				○		○	84.0	0.4	75	55	◎
5	(1) 気温の適切な測り方を身に付けている	○				○			81.2	0.2	80	60	◎
5	(2) 晴れの日の天気の変化を基に、1日の気温変化の様子を判断することができる	○				○			50.6	0.5	75	55	▼
6	(1) スイッチの電気用図記号(回路図記号)を理解している	○				○			83.4	0.7	80	60	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(2)	乾電池の向きを反対にすると、電流の向きが反対になることを理解している	○					○				51.6	2.1	80	60	▼
6	(3)①	乾電池を並列につないだ回路を作ることができる	○					○		○		37.2	1.0	80	60	▼
6	(3)②	乾電池1つの回路の電流の大きさと、並列つなぎの回路の電流の大きさが等しいことを理解している	○					○				41.9	2.1	80	60	▼
7	(1)	空気の性質を生かしたおもちゃの安全な使い方を身に付けている	○					○				89.2	0.3	85	65	◎
7	(2)	閉じ込めた空気を圧すと、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなることを理解している	○					○				76.7	0.4	85	65	
7	(3)	閉じ込めた水は、押し縮めることができないことを理解している	○					○				70.1	0.6	85	65	
8	(1)	方位磁針の使い方を身に付けている	○					○				86.7	1.9	85	65	◎
8	(2)	半月は、太陽と同じように、東の方から昇り、南の高い空を通過して西の方へ沈むことを理解している	○					○				73.8	0.9	80	60	
8	(3)	月の位置が変化する様子の観察について、適切な方法に改善することができる	○					○		○		78.5	3.6	70	50	◎
9	(1)	腕を曲げたときの筋肉の動きを理解している	○					○				76.8	1.0	80	60	
9	(2)	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することができる	○					○		○		80.1	1.3	70	50	◎
9	(3)	骨と骨のつなぎ目を関節ということを理解している	○					○				88.7	2.6	85	65	◎
10	(1)	石鹼水の膜を付けた試験管をお湯に入れたときの、石鹼水の膜の様子を理解している	○					○				96.3	1.4	80	60	◎
10	(2)	お湯を使った実験を、安全に行うことができる	○					○				72.1	1.4	80	60	

[表2] 小学5年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,433	65.8	1.1	77.5	57.5	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	6	55.9	1.3	79.2	59.2	▼
	生命・地球	22	68.4	1.0	77.0	57.0	
評価の観点	①思考・表現	13	64.0	1.2	71.9	51.9	
	②技能	5	50.6	0.9	82.0	62.0	▼
	③知識・理解	10	75.5	0.9	82.5	62.5	
問題形式	選択式	17	66.6	0.5	77.4	57.4	
	短答式	7	73.1	1.6	80.7	60.7	
	記述式	4	49.2	2.6	72.5	52.5	▼
活用	「活用」に関する問題	5	46.2	1.2	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 実験用ガスこんろを安全に使うことができる	○			○		○			75.4	0.0	85	65	
1	(2) 水の温まり方を理解している	○			○		○			71.1	0.1	80	60	
2	(1) 方位磁針の使い方を身に付けている	○			○		○			38.3	0.4	80	60	▼
2	(2) 時刻を変えて同じ場所で観察した星の位置の記録を比較して、星の動き方を考えることができる	○			○		○			82.2	0.1	75	55	◎
2	(3) 星座の位置は変わるが、星の並び方は変わらないことを理解している	○			○		○			89.7	0.1	85	65	◎
3	容器にふたをして水蒸気が出て行かないようにしたときの、容器と水を合わせた重さを判断することができる	○			○		○	○		29.5	0.1	70	50	▼
4	(1)① 沸騰しているときに出てくる泡が水蒸気であることを理解している	○			○		○			54.6	1.4	80	60	▼
4	(1)② 湯気は、液体であることを理解している	○			○		○			43.5	0.3	80	60	▼
4	(2) 水を0℃以下に冷やすときの、温度計の使い方を身に付けている	○			○		○			45.5	2.7	80	60	▼
4	(3) 水を凍らせると体積が大きくなることを、ペットボトルが変形したり破損したりすることに適用することができる	○			○		○	○		45.4	3.2	70	50	▼
5	(1) 雲画像とアメダスの雨量情報から、佐賀市の天気を判断することができる	○			○		○			95.4	0.5	75	55	◎
5	(2) 雲画像とアメダスの雨量情報から、次の日の佐賀市の天気を予想することができる	○			○		○			37.1	0.6	70	50	▼
5	(3) 台風の動きとその後の天気の様子について理解している	○			○		○			74.7	0.2	80	60	
6	(1) 発芽に必要な条件を踏まえて、インゲンマメが発芽するかどうかを判断することができる	○			○		○			88.4	0.2	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
6	(2)	○				○					○	68.9	4.0	70	50		
6	(3)	○				○			○		○	43.6	0.4	70	50	▼	
7	(1)	○				○				○		73.6	2.4	75	55		
7	(2)	○						○				86.0	0.4	85	65	◎	
7	(3)	○				○					○	63.2	1.1	70	50		
8	(1)	○						○				81.5	1.3	85	65		
8	(2)	○						○				73.2	0.6	85	65		
8	(3)	○						○				20.7	0.8	80	60	▼	
8	(4)	○						○				85.7	0.6	80	60	◎	
9	(1)	○				○						93.0	0.7	75	55	◎	
9	(2)	○						○				89.9	2.2	85	65	◎	
10	(1)	○				○					○	49.4	1.3	70	50	▼	
10	(2)	○						○				78.8	2.7	85	65		
10	(3)	○				○						63.0	1.4	75	55		

[表3] 小学6年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,345	69.2	1.1	77.3	57.3	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	13	65.4	1.0	76.5	56.5	
	生命・地球	15	72.5	1.2	78.0	58.0	
評価の観点	①思考・表現	14	65.9	1.3	71.8	51.8	
	②技能	5	65.1	0.2	83.0	63.0	
	③知識・理解	9	76.5	1.2	82.8	62.8	
問題形式	選択式	15	66.7	0.3	78.3	58.3	
	短答式	7	78.7	1.5	80.7	60.7	
	記述式	6	64.2	2.6	70.8	50.8	
活用	「活用」に関する問題	6	60.9	1.1	69.2	49.2	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 方位磁針の針の向きから、電磁石の極を判断することができる	○		○			○			79.7	0.1	75	55	◎
1	(2) 電流の向きを逆にすると電磁石の極も逆になることを理解している	○			○		○			79.0	1.3	80	60	
1	(3) 簡易検流計を適切に使い、電流の大きさを測ることができる	○		○			○			68.5	0.1	85	65	
1	(4) 電磁石の鉄心の太さと鉄を引き付ける強さとの関係を確認める実験を、条件に目を向けて改善することができる	○		○			○	○		59.5	0.1	70	50	
2	(1) メスシリンダーの使い方を身に付けている	○		○			○			69.5	0.1	85	65	
2	(2) 水溶液の重さは、水の重さに溶かした物の重さを加えた全体の重さになることから、ミョウバンの水溶液の重さを判断することができる	○		○			○			64.6	1.0	75	55	
2	(3) 水を蒸発させることにより、溶けている物を水溶液から取り出す方法を構想することができる	○		○			○			77.8	2.1	70	50	◎
3	(1) 振り子の長さまで変わることで、変える条件以外の条件も変わってしまうことを説明することができる	○		○			○			67.5	3.1	75	55	
3	(2) 振り子の1往復する時間とおもりの重さとの関係を確認める実験の結果を考察することができる	○		○			○			58.3	0.3	75	55	
3	(3) 振り子の1往復する時間について、実験結果の二つのグラフから言えることを説明することができる	○		○			○			41.7	2.6	70	50	▼
4	(1) 気体検知管と気体採取器の使い方を身に付けている	○		○			○			63.7	0.1	80	60	
4	(2) 酸素を満たした瓶の中で、物を燃やしたときの様子を理解している	○		○			○			64.1	0.1	85	65	▼
4	(3) 濡れたタオルを掛ける消火方法の仕組みを、燃焼の仕組みに関係付けて説明することができる	○		○			○	○		56.0	2.1	70	50	
5	(1) でんぷんが作られることと日光との関係を確認めるための実験を構想することができる	○		○			○	○		27.7	0.2	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等						評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球					①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(2)	実験に用いる3枚の葉を見分けるための工夫を考 えることができる	○					○				○	77.5	2.6	75	55	◎	
5	(3)	でんぶんの有無を確かめる薬品として、ヨウ素液 が用いられることを理解している	○						○				87.1	2.0	80	60	◎	
6	(1)	消化の働きを理解している	○						○				72.4	4.8	85	65		
6	(2)	酸素を取り入れて二酸化炭素を出す臓器が肺であ ることを理解している	○						○				73.5	0.3	85	65		
6	(3)	石灰水の安全な使い方を身に付けている	○					○			○		92.4	0.2	85	65	◎	
6	(4)	体の中で不要になったものは腎臓でこし出され、 膀胱に溜められ、体の外に出されることを理解し ている	○						○				75.0	0.3	80	60		
7	(1)	水の量の変化を分かりやすくするために、三角フ ラスコに入れた色水の水面の位置に印を付ける実 験方法を構築することができる	○					○			○		90.5	0.3	75	55	◎	
7	(2)	根から吸い上げられた水が、茎のどこを通過して いるのかを理解している	○						○				55.5	0.6	80	60	▼	
7	(3)	染色剤が、花を染める仕組みを説明することがで きる	○					○			○	○	64.5	3.3	65	45		
8	(1)	アブラムシの被害を防ぐための方法を、「食べる・ 食べられる」という関係で考えることができる	○					○				○	85.4	0.5	75	55	◎	
8	(2)	他の動物を食べる動物を肉食動物（肉食の動物） ということを理解している	○						○				94.6	0.9	85	65	◎	
9	(1)	方位磁針の使い方を身に付けている	○					○					31.3	0.6	80	60	▼	
9	(2)	示された太陽の方位と月の形を基に、月の見える 方位を考えることができる	○					○				○	72.4	0.6	65	45	◎	
9	(3)	月の表面の様子を理解している	○						○				87.3	0.6	85	65	◎	

[表4] 中学1年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,790	59.4	5.0	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	化学的領域	13	58.9	4.7	67.7	47.7	
	生物的領域	16	59.9	5.3	71.9	51.9	
評価の観点	①思考・表現	8	53.7	3.1	61.9	41.9	
	②技能	9	62.5	4.6	72.2	52.2	
	③知識・理解	12	61.0	6.7	73.8	53.8	
問題形式	選択式	16	61.7	1.3	68.1	48.1	
	短答式	10	59.7	9.0	73.0	53.0	
	記述式	3	46.8	11.5	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	49.8	2.9	60.0	40.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		化学的領域	生物的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1) 胚珠を理解している	○				○			○	64.4	6.2	75	55	
1	(2) りん片を理解している	○				○			○	35.3	15.5	75	55	▼
1	(3) 裸子植物を理解している	○				○			○	79.3	4.1	75	55	◎
2	(1) 調査結果を基に、ツユクサの生える場所を推定することができる	○				○			○	65.1	1.1	60	40	◎
2	(2) 葉脈を理解している	○				○			○	68.4	7.1	75	55	
3	(1) 光合成に関する実験を安全に行うことができる	○				○			○	32.5	11.6	70	50	▼
3	(2) 葉緑体を理解している	○				○			○	70.1	9.3	75	55	
3	(3) 光合成と呼吸の知識を基に、植物の気体の出入りを正しく表現することができる	○				○			○	69.5	0.7	65	45	◎
4	(1) 顕微鏡を適切に使うことができる	○				○			○	71.2	0.5	75	55	
4	(2) 蒸散の実験を、適切な理由を基に行うことができる	○				○			○	68.0	8.0	70	50	
4	(3) 気孔についての知識を用いて、蒸散の実験結果について推定することができる	○				○			○	31.9	0.7	65	45	▼
5	(1) 顕微鏡の対物レンズと接眼レンズを組み合わせ、観察する倍率を設定することができる	○				○			○	74.0	1.6	75	55	
5	(2) 道管を理解している	○				○			○	50.4	11.4	75	55	▼
6	(1) シダ植物の茎を理解している	○				○			○	59.2	0.6	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等						評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		化学的領域	生物的領域					① 思考・表現	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(2)	シダ植物が孢子で増えることを理解している	○						○					59.2	5.8	75	55	
6	(3)	ゼンマイがシダ植物に分類されることを理解している	○						○					59.5	0.6	70	50	
7	(1)	二酸化炭素を様々な方法で発生させることができる	○						○					50.6	0.5	70	50	
7	(2)	適切な方法で気体を収集することができる	○						○					77.8	0.8	75	55	◎
7	(3)	酸素の性質を理解している	○						○					83.9	0.6	70	50	◎
8		示された水溶液が何であるかを推定する実験を構想することができる	○						○			○		38.9	0.7	60	40	▼
9	(1)	溶質が水に溶けても、粒子の大きさや数に変化しないことを理解している	○						○					50.4	1.0	70	50	
9	(2)	溶解度曲線を基に、ある量の物質が水に完全に溶けるかどうかを考慮することができる	○						○					62.6	4.9	65	45	
9	(3)	ろ過を正しく行うことができる	○						○					91.4	1.8	70	50	◎
9	(4)	温度によって溶解度がほとんど変化しない物質を水溶液から取り出すことができる	○						○			○		39.9	14.9	70	50	▼
10		状態変化の実験結果を複数の要素から検討して、改善することができる	○						○			○		69.5	1.0	60	40	◎
11	(1)	蒸留を理解している	○						○					52.3	18.2	75	55	▼
11	(2)	蒸留の実験を安全に行うことができる	○						○					56.7	1.4	75	55	
11	(3)	物質の沸点から、蒸留したときに先に集められる物質を推定することができる	○						○					48.2	4.4	65	45	
12		密度についての知識を用いて、示された金属が何であるかを推定することができる	○						○			○		43.7	11.1	55	35	

[表5] 中学2年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,928	42.2	8.4	69.5	49.5	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物理的領域	6	39.7	3.3	69.2	49.2	▼
	化学的領域	10	38.7	9.7	66.5	46.5	▼
	生物的領域	10	53.9	5.2	72.5	52.5	
	地学的領域	5	28.6	18.4	70.0	50.0	▼
評価の観点	①思考・表現	8	29.1	5.3	60.6	40.6	▼
	②技能	7	53.1	6.2	71.4	51.4	
	③知識・理解	16	43.9	10.9	73.1	53.1	▼
問題形式	選択式	13	39.8	1.7	69.2	49.2	▼
	短答式	13	44.6	15.0	71.9	51.9	▼
	記述式	5	42.0	8.7	64.0	44.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	19.1	3.5	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域						①思考・表現	②技能	
1	(1) 凸レンズの中心を通った光の進み方を作図することができる	○				○			58.6	6.7	70	50	
1	(2) 光源の間の距離と実像との関係について理解している	○				○			27.6	0.8	70	50	▼
1	(3) 凸レンズを使ってできる虚像の特徴を理解している	○				○			25.0	0.8	70	50	▼
2	(1) 振動数(周波数)を理解している	○				○			49.8	10.2	75	55	▼
2	(2) 音の大きさと高さの違いから、オシロスコープでの音の波形を推定することができる	○				○			63.8	0.6	65	45	
3	水の量による水圧の変化について調べる実験を構想することができる	○				○	○		13.2	0.9	65	45	▼
4	(1) 石基を理解している			○		○			21.6	27.6	75	55	▼
4	(2) 等粒状組織を理解している			○		○			23.9	31.4	75	55	▼
5	(1) 堆積岩を理解している			○		○			14.8	28.2	75	55	▼
5	(2) サンゴの化石が発見された地層の当時の環境について理解している			○		○			68.5	0.9	70	50	
5	(3) 複数の地点での柱状図を分析して解釈し、地層の広がりについて推定することができる			○		○	○		14.0	3.7	55	35	▼
6	(1) 鉄と硫黄の化学変化について、化学反応式で表すことができる	○				○			45.0	19.2	70	50	▼
6	(2) 実験で発生した気体のにおいを安全な方法で確認することができる	○				○			95.8	2.4	70	50	◎
7	(1) 炭酸水素ナトリウムの熱分解を、適切な理由を基に安全に行うことができる	○				○			29.5	9.6	70	50	▼

設問別集計結果

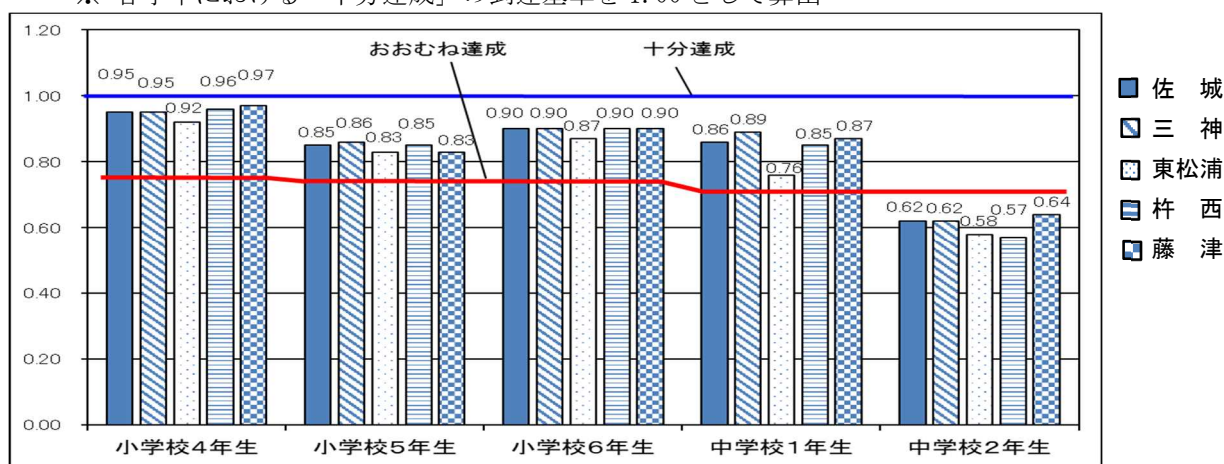
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
7	(2)	分解を理解している	○				○		○			60.5	15.2	75	55	
7	(3)	原子や分子を理解している	○				○		○			37.5	13.5	70	50	▼
8		閉鎖系において鉄を酸化させた後に、開放系にしたときの質量について推定することができる	○				○			○	○	11.1	7.0	55	35	▼
9		物質に化合する酸素の質量には限界があることを説明することができる	○				○			○		53.0	14.1	60	40	
10	(1)	酸化銅を還元する実験を安全に行うことができる	○				○		○			7.5	1.5	70	50	▼
10	(2)	酸化銅を還元する実験において、ピンチコックでゴム管を閉じる理由を説明することができる	○				○			○		20.7	10.4	65	45	▼
10	(3)	還元する実験を基に、酸素との結び付きやすさを推定することができる	○				○		○	○		26.4	3.6	60	40	▼
11	(1)	植物と動物の細胞のつくりの違いについて理解している	○				○		○			42.3	2.9	75	55	▼
11	(2)	染色液（酢酸カーミン液）を使った観察を、適切な理由を基に行うことができる	○				○		○			73.6	2.4	75	55	
12	(1)	気管を理解している	○				○		○			37.0	6.6	75	55	▼
12	(2)	横隔膜を理解している	○				○		○			57.5	16.6	75	55	
12	(3)	肺のつくりを調べるモデル実験を構想することができる	○				○		○	○		30.8	2.1	60	40	▼
13	(1)	肺静脈を理解している	○				○		○			48.1	1.8	75	55	▼
13	(2)	心臓の動きと、肺に送られる血液について理解している	○				○		○			28.3	1.8	70	50	▼
13	(3)	メダカの毛細血管を流れる血流の観察を行うことができる	○				○		○			61.8	1.5	75	55	
14	(1)	進化を理解している	○				○		○			89.7	5.7	75	55	◎
14	(2)	相同器官を理解している	○				○		○			70.1	10.4	70	50	◎

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校4年生以外の4学年で地域差が縮小している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生 理科	H30[12月]	1.00	1.00	0.97	1.02	1.03	拡 0.06
	H29[12月]	1.00	1.01	0.97	1.02	1.02	0.05
小学校5年生 理科	H30[12月]	1.00	1.02	0.97	1.00	0.98	縮 0.05
	H29[12月]	0.99	1.03	0.97	1.00	1.02	0.06
小学校6年生 理科	H30[12月]	1.00	1.01	0.98	1.01	1.00	縮 0.03
	H29[12月]	0.98	1.01	0.99	1.02	1.04	0.06
中学校1年生 理科	H30[12月]	1.02	1.04	0.90	1.00	1.03	▲ 縮 0.14
	H29[12月]	1.03	1.06	0.91	0.95	1.03	▲ 0.15
中学校2年生 理科	H30[12月]	1.02	1.03	0.96	0.95	1.05	▲ 縮 0.10
	H29[12月]	1.02	1.04	0.92	0.99	1.01	▲ 0.12

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

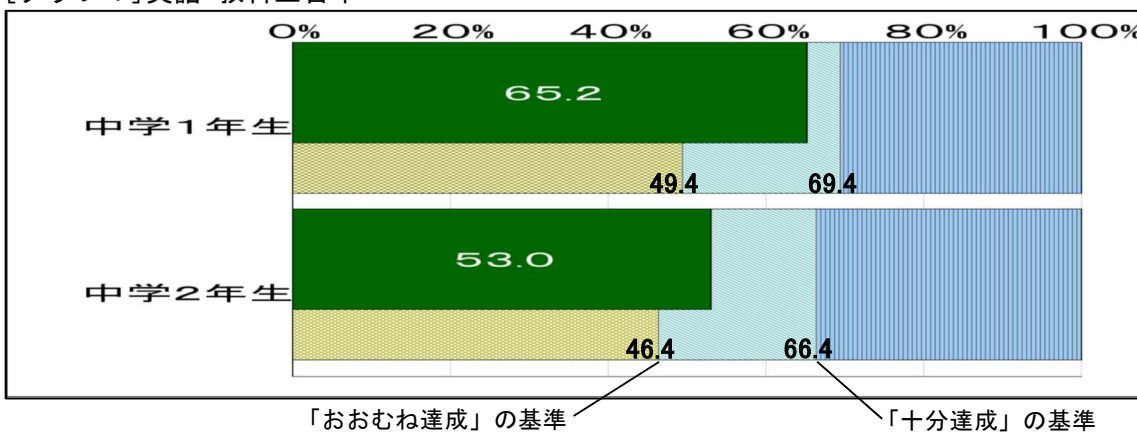
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

英 語

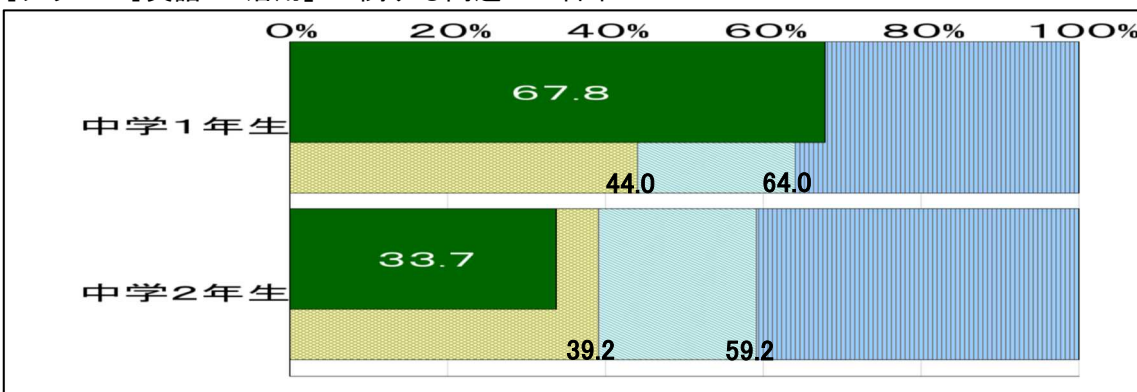
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学1年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、「外国語表現の能力」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、「聞くこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に中学1年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書くこと」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6、7]

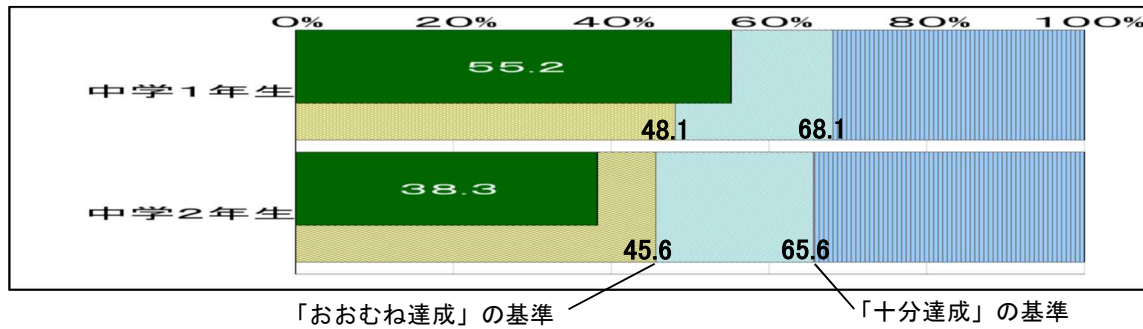
[グラフ1] 英語 教科正答率



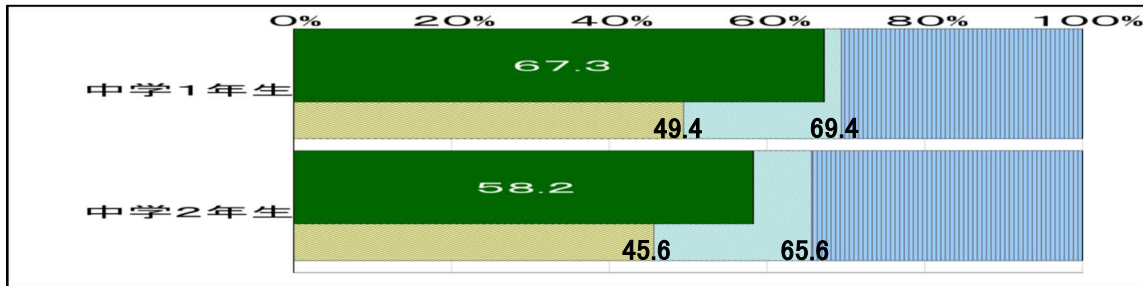
[グラフ2] 英語 「活用」に関する問題の正答率



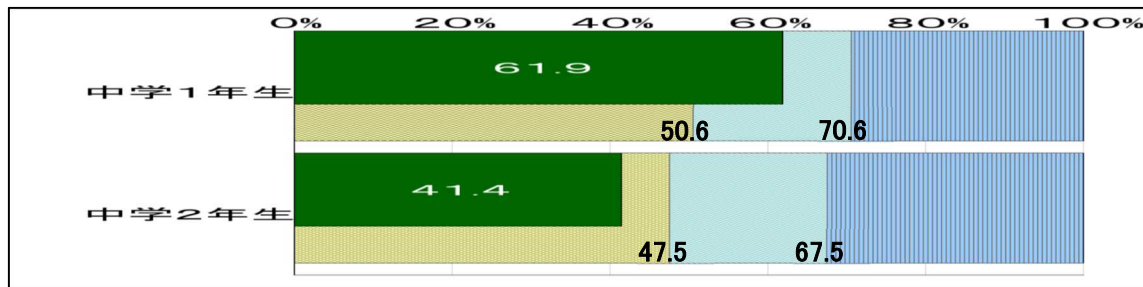
[グラフ3] 英語 「外国語表現の能力」 観点の正答率



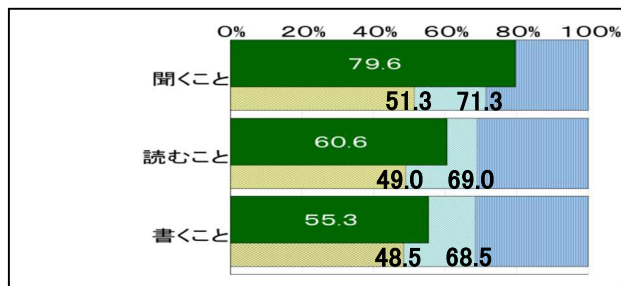
[グラフ4] 英語 「外国語理解の能力」 観点の正答率



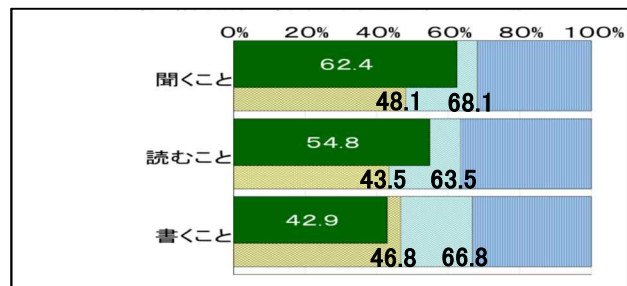
[グラフ5] 英語 「言語や文化についての知識・理解」 観点の正答率



[グラフ6] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ7] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


中学校英語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 対話を聞いて、適切に応じる力が、身に付いている。
(中学1年生²(1)(2)、中学2年生²(1)(2))
- ◇ 説明文を読んで、中心的な内容を理解したり、対話文を読んで話し手の伝えようとしていることを正確に理解したりすることができている。
(中学1年生⁷(2)、中学2年生⁶(1))
- ◆1 まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解することに課題が見られる。
(中学2年生³(1))
- ◆2 疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書いたり、語と語のつながりに注意して正しく書いたりすることに課題が見られる。
(中学1年生¹⁰(2)、中学2年生⁸(1)(2))
- ◆3 メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことに一部課題が見られる。
(中学2年生¹²(2))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 内容的にまとまりのある複数の英文を聞かせる際に、聞く必然性をもたせるために、全体の概要や内容の要点など、聞き取るポイントとして何を捉えるかを具体的に発問した上で、必要な情報を理解できるようにしていますか。
 - 聞いて得た情報を整理して、人に伝えてやり取りしたり、書いてまとめたりして、内容をどれくらい理解したかを、生徒自身が確認できるような振り返りの活動を設定していますか。
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 授業や活動の導入での **Teacher talk** を用いて、生徒が疑問文の意味や使用場面について考えることができるようにしていますか。
 - 教科書の基本文や本文にある疑問文を学習するときに、実際のコミュニケーション場面を想定した **Q & A making and Solving** などを設定し、生徒が試行錯誤しながら発話を考えることで **Intake** できる活動を設けていますか。
 - クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、予め質問と応答を原稿に書かせたり、即興で質問と応答をさせたことを書かせたりして、**Speaking** と **Writing** を関連付けさせるような **Output** 活動を行っていますか。
 - 言語活動を行う際に、生徒の発話を録画して視聴させたり、発話したことを書かせたりすることで、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文になっているか見直せるような工夫を行っていますか。
 - 生徒が書いた英文を、疑問文の構造を理解し、正しい語順や語法で文を書いているか、教師が適時チェックし **Feedback** していますか。
- ◆3 メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 英文を読ませる際に、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解が深まるような活動を取り入れていますか。
 - 英文を読ませる際に、自分なりの感想を述べ、その理由を添えさせることで、読んだことを基に「やり取り」ができるような活動を取り入れていますか。
 - 英文を書かせる際に、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように、文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書かせるようにしていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校英語科）

- ◆ 2 疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書いたり、語と語のつながりに注意して正しく書いたりすることに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 10 (2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く。 (記述式)	絵に描かれている場面で、対話が成り立つように、吹き出しの空欄部に2語以上の英文を書く。	42.9	17.4	65.0	45.0

【正答の条件】

対話が成り立つ文について、2語以上で、語順、文頭の大文字、綴りの全てが正しく書かれているもの。

(準正答 対話が成り立つ文について、2語以上で、語順が正しく書かれているが、次の条件(綴りの誤り(複数あっても構わない)がある、大文字・小文字の誤り(複数あっても構わない)がある、文末にクエスチョンマークを書いている)のうち、1つ以上当てはまるもの。)

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・ 単語を書くこと自体はできているが、“He is likes music”のように語順や動詞に誤りがあり、正しい英文を書くことができていない。
- ・ 描かれている場面の理解は一部できているが、“Who are you”のように対話が成り立つ文を書くことができていない。
- ・ 描かれている場面の理解はできているが、“Who is boy”のように形容詞の that が脱落しており、正しい英文を書くことができていない。

■ 改善・充実に向けて

描かれている場面の理解はできていますが、疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・ 授業や活動の導入での **Teacher talk** を用いて疑問文の使用場面を示すことで、生徒が疑問文の意味や使用場面について考えることができるようにする。
- ・ 教科書の基本文や本文にある疑問文を学習するときに、生徒が試行錯誤しながら発話を考えることで、疑問文の構造を理解し、正しい表現を **Intake** できる活動を授業に位置付ける。**Q & A making and Solving** などのコミュニケーション活動を設定することで、対話が成立するためには、正しい表現が必要になることに気付くことができるようにする。
- ・ クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、**Speaking** と **Writing** を関連付けさせるような **Output** 活動を授業に位置付ける。その際、正しい表現での質問と応答をあらかじめ原稿に書いて話したり、即興で質問したり応答したりしたことを書かせたりすることで、状況にあった表現に気を付けながら話したり書いたりすることができるようにする。
- ・ 言語活動を行う際に、生徒の発話を録画して視聴させたり、発話したことを書かせたりすることで、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文になっているか見直す活動を授業に位置付ける。
- ・ 生徒が話す表現や、生徒が書いた英文を、教師が適時チェックし **Feedback** するようにする。

◆ 3 メールを書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書くことに一部課題が見られる。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問12 (2)	メールの書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書く。 (記述式)	外国の中学生からのメールを読み、その返信として、自分の意見や感想を1文と、自分の考えを3文で書く。	36.5	25.7	55.0	35.0

【正答の条件】

意見や感想1文が、メールの内容に関連しており、返信としてふさわしく、つながりがよいあなたの考えが3文ある。
(準正答 意見や感想1文が、メールの内容に関連しており、返信としてふさわしく、つながりがよいあなたの考えが2文ある。)

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・メールの内容を理解することはできているが、“Nice e-mail.”のように、3語以上の一文で意見や感想を書くことができていない。
- ・メールの内容の理解はできており、“I want to be a cook in the future, too. But I have to study.”のようにメールの内容に関連しているものの、話題に一貫性のあるつながりがよい英文を書くことができていない。
- ・メールの内容の一部は理解できているが、“I’m go to work experience too.”のように、文構造や動詞の時制に誤りがあり、意味が理解できる英文を書くことができていない。

■ 改善・充実に向けて

メールの内容は理解できていますが、読んだ内容に対して自分の意見や感想とその理由としての自分の考えを、つながりのよい英文で書くことに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・英文を読ませる際に、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解が深まるような活動を授業に位置付ける。例えば、「誰からのメールですか。」「どんな内容でしたか。」「職場体験での感想を教えてください。」などの発問をすることで、生徒がメールの内容を理解し、返事について考えることができるようにする。
- ・英文を読ませる際に、自分なりの感想を述べ、その理由を添えさせることで、読んだことを基に「やり取り」ができるような活動を授業に位置付ける。必要に応じて、①I like tennis very much. (思っていること) ②I want to be a tennis player. (将来について) ③I practice it hard every day. (現在のこと) のように例を示し、自分の考えを3文以上で伝えさせるようにする。活動を通して、話す内容にまとまりがあると、聞き手に対して分かりやすくなることに気付くことができるようにする。
- ・英文を書かせる際に、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように、文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書かせるような活動を授業に位置付ける。「やり取り」の内容を、必要に応じて、教科書やワークシートを参考にしながら、正しい英文で書かせるようにする。その英文を、教師が適時チェックし Feedback するようにする。この一連の流れから、生徒が相手意識をもち、適切な表現に気を付けて、話したり書いたりすることができるようにする。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 中学1年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,806	65.2	5.9	69.4	49.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	79.6	0.5	71.3	51.3	◎
	読むこと	10	60.6	6.1	69.0	49.0	
	書くこと	10	55.3	11.7	68.5	48.5	
評価の観点	①表現	8	55.2	13.3	68.1	48.1	
	②理解	16	67.3	4.0	69.4	49.4	
	③言語・文化	9	61.9	9.3	70.6	50.6	
問題形式	選択式	13	75.5	0.7	69.6	49.6	◎
	短答式	5	52.1	11.2	71.0	51.0	
	記述式	8	56.5	11.1	68.1	48.1	
活用	「活用」に関する問題	5	67.8	5.0	64.0	44.0	◎

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 表から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			74.7	0.5	75	55	
1	(2) 表から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			91.1	0.4	75	55	◎
1	(3) 対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○			93.9	1.6	75	55	◎
2	(1) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			78.8	0.4	70	50	◎
2	(2) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			85.2	0.3	70	50	◎
3	(1) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			87.3	0.3	70	50	◎
3	(2) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			61.4	0.4	70	50	
4	聞いて得た複数の情報を関連付けながら理解する	○				○		○	○		64.5	0.3	65	45	
5	(1) 対話文を読んで、対話の流れに合った発言の内容を捉える	○				○		○			70.8	1.0	70	50	◎
5	(2) 対話文を読んで、相手の発言に応じた発言の内容を捉える	○				○		○			74.2	0.9	70	50	◎
6	説明文を読んで得た複数の情報と絵から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			76.6	0.7	70	50	◎
7	(1) 説明文を読んで、話の展開に応じた語を捉える	○				○		○			18.6	13.3	70	50	▼
7	(2) 説明文を読んで、中心的な内容を捉える	○				○		○	○		76.0	1.1	65	45	◎
8	(1) 対話文を読んで、大切な部分を理解する	○				○		○			46.9	13.0	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				記述式	十分達成	
8	(2)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○						○			59.2	1.5	70	50	
8	(3)	対話文を読んで、発言の意図をつかむ	○						○		○	82.4	1.2	65	45	◎
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○					○			66.6	11.0	70	50	
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○					○			34.4	17.0	70	50	▼
10	(1)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○						○		56.8	12.1	65	45	
10	(2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○						○		42.9	17.4	65	45	▼
11	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○						○		52.4	5.6	70	50	
11	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○						○		59.4	5.3	70	50	
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○						○		74.6	9.3	75	55	
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○						○		49.6	17.0	75	55	▼
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○						○	○	56.1	15.7	65	45	
13		自己紹介の文に、相手に対する質問を加えた、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○						○	○	60.3	6.7	60	40	◎

[表2] 中学2年生 英語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,922	53.0	9.1	66.4	46.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	62.4	2.8	68.1	48.1	
	読むこと	10	54.8	11.3	63.5	43.5	
	書くこと	11	42.9	13.1	66.8	46.8	▼
評価の観点	①表現	8	38.3	16.6	65.6	45.6	▼
	②理解	18	58.2	7.5	65.6	45.6	
	③言語・文化	8	41.4	14.4	67.5	47.5	▼
問題形式	選択式	15	63.8	1.3	67.7	47.7	
	短答式	2	54.1	14.0	67.5	47.5	
	記述式	11	38.0	18.8	64.5	44.5	▼
活用	「活用」に関する問題	6	33.7	23.3	59.2	39.2	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)① 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			83.6	0.3	75	55	◎
1	(1)② 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			96.9	0.3	75	55	◎
1	(2) 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			48.5	18.5	70	50	▼
2	(1) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			90.4	0.4	70	50	◎
2	(2) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			67.3	0.4	65	45	◎
3	(1) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			17.5	0.7	65	45	▼
3	(2) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○			50.7	1.2	65	45	
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○			○			○	○		44.7	0.8	60	40	
5	(1) 表から読み取った情報と対話の展開を関連付けて、対話の内容を理解する	○			○			○			65.5	1.0	70	50	
5	(2) 対話文を読んで、その後の展開を考える	○			○			○			62.6	1.4	65	45	
6	(1) 対話文を読んで、話し手の伝えようとしていることを正確に理解する	○			○			○			77.3	1.2	65	45	◎
6	(2) 対話文を読んで、人称代名詞が指す人物を理解する	○			○			○			59.7	9.5	65	45	
6	(3) 前後の対話の流れに基づいて、人物の発言を考える	○			○			○	○		41.0	27.7	60	40	
7	(1) 説明文を読んで、要点を正確に理解する	○			○			○			64.8	1.7	70	50	

設問別集計結果

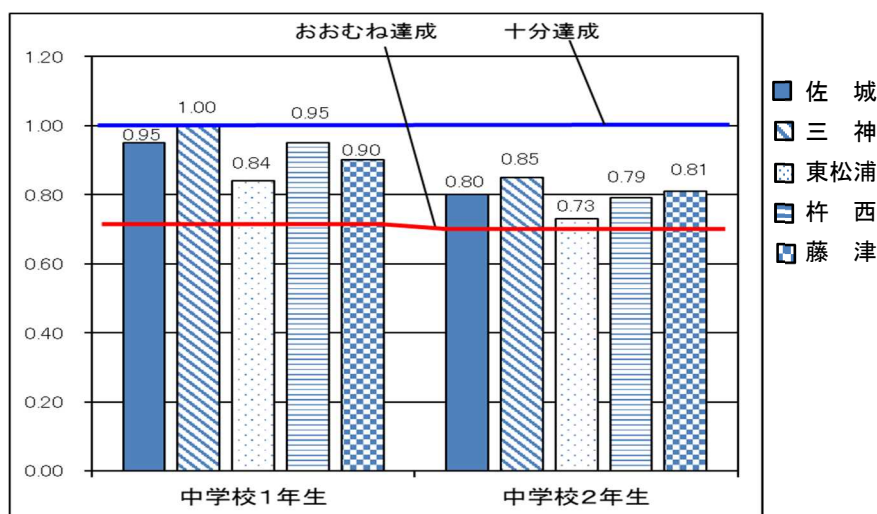
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
7	(2) 説明文に書かれている意見に対する賛否を、その理由から判断する	○				○			○			49.5	2.3	60	40	
7	(3) A L T の話を受けた感想の要点を考える	○				○				○	○	9.9	38.0	55	35	▼
8	(1) 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		26.6	16.8	65	45	▼
8	(2) 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○			○	○			○		19.8	26.8	65	45	▼
9	(1) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		66.3	3.6	70	50	
9	(2) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		79.2	3.7	70	50	◎
9	(3) 対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		20.5	4.2	70	50	▼
10	(1) 一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○			○			49.3	1.7	70	50	▼
10	(2) 一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文を作る		○			○			○			55.1	1.6	70	50	
11	(1) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○		48.6	13.1	75	55	▼
11	(2) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	36.3	19.7	65	45	▼
11	(3) 質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○			○	○	33.7	27.6	60	40	▼
12	(1) メール本文の内容を正しく理解する	○				○			○			81.2	4.0	70	50	◎
12	(2) メール書き手の意向を理解し、内容的にまとまりのある返信を書く	○	○			○	○			○	○	36.5	25.7	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、中学校1年生、中学校2年生ともに5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ8]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表3]のとおりで、中学校1年生、中学校2年生ともに地域差が大きい。また、平成29年度12月調査と比べて中学校2年生で地域差が縮小し、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ8] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表3] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
中学校1年生	英語	H30[12月]	1.01	1.07	0.89	1.01	0.96	▲ 拡 0.18
		H29[12月]	1.00	1.05	0.90	1.03	1.01	▲ 0.15
中学校2年生	英語	H30[12月]	1.00	1.07	0.92	0.99	1.01	▲ 縮 0.15
		H29[12月]	1.02	1.08	0.89	0.99	0.98	▲ 0.19

- ※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出
- ※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す
- ※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す
- ※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

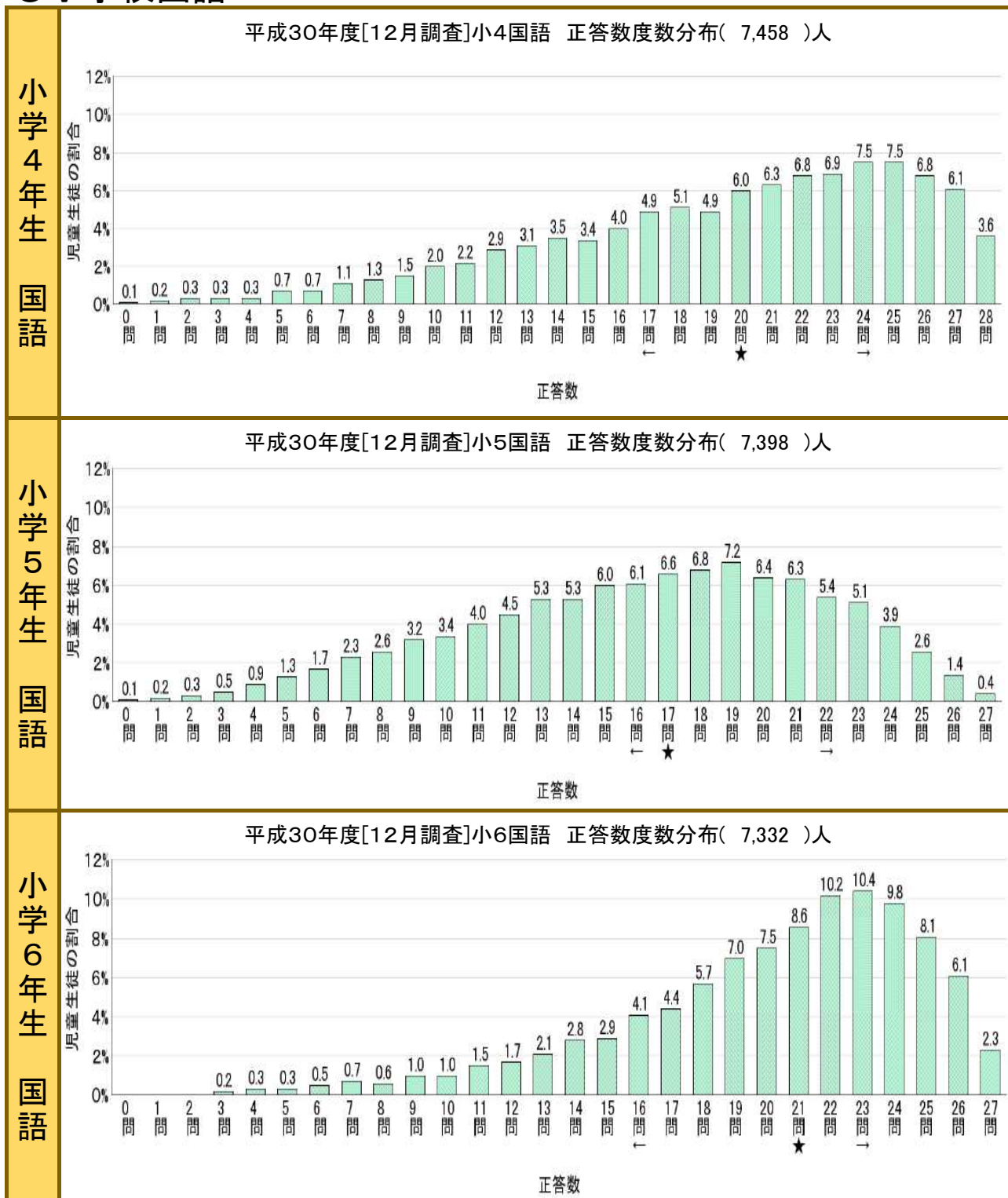
【補足資料】

- ◎ 教科に関する調査
各学年・教科ごとの正答数度数分布

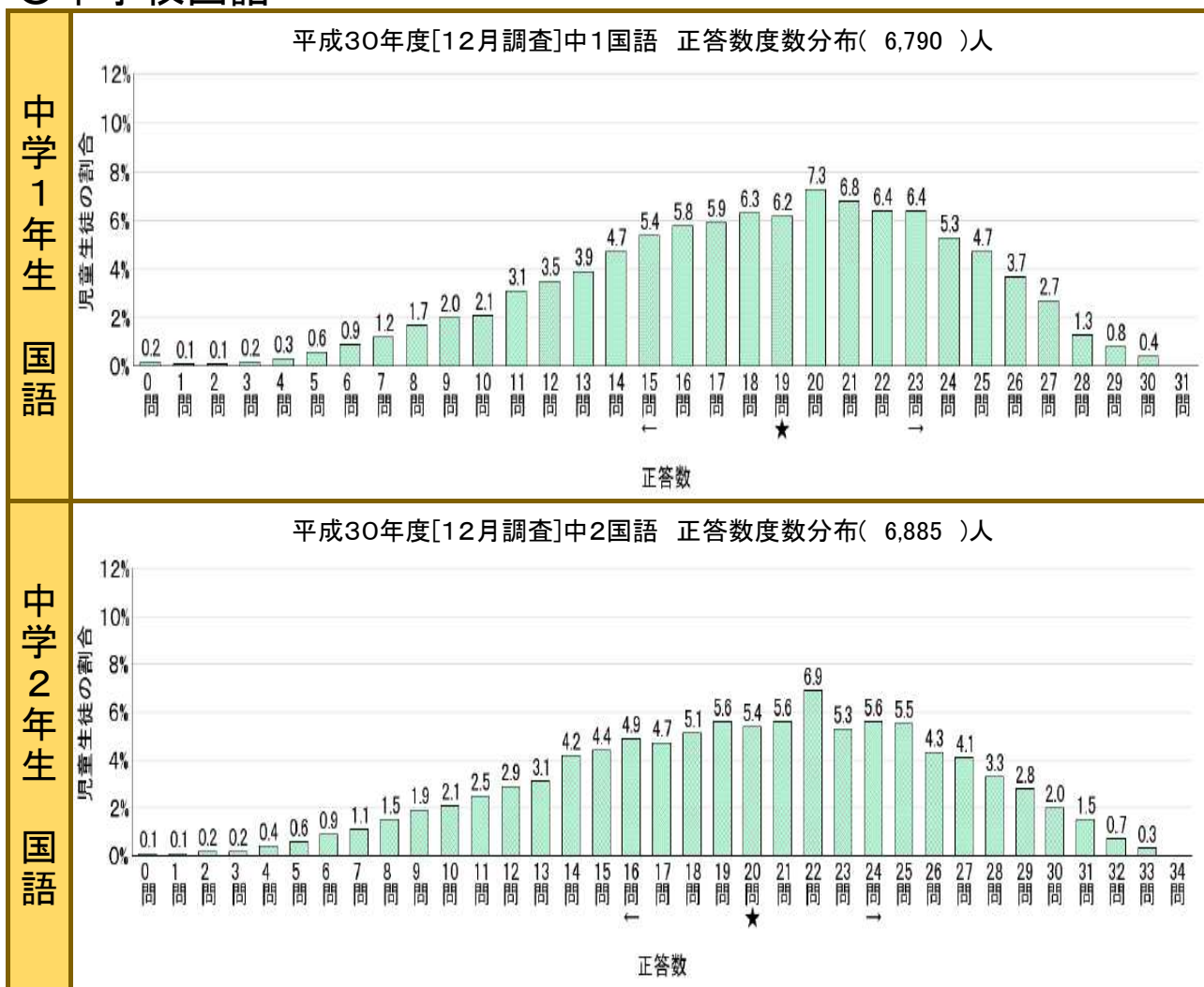
正答数度数分布の状況を示す。

正答数の下にある★印のついた正答数以上が、県正答率を上回っていることを示している。

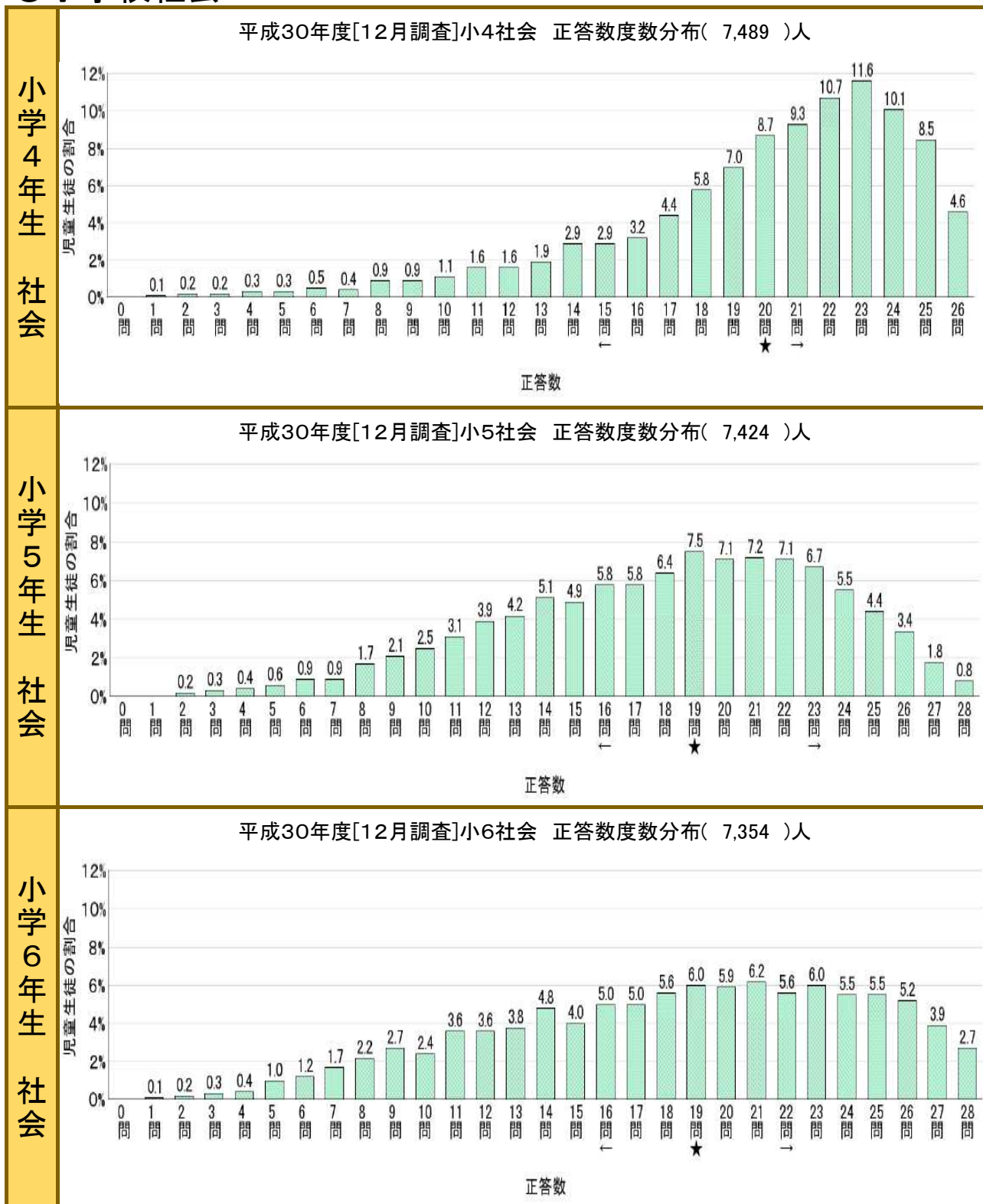
○小学校国語



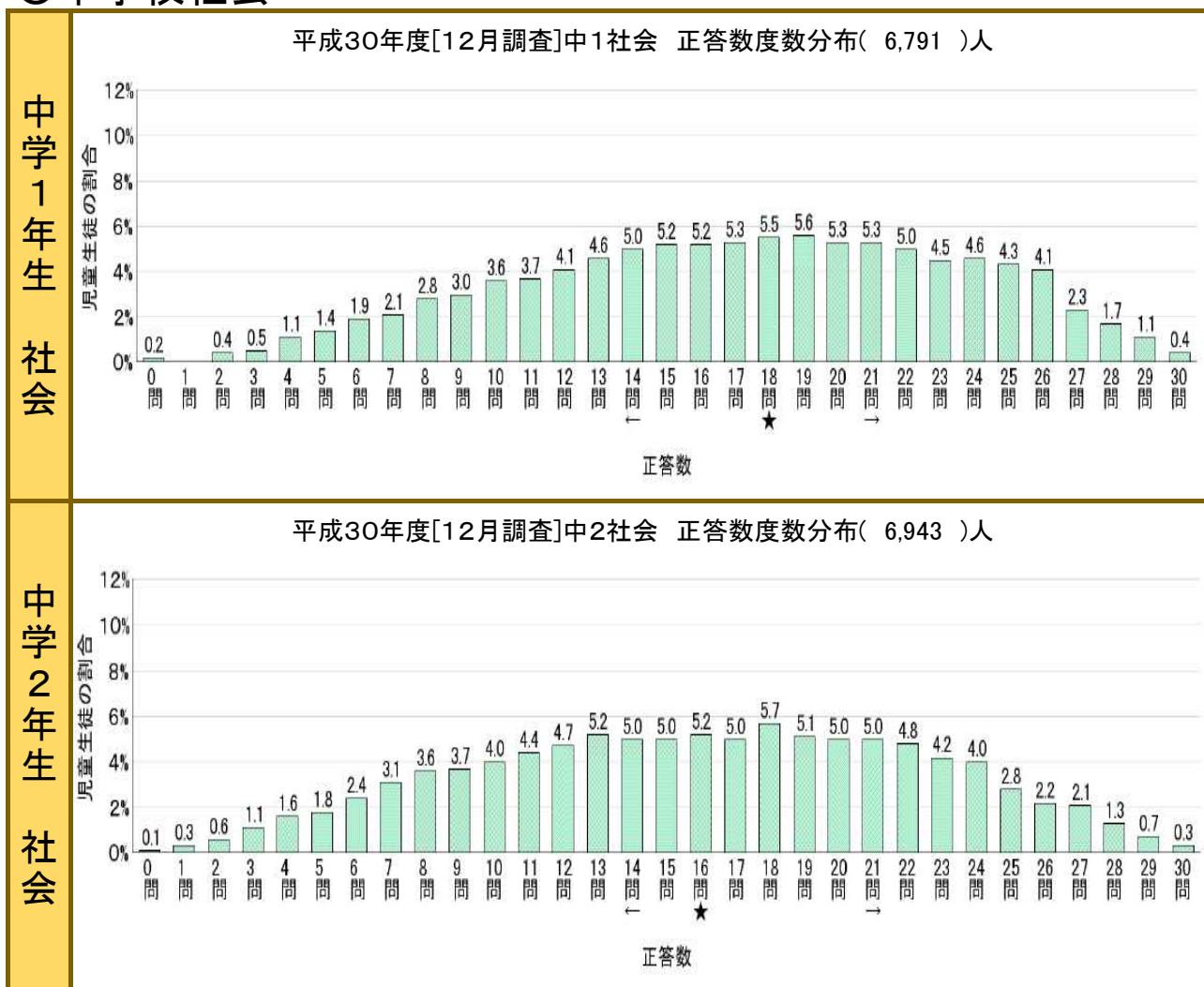
○中学校国語



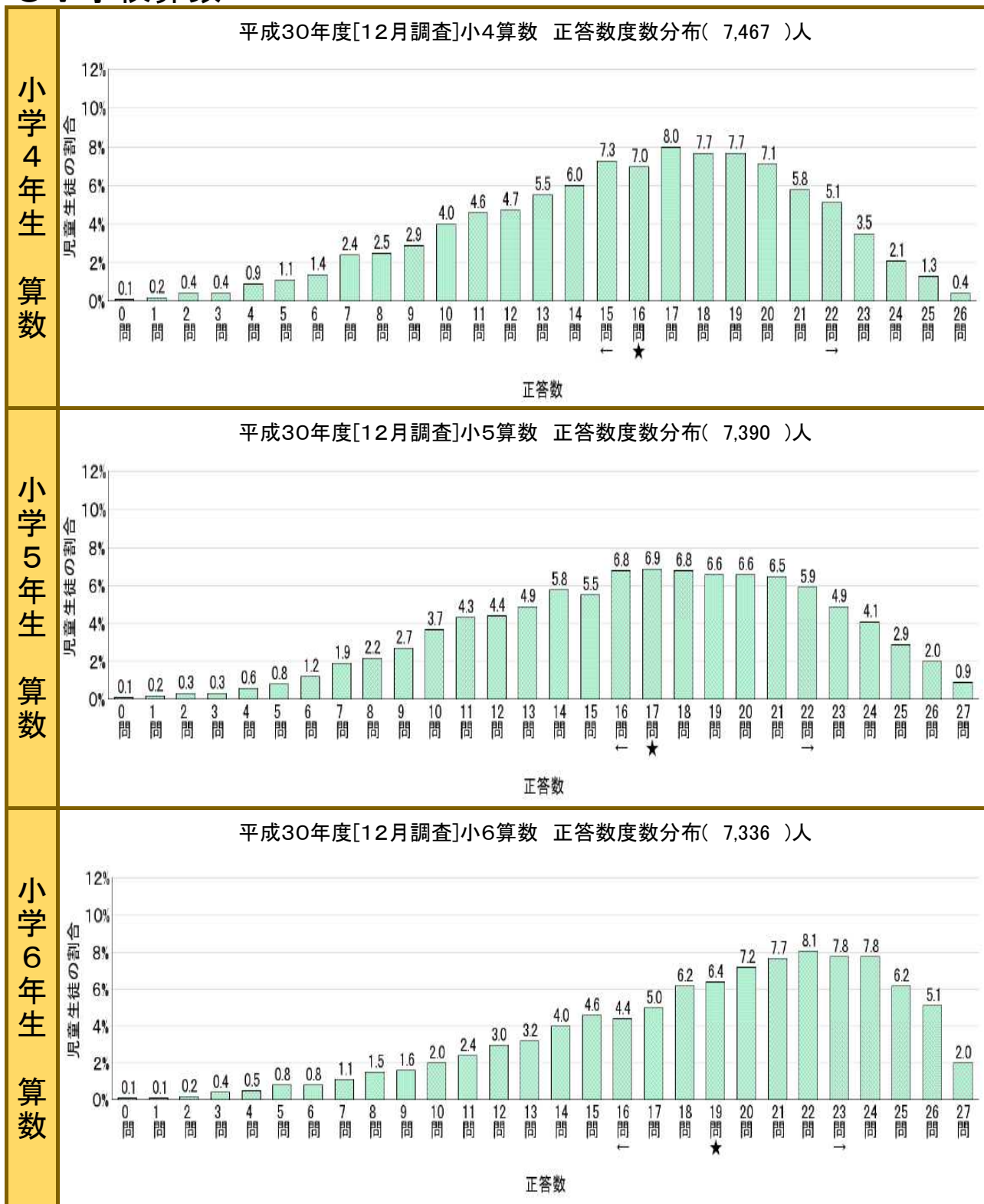
○小学校社会



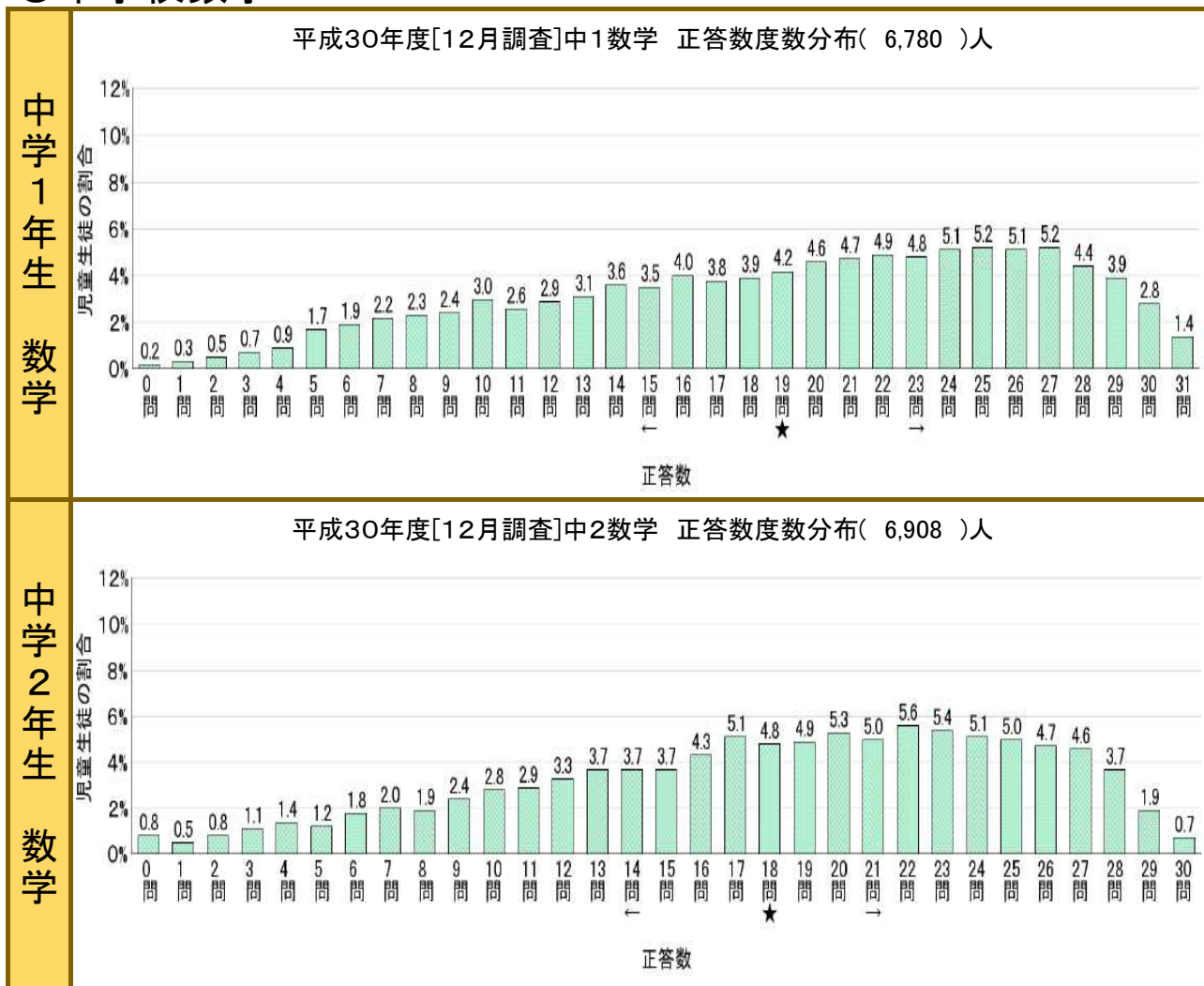
○中学校社会



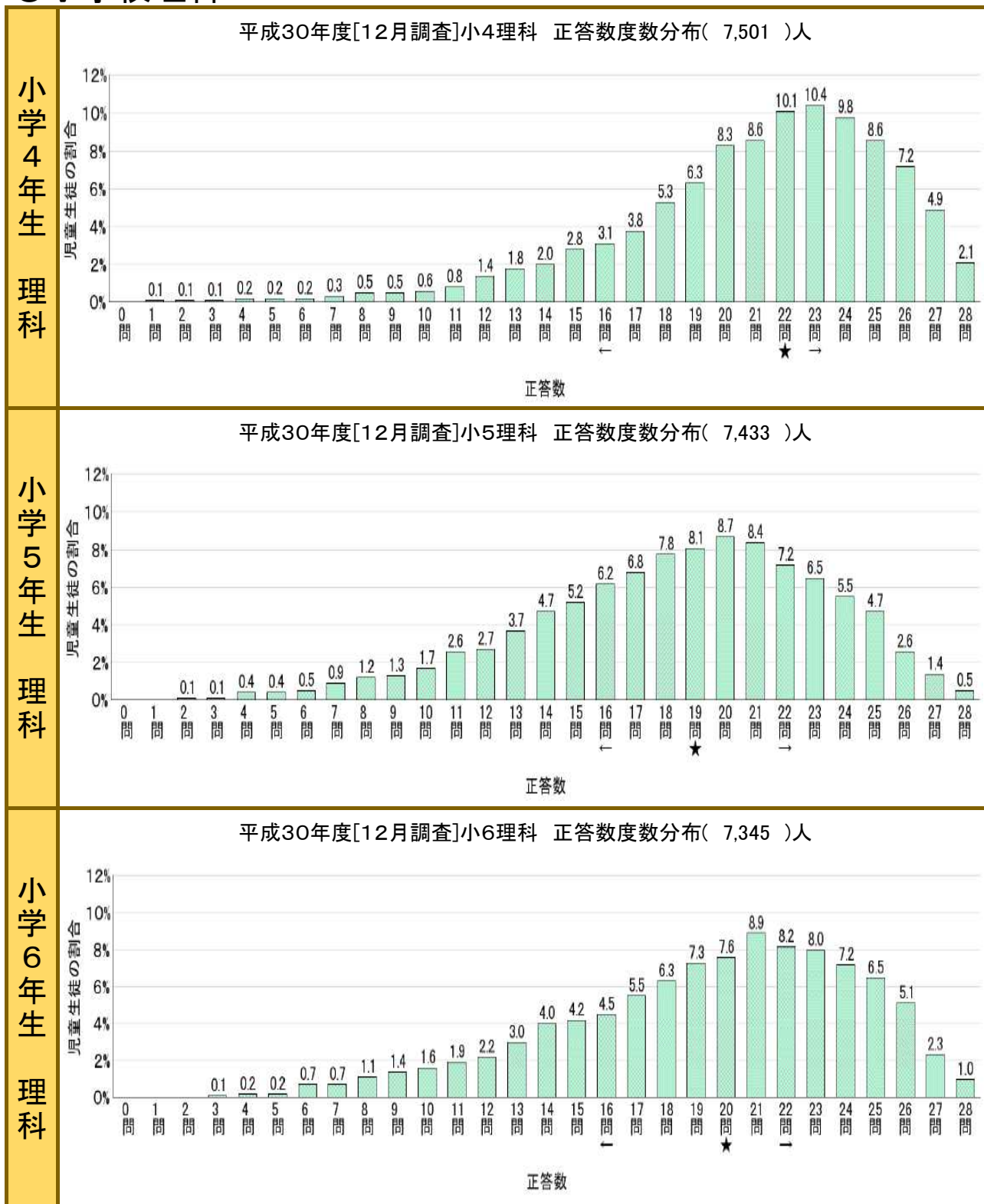
○小学校算数



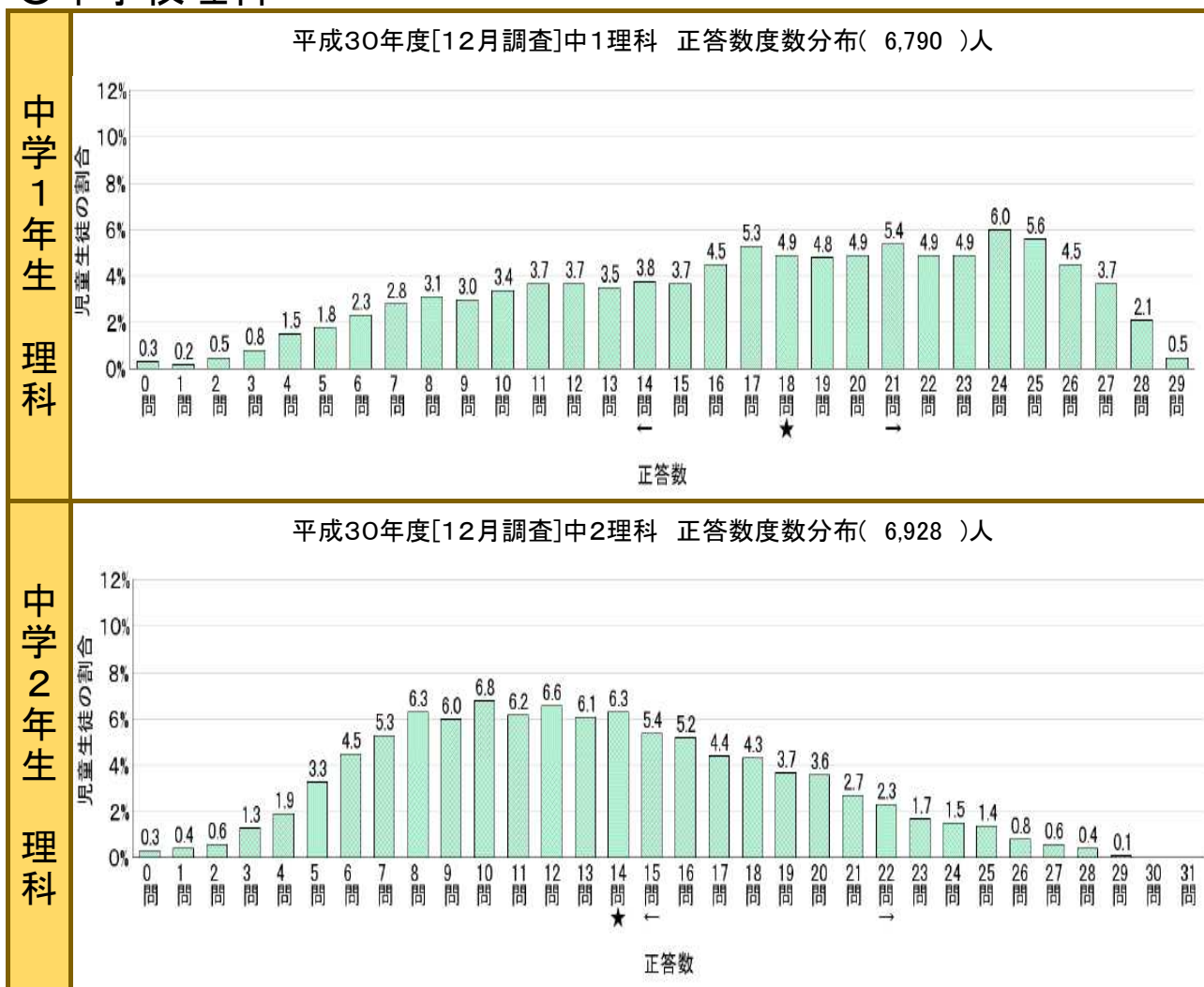
○中学校数学



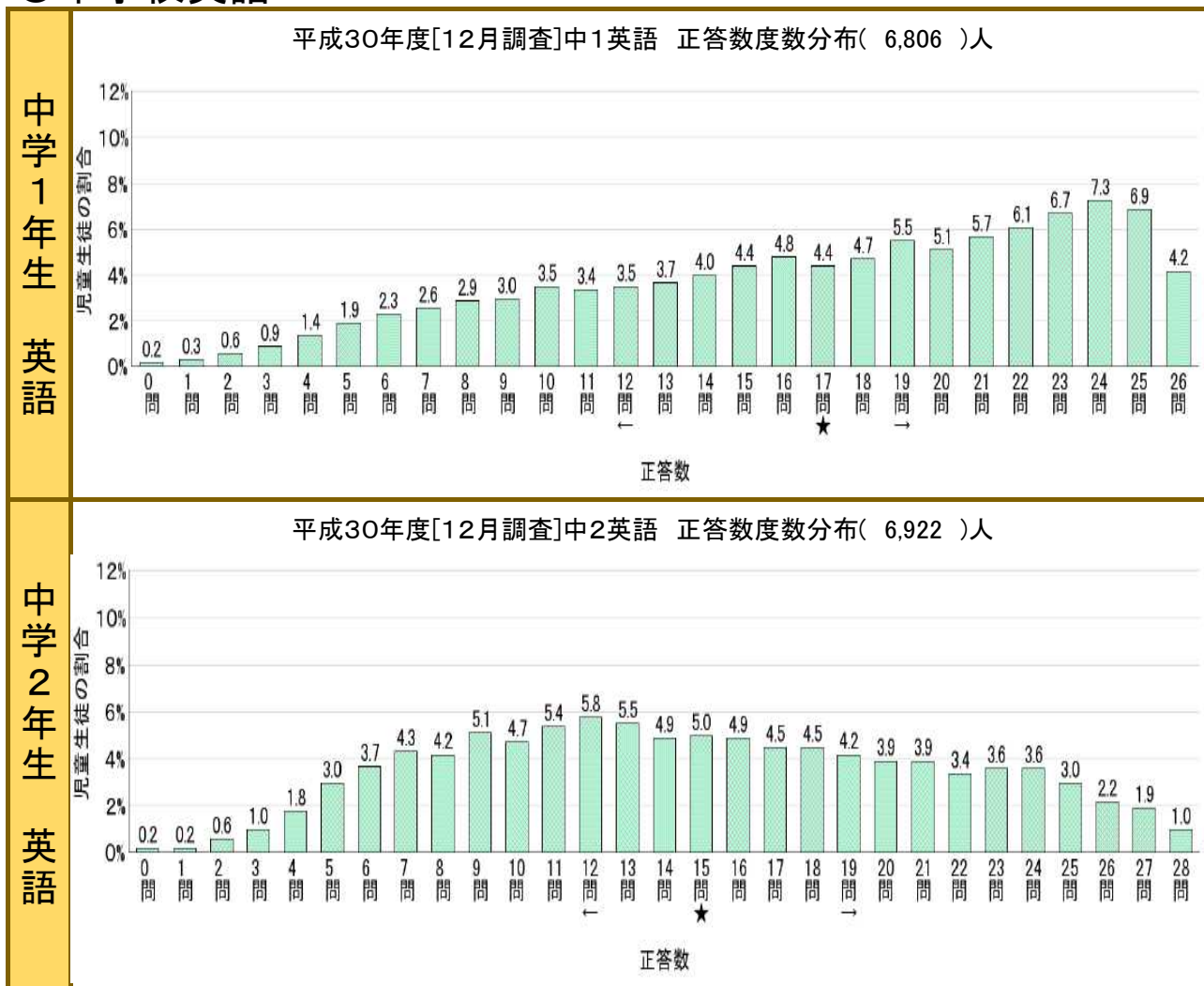
○小学校理科



○中学校理科

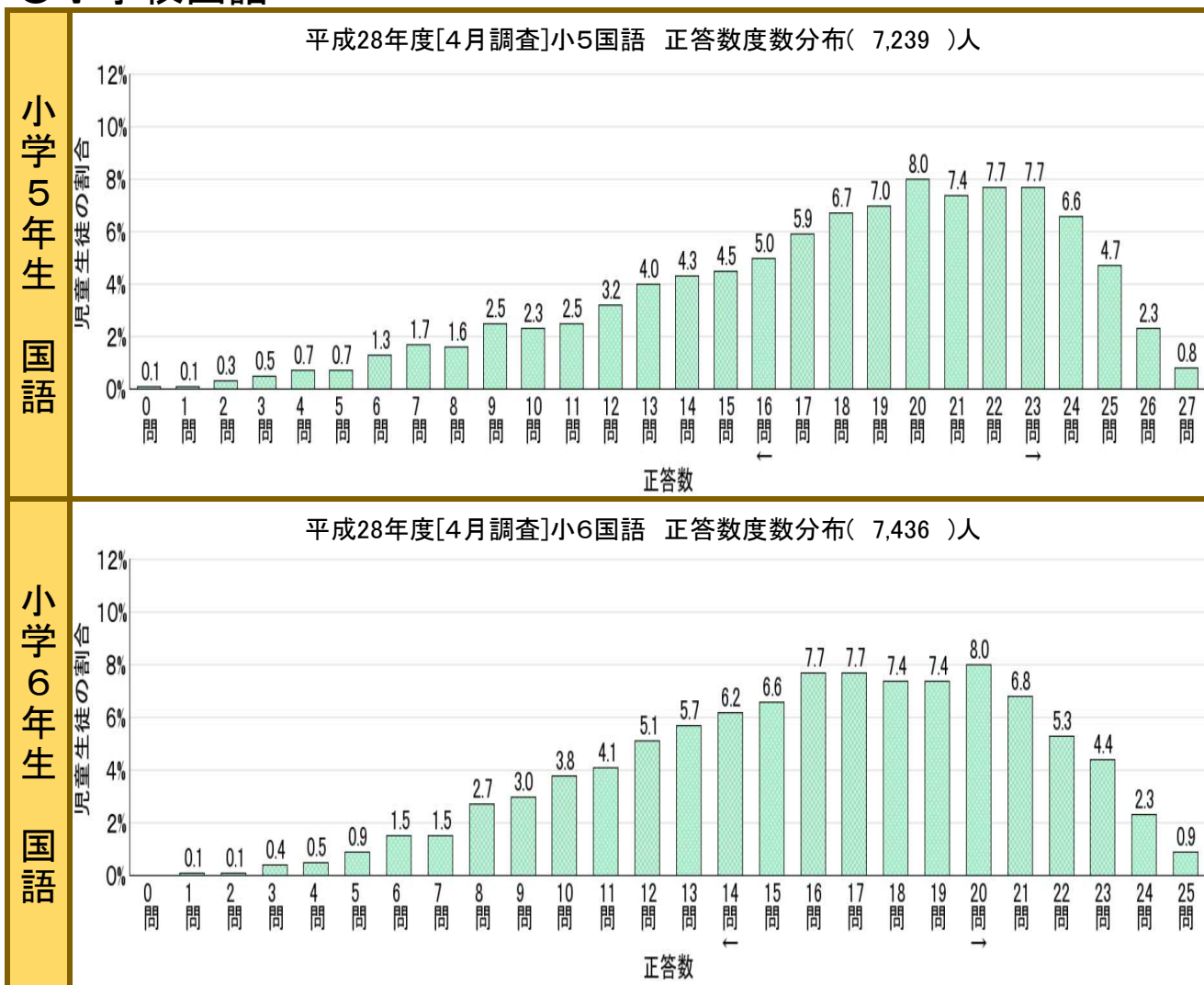


○中学校英語

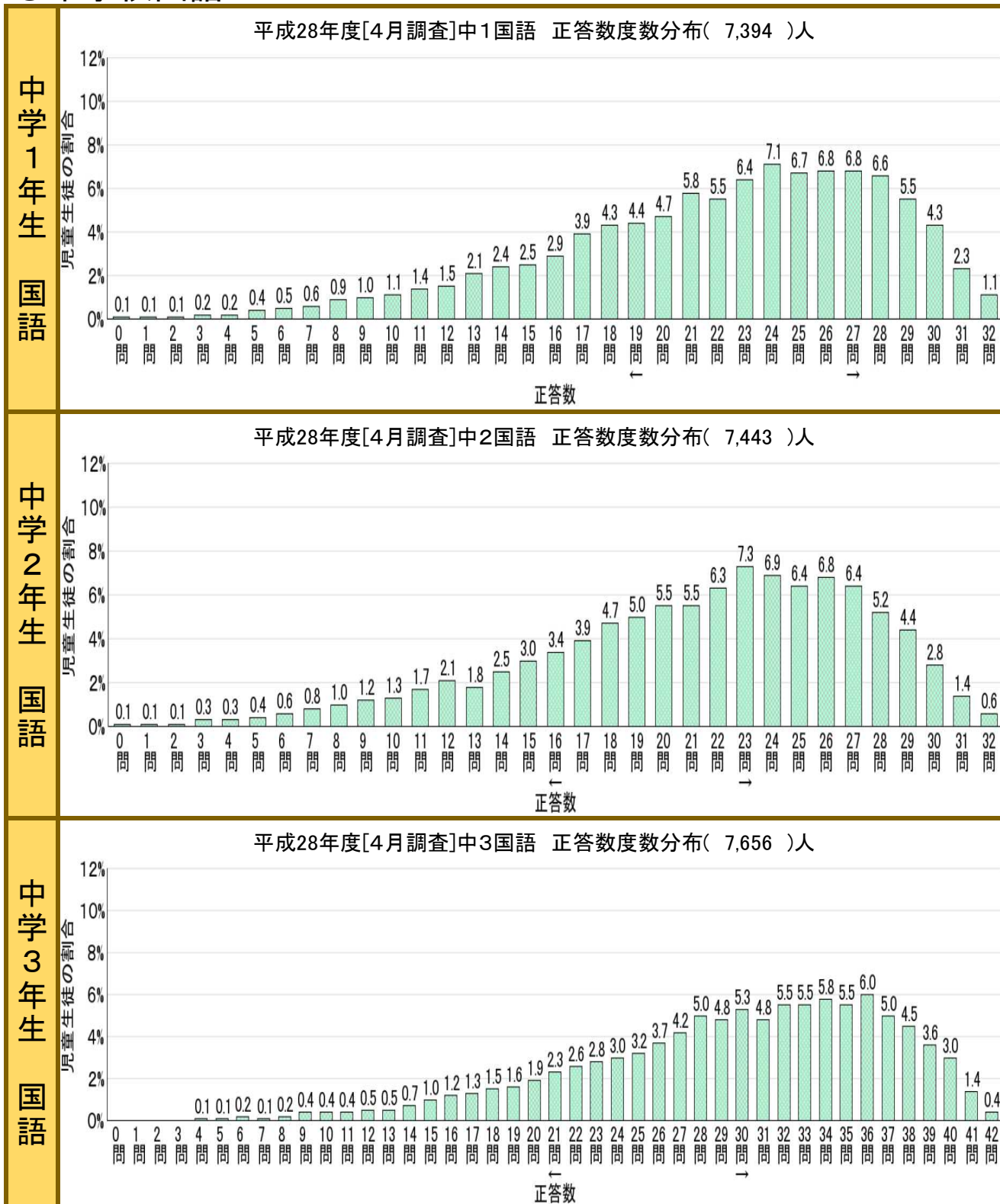


正答数度数分布の状況を示す。

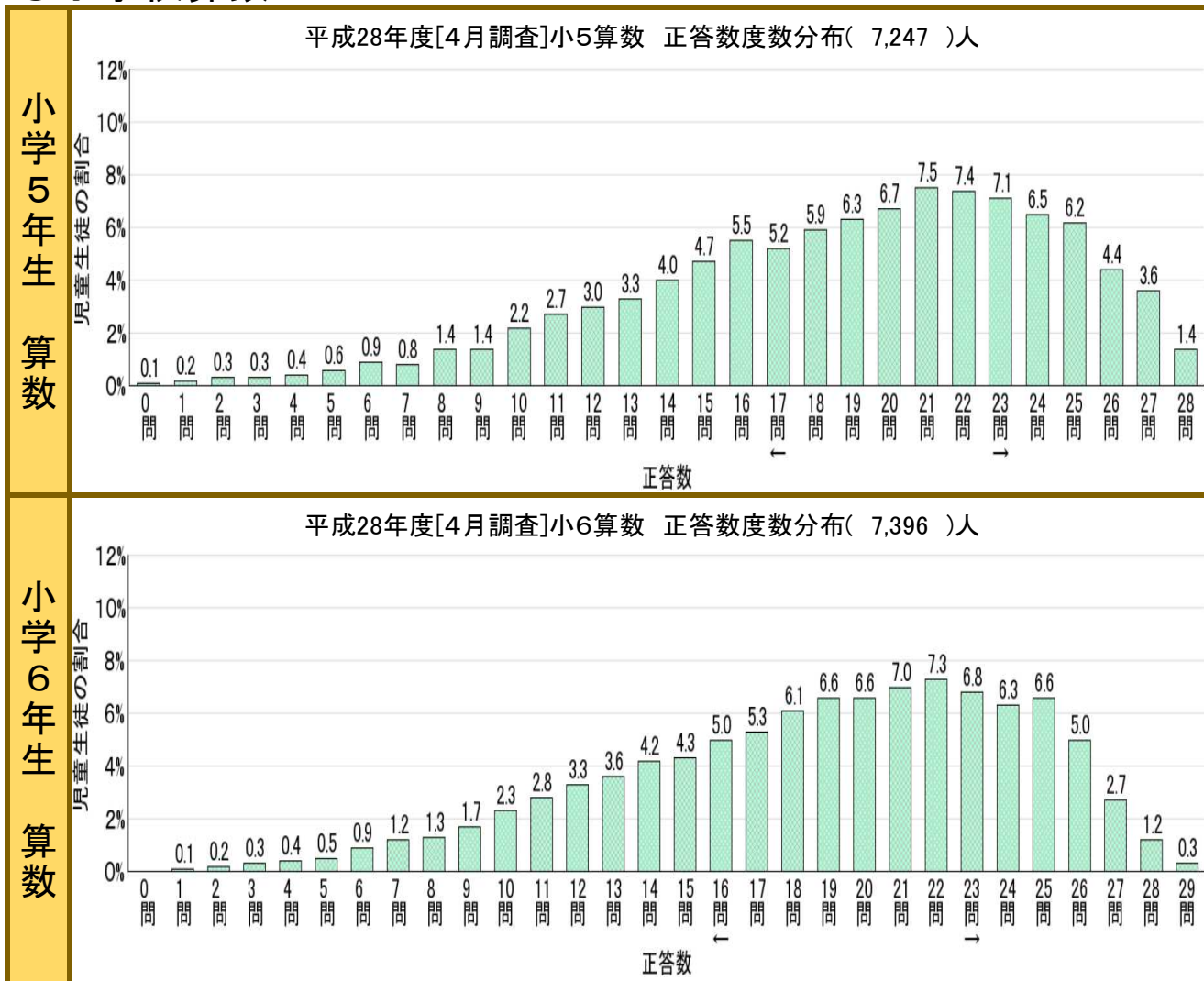
○小学校国語



○中学校国語



○小学校算数



○中学校数学

